根源仏典
11

真理の流れに入ること
に関係づけられた経典

Sotāpatti-Saṁyutta

責任監修　真理の御魂（みたま）　最聖　麻原彰晃尊師
訳　サキャ神賢直説根原仏典翻訳チーム

根源仏典 11

真理の流れに入ること
に関係づけられた経典

Sotāpatti-Saṁyutta

責任監修 真理の御魂（みたま） 最聖 麻原彰晃尊師
訳 サキャ神賢直説根源仏典翻訳チーム

序

一九九二年四月に、わたしは、「関係づけられた経典の部門(サンユッタ・ニカーヤ)」の翻訳を世に出したいと考えた。しかしその計画は一年遅れ、九三年四月に現象化することができた。特に今月は、『道に関係づけられた経典』、そして『絶対の真理に関係づけられた経典』、そして『真理の流れに入ることに関係づけられた経典』の三冊を出すことができることは、わたしにとって大変な喜びである。

この『道に関係づけられた経典』の全体を読むことにより、サキャ神賢の教えがどのようなものであり、そして、それを実践することによりどのような利益があるのか、ということをわ

たしたちは如実に知ることができるだろう。

また、『絶対の真理に関係づけられた経典』を読むことにより、真理とは何であるか、つまり、サキャ神賢の説く真理とは何であるかを如実にわたしたちは理解することができるであろう。この『絶対の真理に関係づけられた経典』の内容は、現在、日本でいわれている「真理とは、聖なる八段階の道（八正道）である」と説く、他宗派の誤った見解を粉砕するに十分な内容であるということができる。つまり真理とは、「善・徳・寂静・法則の実践という四つの修行実践を土台とし、完全なる煩悩破壊を行ない、それによって、すべてが実体がないことを悟り得る道である。その方法である。そしてその結果である」ということを理解することができるからである。

また、『真理の流れに入ることに関係づけられた経典』によっ

て、帰依とは何であるか、信とは何であるかということを、わたしたちははっきりと理解することができるはずである。

この三冊の経典は、三冊セットで皆さんが読み、そして、記憶していただいたら、サキャ神賢の教えの全貌のかなりの部分を理解することができるはずである。

願わくばわたしと、わたしの翻訳チームの功徳が、すべての衆生を利しますように。そしてもし、万が一経典の過ちが生じた場合、そのすべてのカルマはわたしに還元されますように。

麻原彰晃

一九九三年　四月十六日

根源仏典11
真理の流れに入ることに関係づけられた経典
(ソーターパッティ・サンユッタ)

目次

※『真理の流れに入ることに関係づけられた経典（Sotāpatti-Saṁyutta）』の翻訳は、Pali Text Society の『Saṁyutta Nikāya Vol.V』をテキストとした。なお、確実に誤植と思われるところは、（　）内で正しい言葉を補うことにした。

第十一　真理の流れに入ることに関係づけられた経典
（ソーターパッティ・サンユッタ）

第一　竹門品

【一】第一　国王

一―二　サーヴァッティ（すべてのものがある）。そこで実に、こう演説なさった。

三「向煩悩滅尽多学男たちよ、いかに転輪王が、四つの大陸を支配し統治し君臨し、身体が破壊してから死後、幸福に向かうことである天の世界の三十三愛欲神天の仲間に流転して、彼がそこの喜悦林で大勢の天女に取り囲まれ、そして、天の五つの愛欲の構成部分をあてがわれ、維持し、感覚を満足させたとしても、彼は四つの法則を具足することはない。なおまた、彼は激苦地獄から完全に解脱

せず、そして動物としての発生から完全に解脱せず、そして低級霊域から完全に解脱せず、そして離別・悲痛に向かうこと・破滅から完全に解脱しないのである。

四　向煩悩滅尽多学男たちよ、いかに聖なる多学の弟子が、少量のひとかたまりによって暮らし、そしてぼろ布を身に着けたとしても、彼は四つの法則を具足する。なおまた、彼は激苦地獄から完全に解脱し、そして動物としての発生から完全に解脱し、そして低級霊域から完全に解脱し、そして離別・悲痛に向かうこと・破滅から完全に解脱するのである。四つとは何であろうか。

五　向煩悩滅尽多学男たちよ、ここに聖なる多学の弟子は、覚者に対して絶対の浄信を具足する。

『このように同様に、かの世尊は、供養値魂・最上正覚者・智徳成就者・最上善逝・世間解・無上士・丈夫調御者・天人師・覚者・世尊である』と。

六　法則に対して絶対の浄信を具足する。

『正しく言明された世尊による法則は、現実に利益をもたらし、直接的であり、

すべての人に理解できるように説かれており、煩悩破壊へ導き、それぞれの識別によって理解できる』と。

七　出家教団に対して絶対の浄信を具足する。

『世尊の多学の弟子出家教団は、善につき従い、世尊の多学の弟子出家教団は、誠実に従い、世尊の多学の弟子出家教団は、正しい体系に従い、世尊の多学の弟子出家教団は、正しい法則にのっとり日々を送るという、すなわち、この世尊の多学の弟子出家教団は、四対の人々-八つの宗教的特性を持つ人々であって、崇拝に値し、厚遇されるに値し、寄贈を受けるに値し、合掌されるに値し、世界の無上の功徳の田畑である』と。

八　聖人が愛する種々の戒を具足する。

『聖なる戒であり、道徳的に肯定されるべきものであり、悪趣に落ちない戒であり、純粋な戒であり、煩悩から解放する戒であり、識者に称賛され、煩悩に負けないための戒であり、サマディに貢献する』と。

九　これら四つの法則を具足することである。

一〇　向煩悩滅尽多学男たちよ、四つの大陸が与えられることと四つの法則が与えられることがあり、四つの大陸が与えられることは、四つの法則が与えられることの十六分の一にも値しないのである」と。

【二】第二　直結、あるいは確かな下落

三「向煩悩滅尽多学男たちよ、四つの法則を具足した聖なる多学の弟子は、真理の流れに入った人であり、破滅にならない法則そのものであり、素晴らしい未来に対する確定者であり、正覚（しょうかく）を最終地点とするのである。四つとは何であろうか。

四　向煩悩滅尽多学男たちよ、ここに聖なる多学の弟子は、覚者に対して絶対の浄信を具足する。

『このように同様に、かの世尊は、供養値魂・最上正覚者・智徳成就者・最上善

逝・世間解・無上士・丈夫調御者・天人師・覚者・世尊である』と。

五　法則に対して絶対の浄信を具足する。

『正しく言明された世尊による法則は、現実に利益をもたらし、直接的であり、すべての人に理解できるように説かれており、煩悩破壊へ導き、それぞれの識別によって理解できる』と。

六　出家教団に対して絶対の浄信を具足する。

『世尊の多学の弟子出家教団は、善につき従い、世尊の多学の弟子出家教団は、誠実に従い、世尊の多学の弟子出家教団は、正しい体系に従い、世尊の多学の弟子出家教団は、正しい法則にのっとり日々を送るという、すなわち、この世尊の多学の弟子出家教団は、四対の人々・八つの宗教的特性を持つ人々であって、崇拝に値し、厚遇されるに値し、寄贈を受けるに値し、合掌されるに値し、世界の無上の功徳の田畑である』と。

七　聖人が愛する種々の戒を具足する。

『聖なる戒であり、道徳的に肯定されるべきものであり、悪趣に落ちない戒であり、純粋な戒であり、煩悩から解放する戒であり、識者に称賛され、煩悩に負けないための戒であり、サマディに貢献する』と。

八　向煩悩滅尽多学男たちよ、これら四つの法則を具足した聖なる多学の弟子は、真理の流れに入った人であり、破滅にならない法則そのものであり、素晴らしい未来に対する確定者であり、正覚を最終地点とするのである」と。

九　世尊はこれを演説なさった。これを演説した後、最上善逝である尊師は、こう演説なさった。

「信があり、そして戒があり、
浄信があり、法則の見解のある者は、
偽りなく最後の時に苦しまず、
神聖行（しんせいぎょう）に直結し、楽である」と。

【三】 第三 ディーガーヴ

一　あるとき、世尊はラージャガハ（国王の家）の竹林にあるカランダカニヴァーパ（リスのえさ）にとどまっておられた。

二　ところでそのとき、ディーガーヴ（長く恩恵を与えた者）帰依信男は病気で、苦しみ、重病であった。

三　直ちに、ディーガーヴ帰依信男は、父ジョーティカ（光のような者）後援者に呼びかけた。

「後援者よ、ここへおいでください。あなたは世尊の所に行ってください。行って、わたしの名前で世尊の足に頭でうやうやしくあいさつしてください。『尊師よ、ディーガーヴ帰依信男は病気で、苦しみ、重病です。彼は世尊の足に頭でうやうやしくあいさついたします。』

そして、このように申し上げてください。

『尊師よ、どうか真に慈悲に応じて、世尊はディーガーヴ帰依信男の所にいらっ

しゃってください』と。」

「わかった、息子よ。」

と、ジョーティカ後援者はディーガーヴ帰依信男に承諾して、世尊の所に行った。行くと、世尊に敬礼してそばに座った。

四　そばに座ったジョーティカ後援者は、実に世尊にこう申し上げた。

「尊師よ、ディーガーヴ帰依信男は病気で、苦しみ、重病です。彼は世尊の足に頭でうやうやしくあいさついたします。そして、このように申し上げます。『尊師よ、どうか真に慈悲に応じて、世尊はディーガーヴ帰依信男の所にいらっしゃってください』と。」

世尊は黙っていることによって同意なさった。

五　直ちに、世尊は正装して、鉢と上衣を持って、ディーガーヴ帰依信男の所においでになった。行くと、用意された座にお座りになった。座ると、実に世尊はディーガーヴ帰依信男にこうおっしゃられた。

「ディーガーヴよ、果たしてあなたは快方に向かっているか。果たして生命の維持に耐えられるか。果たして種々の苦しみの感覚は減り全く進まず、その減少が認識され理解され、進行は全く認識されず理解されないか」と。
「尊師よ、わたしは快方に向かっていず、生命の維持に耐えられず、わたしの種々の強烈な苦しみは進み全く減らず、その進行が認識され理解され、減少は全く認識されず理解されません」と。

六「ディーガーヴよ、だから、あなたはこのように学ぶべきだ。
覚者に対して絶対の浄信を具足しよう。
『このように同様に、かの世尊は、供養値魂・最上正覚者・智徳成就者・最上善逝・世間解・無上士・丈夫調御者・天人師・覚者・世尊である』と。
法則に対して絶対の浄信を具足しよう。
『正しく言明された世尊による法則は、現実に利益をもたらし、直接的であり、すべての人に理解できるように説かれており、煩悩破壊へ導き、それぞれの識別

によって理解できる』と。

出家教団に対して絶対の浄信を具足しよう。

『世尊の多学の弟子出家教団は、善につき従い、世尊の多学の弟子出家教団は、誠実に従い、世尊の多学の弟子出家教団は、正しい体系に従い、世尊の多学の弟子出家教団は、正しい法則にのっとり日々を送るという、すなわち、この世尊の多学の弟子出家教団は、四対の人々-八つの宗教的特性を持つ人々であって、崇拝に値し、厚遇されるに値し、寄贈を受けるに値し、合掌されるに値し、世界の無上の功徳の田畑である』と。

聖人が愛する種々の戒を具足しよう。

『聖なる戒であり、道徳的に肯定されるべきものであり、悪趣に落ちない戒であり、純粋な戒であり、煩悩から解放する戒であり、識者に称賛され、煩悩に負けないための戒であり、サマディに貢献する』と。

ディーガーヴよ、あなたは全くこのように学ぶべきだ」と。

七「尊師よ、世尊は、これら四つの真理の流れに入る段階を指し示されました。それらの法則は、わたしの中に存在し、そしてわたしはそれらに合致して暮らしています。

尊師よ、なるほど、わたしは覚者に対して絶対の浄信を具足します。

『このように同様に、かの世尊は、供養値魂・最上正覚者・智徳成就者・最上善逝・世間解・無上士・丈夫調御者・天人師・覚者・世尊である』と。

法則に対して絶対の浄信を具足します。

『正しく言明された世尊による法則は、現実に利益をもたらし、直接的であり、すべての人に理解できるように説かれており、煩悩破壊へ導き、それぞれの識別によって理解できる』と。

出家教団に対して絶対の浄信を具足します。

『世尊の多学の弟子出家教団は、善につき従い、世尊の多学の弟子出家教団は、誠実に従い、世尊の多学の弟子出家教団は、正しい体系に従い、世尊の多学の弟

子出家教団は、正しい法則にのっとり日々を送るという、すなわち、この世尊の多学の弟子出家教団は、四対の人々・八つの宗教的特性を持つ人々であって、崇拝に値し、厚遇されるに値し、寄贈を受けるに値し、合掌されるに値し、世界の無上の功徳の田畑である』と。

　聖人が愛する種々の戒を具足します。

『聖なる戒であり、道徳的に肯定されるべきものであり、悪趣に落ちない戒であり、純粋な戒であり、煩悩から解放する戒であり、識者に称賛され、煩悩に負けないための戒であり、サマディに貢献する』と。」

「ディーガーヴよ、だから、あなたはこの四つの真理の流れに入る段階にしっかりと立ち、六つの神秘力に結びつける法則をさらに修習すべきだ。

八　ディーガーヴよ、ここにあなたは、すべての経験の構成において、無常を観察してとどまり、無常において苦しみを熟知し、苦しみにおいて非我を熟知し、捨断を熟知し、離愛著を熟知し、滅尽を熟知しなさい。

ディーガーヴよ、あなたは全くこのように学ぶべきだ」と。

「尊師よ、世尊はわたしに、六つの神秘力に結びつける法則を指し示されました。それらの法則は、わたしの中に存在し、そしてわたしはそれらの法則に合致して暮らしています。尊師よ、なるほど、わたしはすべての経験の構成において、無常を観察してとどまり、無常において苦しみを熟知し、苦しみにおいて非我を熟知し、捨断を熟知し、離愛著を熟知し、滅尽を熟知します。

九　尊師よ、その上、わたしはこのジョーティカ後援者が、このようにわたしの臨終に際して、苦悩に陥らないことだけを願います」と。

「息子ディーガーヴよ、そのようなことを作意(さい)してはならない。さあ、息子ディーガーヴよ、あなたは世尊があなたにおっしゃられたことだけを、あなたは完璧に作意しなさい」と。

一〇　直ちに、世尊はディガーヴ帰依信男にこれらの忠告によって忠告をして、座から立って去られた。

一一　直ちに、ディーガーヴ帰依信男は、世尊が去られて間もなくして逝ったのである。

一二　直ちに、多くの向煩悩滅尽多学男たちは、世尊の所に行った。行くと、世尊に敬礼してそばに座った。そばに座ったその向煩悩滅尽多学男たちは、実に世尊にこう申し上げた。

「尊師よ、ディーガーヴという名前の帰依信男は、世尊の要約した忠告によって忠告がなされて逝きました。彼には、どのような方向、どのような来世があるのでしょうか」と。

「向煩悩滅尽多学男たちよ、ディーガーヴ帰依信男は賢者であった。真理の法則にのっとり法則の実践を行ない、そして法則の判断に困らされることがなかった。

一三　向煩悩滅尽多学男たちよ、ディーガーヴ帰依信男は五つの下位に結びつけるきずなを完全に破壊することによって、随意の再生をする者となり、そこで完全煩悩破壊し、かの世界から（この愛欲界に）還らない法則の人となったのである」と。

【四】第四　サーリプッタ（一）

一　あるとき、聖者サーリプッタ（次に来る息子）と聖者アーナンダ（快楽）は、サーヴァッティのジェータ（勝利者）林にあるアナータピンディカ（貧しい人に施し物を与える人）の大庭園にとどまっていた。

二　直ちに、聖者アーナンダは夕刻に独居から立ち上がって、聖者サーリプッタの所に行った。行くと、聖者サーリプッタとお互いに親しいあいさつを交わし、友情のこもった丁寧な談話を交わして、そばに座った。そばに座った聖者アーナンダは、実に聖者サーリプッタにこう言った。

三「友サーリプッタよ、いったいいくつの法則を具足することを原因として、このようにこの弟子たちが真理の流れに入った人であり、破滅にならない法則そのものであり、素晴らしい未来に対する確定者であり、正覚を最終地点とすると、世尊は明らかになさるのでしょうか」と。

「友よ、実に四つの法則を具足することを原因として、このようにこの弟子たち

が真理の流れに入った人であり、破滅にならない法則そのものであり、素晴らしい未来に対する確定者であり、正覚を最終地点とすると、世尊は明らかになさるのである。四つとは何であろうか。

四　友よ、ここに聖なる多学の弟子は、覚者に対して絶対の浄信を具足する。『このように同様に、かの世尊は、供養値魂・最上正覚者・智徳成就者・最上善逝・世間解・無上士・丈夫調御者・天人師・覚者・世尊である』と。

法則に対して絶対の浄信を具足する。『正しく言明された世尊による法則は、現実に利益をもたらし、直接的であり、すべての人に理解できるように説かれており、煩悩破壊へ導き、それぞれの識別によって理解できる』と。

出家教団に対して絶対の浄信を具足する。『世尊の多学の弟子出家教団は、善につき従い、世尊の多学の弟子出家教団は、誠実に従い、世尊の多学の弟子出家教団は、正しい体系に従い、世尊の多学の弟

子出家教団は、正しい法則にのっとり日々を送るという、すなわち、この世尊の多学の弟子出家教団は、四対の人々-八つの宗教的特性を持つ人々であって、崇拝に値し、厚遇されるに値し、寄贈を受けるに値し、合掌されるに値し、世界の無上の功徳の田畑である』と。

聖人が愛する種々の戒を具足する。

『聖なる戒であり、道徳的に肯定されるべきものであり、悪趣に落ちない戒であり、純粋な戒であり、煩悩から解放する戒であり、識者に称賛され、煩悩に負けないための戒であり、サマディに貢献する』と。

五　友よ、実にこれら四つの法則を具足することを原因として、このようにこの弟子たちが真理の流れに入った人であり、破滅にならない法則そのものであり、素晴らしい未来に対する確定者であり、正覚を最終地点とすると、世尊は明らかになさるのである」と。

【五】第五　サーリプッタ（二）

二　直ちに、聖者サーリプッタは、世尊の所に行った。行くと、世尊に敬礼してそばに座った。そばに座った聖者サーリプッタに、実に世尊はこうおっしゃられた。

三「サーリプッタよ、真理の流れに入る段階、真理の流れに入る段階と、全くこういわれるが、サーリプッタよ、真理の流れに入る段階とは、いったい何であろうか」と。

「尊師よ、全く『善と徳のある人の仲間になること』は、真理の流れに入る段階です。『絶対の真理の法則をできるだけたくさん聴くこと』は、真理の流れに入る段階です。『真理にのっとり作意すること』は、真理の流れに入る段階です。『真理の法則にのっとり法則の実践を行なうこと』は、真理の流れに入る段階です」と。

「素晴らしいことだ、サーリプッタよ。素晴らしいことだ、サーリプッタよ。

『善と徳のある人の仲間になること』は、真理の流れに入る段階であり、『絶対の真理の法則をできるだけたくさん聴くこと』は、真理の流れに入る段階であり、『真理にのっとり作意すること』は、真理の流れに入る段階であり、『真理の法則にのっとり法則の実践を行なうこと』は、真理の流れに入る段階である。

四　サーリプッタよ、『流れ』、『流れ』と、確かにいわれるが、サーリプッタよ、『流れ』とは、いったい何であろうか」と。

「尊師よ、まさに全く、この聖なる八段階の道は『流れ』です。つまり、正見解・正思惟・正語・正行為・正生活・正奮闘・正記憶修習・正サマディです」と。

「素晴らしいことだ、素晴らしいことだ、サーリプッタよ。まさに全く、この聖なる八段階の道は『流れ』である。つまり、正見解・正思惟・正語・正行為・正生活・正奮闘・正記憶修習・正サマディである。

五　サーリプッタよ、真理の流れに入った人、真理の流れに入った人と、全くこういわれるが、サーリプッタよ、真理の流れに入った人とは、いったい何であろ

うか」と。
「尊師よ、全くこの聖なる八段階の道を具足した、この者が真理の流れに入った人であるといわれます。これは、このように名前があり、このように家系がある聖者のことです」と。
「素晴らしいことだ、素晴らしいことだ、サーリプッタよ。全くこの聖なる八段階の道を具足した、この者が真理の流れに入った人であるといわれる。これは、このように名前があり、このように家系がある聖者のことである」と。

【六】第六　武官

一　サーヴァッティの地にて。
二　ところでそのとき、「三カ月経過してから、上衣の用意ができたら、世尊は旅行に出発なさるだろう」と、多くの向煩悩滅尽多学男たちが世尊の上衣を作っ

ていた。

三　ところでそのとき、武官のイシダッタ（尊い人賦与）とプラーナ（尊敬すべき）は、まさに何かの職務によって、サードゥカ（満足できる）村に暮らしていた。実に、武官のイシダッタとプラーナは、「『三カ月経過してから、上衣の用意ができたら、世尊は旅行に出発なさるだろう』と、多くの向煩悩滅尽多学男たちが世尊の上衣を作っているそうである」と聞いた。

四　直ちに、武官のイシダッタとプラーナは、道に下男を用意した。「いいかい、下男よ、お前は供養値魂・最上正覚者であられる世尊がお越しになるのを見たときはいつも、直ちにわたしたちに告げてくれ」と。

五　二、三日とどまって、実にその下男は、まさに世尊が遠くからお越しになるのを見た。見ると、武官のイシダッタとプラーナの所に行った。行くと、武官のイシダッタとプラーナにこう言った。

「尊者よ、かの供養値魂・最上正覚者であられる世尊がお越しになりました。今

やちょうどよいと考える時です」と。

六　直ちに、武官のイシダッタとプラーナは、世尊の所に行った。行くと、世尊に敬礼して、世尊のちょうどすぐ後についてお従いしたのである。

七　直ちに、世尊は道から離れ、ある樹下においでになった。行くと、用意された座にお座りになった。武官のイシダッタとプラーナもまた、世尊に敬礼してそばに座った。そばに座った、その武官のイシダッタとプラーナは、世尊にこう申し上げた。

八　「尊師よ、『世尊がサーヴァッティからコーサラ（十分な貯蔵室）国に旅行に出発なさるだろう』と、わたしたちが聞いたときには、『世尊がわたしたちから遠くなられる』と思い、わたしたちには不満があり、落胆があります。尊師よ、さらに、『世尊がサーヴァッティからコーサラ国に旅行に出発なさった』と、わたしたちが聞いたときには、『世尊がわたしたちから遠くなられた』と思い、わたしたちには不満があり、落胆があるのです。

九　尊師よ、『世尊がコーサラ国からマッラ（レスラー）に旅行に出発なさるだろう』と、わたしたちが聞いたときには、『世尊がわたしたちから遠くなられる』と思い、わたしたちには不満があり、落胆があります。尊師よ、さらに、『世尊がコーサラ国からマッラに旅行に出発なさった』と、わたしたちが聞いたときには、『世尊がわたしたちから遠くなられた』と思い、わたしたちには不満があり、落胆があるのです。

一〇　尊師よ、『世尊がマッラ国からヴァッジ（敬遠される）に旅行に出発なさるだろう』と、わたしたちが聞いたときには、『世尊がわたしたちから遠くなられる』と思い、わたしたちには不満があり、落胆があります。尊師よ、さらに、『世尊がマッラ国からヴァッジに旅行に出発なさった』と、わたしたちが聞いたときには、『世尊がわたしたちから遠くなられた』と思い、わたしたちには不満があり、落胆があるのです。

一一　尊師よ、『世尊がヴァッジ国からカーシ（太陽）に旅行に出発なさるだろ

う』と、わたしたちが聞いたときには、『世尊がわたしたちから遠くなられる』と思い、わたしたちには不満があり、落胆があります。尊師よ、さらに、『世尊がヴァッジ国からカーシに旅行に出発なさった』と、わたしたちが聞いたときには、『世尊がわたしたちから遠くなられた』と思い、わたしたちには不満があり、落胆があるのです。

一二　尊師よ、『世尊がカーシ国からマガダ（太陽の祭司のいる）に旅行に出発なさるだろう』と、わたしたちが聞いたときには、『世尊がわたしたちから遠くなられる』と思い、わたしたちには不満があり、落胆があります。尊師よ、さらに、『世尊がカーシ国からマガダに旅行に出発なさった』と、わたしたちが聞いたときには、『世尊がわたしたちから遠くなられた』と思い、わたしたちは少なからず不満があり、少なからず落胆があるのです。

一三　尊師よ、『世尊がマガダ国からカーシに旅行に出発なさるだろう』と、わたしたちが聞いたときには、『世尊がわたしたちに近くなられる』と思い、わた

したちには満足があり、幸福があります。尊師よ、さらに、『世尊がマガダ国からカーシに旅行に出発なさった』と、わたしたちが聞いたときには、『世尊がわたしたちに近くなられた』と思い、わたしたちには満足があり、幸福があるのです。

一四　尊師よ、『世尊がカーシ国からヴァッジ国に旅行に出発なさるだろう』と、わたしたちが聞いたときには、『世尊がわたしたちに近くなられる』と思い、わたしたちには満足があり、幸福があります。尊師よ、さらに、『世尊がカーシ国からヴァッジ国に旅行に出発なさった』と、わたしたちが聞いたときには、『世尊がわたしたちに近くなられた』と思い、わたしたちには満足があり、幸福があるのです。

一五　尊師よ、『世尊がヴァッジ国からマッラに旅行に出発なさるだろう』と、わたしたちが聞いたときには、『世尊がわたしたちに近くなられる』と思い、わたしたちには満足があり、幸福があります。尊師よ、さらに、『世尊がヴァッジ

国からマッラに旅行に出発なさった』と、わたしたちが聞いたときには、『世尊がわたしたちに近くなられた』と思い、わたしたちには満足があり、幸福があるのです。

一六　尊師よ、『世尊がマッラ国からコーサラに旅行に出発なさるだろう』と、わたしたちが聞いたときには、『世尊がわたしたちに近くなられる』と思い、わたしたちには満足があり、幸福があります。尊師よ、さらに、『世尊がマッラ国からコーサラに旅行に出発なさった』と、わたしたちが聞いたときには、『世尊がわたしたちに近くなられた』と思い、わたしたちには満足があり、幸福があるのです。

一七　尊師よ、まさしく、『世尊がコーサラ国からサーヴァッティに旅行に出発なさるだろう』と、わたしたちが聞いたときには、『世尊がわたしたちに近くなられる』と思い、わたしたちには満足があり、幸福があります。尊師よ、さらに、『世尊がサーヴァッティのジェータ林にあるアナータピンディカの大庭園にとど

まっておられる』と、わたしたちが聞いたときには、『世尊がわたしたちに近くなられた』と思い、わたしたちには少なからず満足があり、少なからず幸福があるのです」と。

一八　「武官よ、だから、家庭生活は苦難であり、塵(ちり)まみれの道である。出家はさえぎるものがない。武官よ、そしてしたがって、あなた方は実に怠惰であってはならない」と。

一九　「尊師よ、この苦難とは別に、より苦難であり、より苦難であると思われるものがあります」と。

「武官よ、この苦難とは別の苦難であり、より苦難であり、より苦難であると思われるものとは何か」と。

二〇　「尊師よ、ここに、コーサラ国のパセーナディ（先に軍隊を進ませて征服する王）王が遊戯地に出発しようとするとき、わたしたちは、そのコーサラ国のパセーナディ王の乗り物としてちょうどいい象を準備して、そのコーサラ国のパ

セーナディ王の快く愉快な後援者の夫人たちを、一人を前方に一人を後ろに座らせます。

尊師よ、そして、その姉妹にはこのような香りがあるのです。例として、早速香りの箱のふたを取ったかのようであり、国王のお嬢さんたちが香りで魅力的になったのと同じようなものです。尊師よ、また、その姉妹にはこのような身触があるのです。例として、緊密な綿のようであり、また、国王のお嬢さんたちが心安らかに成長したのと同じようなものです。

尊師よ、そのとき、象を守らなくてはならず、また、その姉妹を守らなくてはならず、また、自分自身を守らなくてはならないのです。

二一　尊師よ、しかし、わたしたちはその姉妹に悪い心が生じたことを証智(しょうち)しておりません。尊師よ、これが、その苦難とは別の苦難であり、より苦難であり、より苦難であると思われるものです」と。

二二「武官よ、だから、家庭生活は苦難であり、塵まみれの道である。出家は

さえぎるものがない。武官よ、しかし、あなた方は実に怠惰であってはならない。

二三　武官よ、四つの法則を具足した聖なる多学の弟子は、真理の流れに入った人であり、破滅にならない法則そのものであり、素晴らしい未来に対する確定者であり、正覚を最終地点とするのである。四つとは何であろうか。

二四　武官よ、ここに聖なる多学の弟子は、覚者に対して絶対の浄信を具足する。『このように同様に、かの世尊は、供養値魂・最上正覚者・智徳成就者・最上善逝・世間解・無上士・丈夫調御者・天人師・覚者・世尊である』と。

法則に対して絶対の浄信を具足する。

『正しく言明された世尊による法則は、現実に利益をもたらし、直接的であり、すべての人に理解できるように説かれており、煩悩破壊へ導き、それぞれの識別によって理解できる』と。

出家教団に対して絶対の浄信を具足する。

『世尊の多学の弟子出家教団は、善につき従い、世尊の多学の弟子出家教団は、

誠実に従い、世尊の多学の弟子出家教団は、正しい体系に従い、世尊の多学の弟子出家教団は、正しい法則にのっとり日々を送るという、すなわち、この世尊の多学の弟子出家教団は、四対の人々・八つの宗教的特性を持つ人々であって、崇拝に値し、厚遇されるに値し、寄贈を受けるに値し、合掌されるに値し、世界の無上の功徳の田畑である』と。

物惜しみの垢(あか)を消滅した心で家で生活し、放棄して物惜しみをせず、手によって布施し、安楽を楽しみ、施しを求められたら喜んで応じ、布施を分配することを楽しむ。

武官よ、これら四つの法則を具足した聖なる多学の弟子は、真理の流れに入った人であり、破滅にならない法則そのものであり、素晴らしい未来に対する確定者であり、正覚を最終地点とするのである。

二五　武官よ、あなた方は、覚者に対して絶対の浄信を具足する。

『このように同様に、かの世尊は、供養値魂・最上正覚者・智徳成就者・最上善

逝・世間解・無上士・丈夫調御者・天人師・覚者・世尊である』と。

法則に対して絶対の浄信を具足する。

『正しく言明された世尊による法則は、現実に利益をもたらし、直接的であり、すべての人に理解できるように説かれており、煩悩破壊へ導き、それぞれの識別によって理解できる』と。

出家教団に対して絶対の浄信を具足する。

『世尊の多学の弟子出家教団は、善につき従い、世尊の多学の弟子出家教団は、誠実に従い、世尊の多学の弟子出家教団は、正しい体系に従い、世尊の多学の弟子出家教団は、正しい法則にのっとり日々を送るという、すなわち、この世尊の多学の弟子出家教団は、四対の人々・八つの宗教的特性を持つ人々であって、崇拝に値し、厚遇されるに値し、寄贈を受けるに値し、合掌されるに値し、世界の無上の功徳の田畑である』と。

その場合においては、家で法則によって贈与されたもの何でもかんでもすべて

は、戒を持す者や素晴らしい法則を持つ者によって自他の区別をしない。
二六　武官よ、これについてどう思うか。コーサラ国においては、あなた方とまさに等しい人々が、すなわち布施を分配することにおいて、どのくらいの種類いるであろうか」と。
二七「尊師よ、わたしたちには利得であります。尊師よ、わたしたちにはこの上ない幸福であります。世尊がわたしたちをこのように認識し理解していらっしゃるとは」と。

【七】第七　竹門の人々

一　このようにわたしは聞いた。
あるとき、世尊は大向煩悩滅尽多学男出家教団と一緒にコーサラ国を動き回って生活しながら旅行して、竹門という名前のコーサラ国の祭司の村を訪問なさっ

た。

二　実に、その竹門の人々の祭司と家屋所有者たちは聞いた。

「実に友よ、サキャ（まぶしく有能な他のために尽くす者）族の息子であって、サキャ一族から出家した出家修行者ゴータマ（牛王）は、大向煩悩滅尽多学男出家教団と一緒にコーサラ国を動き回って生活しながら旅行して、竹門に到着なさいました。

そして、かの世尊ゴータマには、このように素晴らしい名声が立っていらっしゃいます。

『このように同様に、かの世尊は、供養値魂・最上正覚者・智徳成就者・最上善逝・世間解・無上士・丈夫調御者・天人師・覚者・世尊である』と。

彼は、この愛欲神と共にあり、破滅天と共にあり、神聖天と共にある世界、出家修行者や祭司と共にあり、愛欲神や人々と共にある弟子を、自ら証智し現証（げんしょう）して明らかになさるのです。彼は最初が素晴らしく、真ん中で素晴らしく、終わり

が素晴らしい法則を指し示し、意義を伴い特質を伴った、すべての部分を含む完全で欠点のない神聖行を説明なさるのです。

そして、そのような供養値魂に会うことは、素晴らしいことです」と。

三　直ちに、その竹門の人々の祭司と家屋所有者たちは、世尊の所に行った。行くと、ある者は世尊に敬礼して、そばに座った。また、ある者は世尊とお互いに親しいあいさつを交わし、友情のこもった丁寧な談話を交わして、そばに座った。また、ある者は世尊に対して差し伸ばした手を前に曲げて合掌して、そばに座った。また、ある者は世尊の面前で名前と家系を聞かせて、そばに座った。そして、他の者は黙って、そばに座った。

四　そばに座ったその竹門の人々の祭司と家屋所有者たちは、世尊にこう申し上げた。

「友ゴータマよ、わたしたちには、このように種々の愛欲があり、このように種々の興奮があり、このように種々の願いがあるのです。

『息子という苦難に寄りかかって生活したい。カーシ国産のビャクダンを経験したい。香りのある花飾りである化粧品を身につけたい。金貨・銀貨を自分のために楽しみたい。身体が破壊してから死後、幸福に向かうことである天の世界に流転したい』と。

世尊ゴータマは、このように種々の愛欲とこのように種々の興奮とこのように種々の願いがあるわたしたちに、わたしたちが息子という苦難に寄りかかって生活し、カーシ国産のビャクダンを経験し、香りのある花飾りである化粧品を身につけ、金貨・銀貨を自分のために楽しみ、身体が破壊してから死後、幸福に向かうことである天の世界に流転することができるような法則を指し示してください」と。

五　「後援者たちよ、あなた方に、自己に関する法則の要点を指し示そう。それを聞きなさい。完璧に作意しなさい。わたしは説こう」と。

「わかりました、友よ。」

と、その竹門の人々の祭司と家屋所有者たちは、世尊に承諾し申し上げた。世尊

はこう演説なさった。

「後援者たちよ、自己に関する法則の要点とは何であろうか。

六　後援者たちよ、ここに聖なる多学の弟子は、このように弁別する。『わたしは生きようとし死のうとはせず、楽になろうとし苦しみを厭逆する。もし、わたしが生きようとし死のうとはせず、楽になろうとし苦しみを厭逆しているのに、生命を奪う者がいたとしたら、わたしにとって、それは快く愉快なものではないだろう。

またもし、他人が生きようとし死のうとはせず、楽になろうとし苦しみを厭逆しているのに、わたしが生命を奪うとしたら、他人にとって、それは不快で不愉快なものになるだろう。

わたしにとって、不快で不愉快なこの法則は、他人にとっても、この法則は不快で不愉快なのである。わたしにとって、不快で不愉快なこの法則を、どうしてわたしが他人に結びつけることができようか』と。

このように彼は弁別して、自分自身のために殺生(せっしょう)を自制し、他人にも殺生をやめることを鼓舞し、殺生をやめることを賛美する。このように、この身の正しい態度があるならば、極めて欠点のないものとなるのである。

七　後援者たちよ、そしてまたさらに、聖なる多学の弟子は、このように弁別する。

『もし、わたしから与えられないものを盗みによって占有する者がいたら、わたしにとって、それは快く愉快なものではないだろう。またもし、他人に与えられないものを、わたしが盗みによって占有したとしたら、他人にとって、それは不快で不愉快なものになるだろう。

わたしにとって、不快で不愉快なこの法則は、他人にとっても、この法則は不快で不愉快なのである。わたしにとって、不快で不愉快なこの法則を、どうしてわたしが他人に結びつけることができようか』と。

このように彼は弁別して、自分自身のために与えられないものを強奪すること

を自制し、他人にも与えられないものを強奪することをやめることを鼓舞し、与えられないものを強奪することをやめることを賛美する。このように、この身の正しい態度があるならば、極めて欠点のないものとなるのである。

八　後援者たちよ、そしてまたさらに、聖なる多学の弟子は、このように弁別する。

『もし、わたしの妻たちと性交を行なう者がいたら、わたしにとって、それは快く愉快なものではないだろう。またもし、他人の妻たちと、わたしが性交を行なったとしたら、他人にとって、それは不快で不愉快なものになるだろう。

わたしにとって、不快で不愉快なこの法則は、他人にとっても、この法則は不快で不愉快なのである。どうしてわたしが他人にそれを結びつけることができようか』と。

このように彼は弁別して、自分自身のために愛欲における邪悪な行為を自制し、他人にも愛欲における邪悪な行為をやめることを鼓舞し、愛欲における邪悪な行

為をやめることを賛美する。このように、この身の正しい態度があるならば、極めて欠点のないものとなるのである。

九　後援者たちよ、そしてまたさらに、聖なる多学の弟子は、このように弁別する。

『もし、嘘の言い方によって、わたしの利益を損なう者がいたら、わたしにとって、それは快く愉快なものではないだろう。またもし、嘘の言い方によって、わたしが他人の利益を損なったら、他人にとって、それは不快で不愉快なものになるだろう。

わたしにとって、不快で不愉快なこの法則は、他人にとっても、この法則は不快で不愉快なのである。わたしにとって、不快で不愉快なこの法則を、どうしてわたしが他人に結びつけることができようか』と。

このように彼は弁別して、自分自身のために嘘の言い方を自制し、他人にも嘘の言い方をやめることを鼓舞し、嘘の言い方をやめることを賛美する。このよう

に、この言葉の正しい態度があるならば、極めて欠点のないものとなるのである。

一〇　後援者たちよ、そしてまたさらに、聖なる多学の弟子は、このように弁別する。

『もし、中傷の言葉によって、わたしを友と分裂させる者がいたら、わたしにとって、それは快く愉快なものではないだろう。またもし、中傷の言葉によって、わたしが他人を友と分裂させたら、他人にとって、それは不快で不愉快なものになるだろう。

わたしにとって、不快で不愉快なこの法則は、他人にとっても、この法則は不快で不愉快なのである。わたしにとって、不快で不愉快なこの法則を、どうしてわたしが他人に結びつけることができようか』と。

このように彼は弁別して、自分自身のために中傷の言葉を自制し、他人にも中傷の言葉をやめることを鼓舞し、中傷の言葉をやめることを賛美する。このように、この言葉の正しい態度があるならば、極めて欠点のないものとなるのである。

一一　後援者たちよ、そしてまたさらに、聖なる多学の弟子は、このように弁別する。

『もし、乱暴な言葉によって、わたしを攻撃する者がいたら、わたしにとって、それは快く愉快なものではないだろう。またもし、乱暴な言葉によって、わたしが他人を攻撃したら、他人にとって、それは不快で不愉快なものになるだろう。

わたしにとって、不快で不愉快なこの法則は、他人にとっても、この法則は不快で不愉快なのである。わたしにとって、不快で不愉快なこの法則を、どうしてわたしが他人に結びつけることができようか』と。

このように彼は弁別して、自分自身のために乱暴な言葉を自制し、他人にも乱暴な言葉をやめることを鼓舞し、乱暴な言葉をやめることを賛美する。このように、この言葉の正しい態度があるならば、極めて欠点のないものとなるのである。

一二　後援者たちよ、そしてまたさらに、聖なる多学の弟子は、このように弁別する。

『もし、浅はかな話題や軽薄語を言うことによって、わたしを攻撃する者がいたら、わたしにとって、それは快く愉快なものではないだろう。またもし、浅はかな話題や軽薄語を言うことによって、わたしが他人を攻撃したら、他人にとって、それは不快で不愉快なものになるだろう。

わたしにとって、不快で不愉快なこの法則は、他人にとっても、この法則は不快で不愉快なのである。わたしにとって、不快で不愉快なこの法則を、どうしてわたしが他人に結びつけることができようか』と。

このように彼は弁別して、自分自身のために軽薄語を自制し、他人にも軽薄語をやめることを鼓舞し、軽薄語をやめることを賛美する。このように、この言葉の正しい態度があるならば、極めて欠点のないものとなるのである。

一三　彼は、覚者に対して絶対の浄信を具足する。

『このように同様に、かの世尊は、供養値魂・最上正覚者・智徳成就者・最上善逝・世間解・無上士・丈夫調御者・天人師・覚者・世尊である』と。

一四　法則に対して絶対の浄信を具足する。
『正しく言明された世尊による法則は、現実に利益をもたらし、直接的であり、すべての人に理解できるように説かれており、煩悩破壊へ導き、それぞれの識別によって理解できる』と。

一五　出家教団に対して絶対の浄信を具足する。
『世尊の多学の弟子出家教団は、善につき従い、世尊の多学の弟子出家教団は、誠実に従い、世尊の多学の弟子出家教団は、正しい体系に従い、世尊の多学の弟子出家教団は、正しい法則にのっとり日々を送るという、すなわち、この世尊の多学の弟子出家教団は、四対の人々-八つの宗教的特性を持つ人々であって、崇拝に値し、厚遇されるに値し、寄贈を受けるに値し、合掌されるに値し、世界の無上の功徳の田畑である』と。

一六　聖人が愛する種々の戒を具足する。
『聖なる戒であり、道徳的に肯定されるべきものであり、悪趣に落ちない戒であ

り、純粋な戒であり、煩悩から解放する戒であり、識者に称賛され、煩悩に負けないための戒であり、サマディに貢献する』と。

一七　後援者たちよ、聖なる多学の弟子は、これら七つの絶対の真理の法則とこれら四つの願わしい道理を具足することで、彼が自分自身のために願うことによって、『激苦地獄が破壊され、動物としての発生が破壊され、低級霊域が破壊され、離別・悲痛に向かうこと・破滅が破壊され、わたしは真理の流れに入った人であり、破滅にならない法則そのものであり、素晴らしい未来に対する確定者であり、正覚を最終地点とする』と、自分自身を明らかにすることができるのである」と。

一八　このように演説されたとき、竹門の祭司と土地所有者たちは、世尊にこう申し上げた。

「素晴らしいことだ、友ゴータマよ。素晴らしいことだ、友ゴータマよ。友ゴータマよ、例として、あるいは（煩悩によって）打ち倒されたものを起こして真っすぐにし、あるいは隠されたものを開き、あるいは宗教的に罪深い者に道を明か

し、あるいは『眼ある人たちは種々の形状-容姿を見る』と、暗黒に油による灯火をもたらすようなものであり、まさにこのように、世尊の多くの教訓によって、法則が説明されました。

このわたしたちは、世尊ゴータマと法則と向煩悩滅尽多学男出家教団とを救いとして活用いたします。尊師ゴータマは、わたしたちを帰依信男として記憶実践なさってください。今日から先、わたしたちが生きている限り、救いとして活用いたします」と。

【八】第八　レンガの家（一）

一　このようにわたしは聞いた。

あるとき、世尊はニャーティカ（親族）のレンガの家にとどまっておられた。

二　直ちに、聖者アーナンダは、世尊の所に行った。行くと、世尊にこう申し上

げた。

「尊師よ、サーラ（障害を乗り越える者）という名前の向煩悩滅尽多学男は逝きました。どのような方向があり、どのような来世が彼にあるのでしょうか。

尊師よ、ナンダー（喜悦）という名前の向煩悩滅尽多学女は逝きました。どのような方向があり、どのような来世が彼女にあるのでしょうか。

尊師よ、スダッタ（正しさが賦与された者）という名前の帰依信男は逝きました。どのような方向があり、どのような来世が彼にあるのでしょうか。

尊師よ、スジャーター（正しくなった者）という名前の帰依信女は逝きました。どのような方向があり、どのような来世が彼女にあるのでしょうか」と。

三　「アーナンダよ、サーラ向煩悩滅尽多学男は逝き、種々の漏の破壊によって、無漏の心の離解脱や智慧の離解脱を、まさに見られる法則において、自ら証智し現証し達成してとどまったのである。

アーナンダよ、ナンダー向煩悩滅尽多学女は逝き、五つの下位に結びつけるき

ずなを完全に破壊することによって、随意の再生をする者となり、そこで完全煩悩破壊し、かの世界から（この愛欲界に）還らない法則の人となったのである。

アーナンダよ、スダッタ帰依信男は逝き、三つのきずなを完全に破壊することによって、愛著・邪悪心・迷妄が削減し、（愛欲界に）一度だけ再生する人となり、ただ一度だけこの世界に来て、苦しみの終極を行なうであろう。

アーナンダよ、スジャーター帰依信女は逝き、三つのきずなを完全に破壊することによって、真理の流れに入った人であり、破滅にならない法則そのものであり、素晴らしい未来に対する確定者であり、正覚を最終地点とするのである。

四　しかし、アーナンダよ、生まれ出た人が逝くということは、不思議なことではない。それぞれの人が逝ったとき、わたしの所に至って、この意義を質問するならば、アーナンダよ、これはまさに真理勝者を困らせることとなるであろう。

アーナンダよ、だから、法則の鏡という名前の法則の要点を指し示そう。そし

て、聖なる多学の弟子がこれを具足し、自分自身のために願うことによって、『激苦地獄が破壊され、動物としての発生が破壊され、低級霊域が破壊され、離別・悲痛に向かうこと・破滅が破壊され、わたしは真理の流れに入った人であり、破滅にならない法則そのものであり、素晴らしい未来に対する確定者であり、正覚を最終地点とする』と、自分自身を明らかにすることができる。

五　アーナンダよ、そして、聖なる多学の弟子がこれを具足し、自分自身のために願うことによって、『激苦地獄が破壊され、動物としての発生が破壊され、低級霊域が破壊され、離別・悲痛に向かうこと・破滅が破壊され、わたしは真理の流れに入った人であり、破滅にならない法則そのものであり、素晴らしい未来に対する確定者であり、正覚を最終地点とする』と、自分自身を明らかにすることができる、法則の鏡・法則の要点とは何であろうか。

六　アーナンダよ、ここに聖なる多学の弟子は、覚者に対して絶対の浄信を具足する。

『このように同様に、かの世尊は、供養値魂・最上正覚者・智徳成就者・最上善逝・世間解・無上士・丈夫調御者・天人師・覚者・世尊である』と。

法則に対して絶対の浄信を具足する。

『正しく言明された世尊による法則は、現実に利益をもたらし、直接的であり、すべての人に理解できるように説かれており、煩悩破壊へ導き、それぞれの識別によって理解できる』と。

出家教団に対して絶対の浄信を具足する。

『世尊の多学の弟子出家教団は、善につき従い、世尊の多学の弟子出家教団は、誠実に従い、世尊の多学の弟子出家教団は、正しい体系に従い、世尊の多学の弟子出家教団は、正しい法則にのっとり日々を送るという、すなわち、この世尊の多学の弟子出家教団は、四対の人々-八つの宗教的特性を持つ人々であって、崇拝に値し、厚遇されるに値し、寄贈を受けるに値し、合掌されるに値し、世界の無上の功徳の田畑である』と。

聖人が愛する種々の戒を具足する。

『聖なる戒であり、道徳的に肯定されるべきものであり、悪趣に落ちない戒であり、純粋な戒であり、煩悩から解放する戒であり、識者に称賛され、煩悩に負けないための戒であり、サマディに貢献する』と。

七　アーナンダよ、これが、聖なる多学の弟子がこれを具足し、自分自身のために願うことによって、『激苦地獄が破壊され、動物としての発生が破壊され、低級霊域が破壊され、離別・悲痛に向かうこと・破滅が破壊され、わたしは真理の流れに入った人であり、破滅にならない法則そのものであり、素晴らしい未来に対する確定者であり、正覚を最終地点とする』と、自分自身を明らかにすることができる、法則の鏡・法則の要点なのである」と。

八　全体で三つの経の一つのよりどころである。

【九】第九　レンガの家（二）

二　そばに座った聖者アーナンダは、実に世尊にこう申し上げた。
「尊師よ、アソーカ（悲しみから解放された者）という名前の向煩悩滅尽多学男は逝きました。どのような方向があり、どのような来世が彼にあるのでしょうか。
尊師よ、アソーカーという名前の向煩悩滅尽多学女は逝きました。どのような方向があり、どのような来世が彼女にあるのでしょうか。
尊師よ、アソーカという名前の帰依信男は逝きました。どのような方向があり、どのような来世が彼にあるのでしょうか。
尊師よ、アソーカーという名前の帰依信女は逝きました。どのような方向があり、どのような来世が彼女にあるのでしょうか」と。

三「アーナンダよ、アソーカ向煩悩滅尽多学男は逝き、種々の漏の破壊によって、無漏の心の離解脱や智慧の離解脱を、まさに見られる法則において、自ら証智し現証し達成してとどまったのである。

アーナンダよ、アソーカー向煩悩滅尽多学女は逝き、五つの下位に結びつけるきずなを完全に破壊することによって、随意の再生をする者となり、そこで完全煩悩破壊し、かの世界から（この愛欲界に）還らない法則の人となったのである。
アーナンダよ、アソーカ帰依信男は逝き、三つのきずなを完全に破壊することによって、愛著・邪悪心・迷妄が削減し、（愛欲界に）一度だけ再生する人となり、ただ一度だけこの世界に来て、苦しみの終極を行なうであろう。
アーナンダよ、アソーカー帰依信女は逝き、三つのきずなを完全に破壊することによって、真理の流れに入った人であり、破滅にならない法則そのものであり、素晴らしい未来に対する確定者であり、正覚を最終地点とするのである。
四　しかし、アーナンダよ、生まれ出た人が逝くというこのことは、不思議なことではない。もしそれぞれの人が逝ったとき、わたしの所に至って、この意義を質問するならば、アーナンダよ、これはまさに真理勝者を困らせることとなるであろう。

アーナンダよ、だから、法則の鏡という名前の法則の要点を指し示そう。そして、聖なる多学の弟子がこれを具足し、自分自身のために願うことによって、『激苦地獄が破壊され、動物としての発生が破壊され、低級霊域が破壊され、離別・悲痛に向かうこと・破滅が破壊され、わたしは真理の流れに入った人であり、破滅にならない法則そのものであり、素晴らしい未来に対する確定者であり、正覚を最終地点とする』と、自分自身を明らかにすることができる。

五 アーナンダよ、そして、聖なる多学の弟子がこれを具足し、自分自身のために願うことによって、『激苦地獄が破壊され、動物としての発生が破壊され、低級霊域が破壊され、離別・悲痛に向かうこと・破滅が破壊され、わたしは真理の流れに入った人であり、破滅にならない法則そのものであり、素晴らしい未来に対する確定者であり、正覚を最終地点とする』と、自分自身を明らかにすることができる、法則の鏡・法則の要点とは何であろうか。

六 アーナンダよ、ここに聖なる多学の弟子は、覚者に対して絶対の浄信を具足

する。

『このように同様に、かの世尊は、供養値魂・最上正覚者・智徳成就者・最上善逝・世間解・無上士・丈夫調御者・天人師・覚者・世尊である』と。

法則に対して絶対の浄信を具足する。

『正しく言明された世尊による法則は、現実に利益をもたらし、直接的であり、すべての人に理解できるように説かれており、煩悩破壊へ導き、それぞれの識別によって理解できる』と。

出家教団に対して絶対の浄信を具足する。

『世尊の多学の弟子出家教団は、善につき従い、世尊の多学の弟子出家教団は、誠実に従い、世尊の多学の弟子出家教団は、正しい体系に従い、世尊の多学の弟子出家教団は、正しい法則にのっとり日々を送るという、すなわち、この世尊の多学の弟子出家教団は、四対の人々-八つの宗教的特性を持つ人々であって、崇拝に値し、厚遇されるに値し、寄贈を受けるに値し、合掌されるに値し、世界の

無上の功徳の田畑である』と。

聖人が愛する種々の戒を具足する。

『聖なる戒であり、道徳的に肯定されるべきものであり、悪趣に落ちない戒であり、純粋な戒であり、煩悩から解放する戒であり、識者に称賛され、煩悩に負けないための戒であり、サマディに貢献する』と。

七　アーナンダよ、これが、聖なる多学の弟子がこれを具足し、自分自身のために願うことによって、『激苦地獄が破壊され、動物としての発生が破壊され、低級霊域が破壊され、離別・悲痛に向かうこと・破滅が破壊され、わたしは真理の流れに入った人であり、破滅にならない法則そのものであり、素晴らしい未来に対する確定者であり、正覚を最終地点とする』と、自分自身を明らかにすることができる、法則の鏡・法則の要点なのである」と。

【一〇】第十　レンガの家（三）

二　実に、聖者アーナンダは、世尊の所に行った。行くと、世尊にこう申し上げた。

「尊師よ、カッカタ（大きい鹿）という名前の帰依信男は、ニャーティカで逝きました。どのような方向があり、どのような来世が彼にあるのでしょうか。

尊師よ、カーリンガ（魂の特質）という名前の帰依信男は、ニャーティカで逝きました。どのような方向があり、どのような来世が彼にあるのでしょうか。

尊師よ、ニカタ（惑わされた者）という名前の帰依信男は、ニャーティカで逝きました。どのような方向があり、どのような来世が彼にあるのでしょうか。

尊師よ、カティッサハ（尻もち）という名前の帰依信男は、ニャーティカで逝きました。どのような方向があり、どのような来世が彼にあるのでしょうか。

尊師よ、トゥッタ（喜んだ）という名前の帰依信男は、ニャーティカで逝きました。どのような方向があり、どのような来世が彼にあるのでしょうか。

尊師よ、サントゥッタ（正喜）という名前の帰依信男は、ニャーティカで逝きました。どのような方向があり、どのような来世が彼にあるのでしょうか。

尊師よ、バッダ（尊者）という名前の帰依信男は、ニャーティカで逝きました。どのような方向があり、どのような来世が彼にあるのでしょうか。

尊師よ、スバッダ（優れた尊者）という名前の帰依信男は、ニャーティカで逝きました。どのような方向があり、どのような来世が彼にあるのでしょうか」と。

三 「アーナンダよ、カッカタ帰依信男は、五つの下位に結びつけるきずなを完全に破壊することによって、随意の再生をする者となり、そこで完全煩悩破壊し、かの世界から（この愛欲界に）還らない法則の人となった。

アーナンダよ、カーリンガ帰依信男は、五つの下位に結びつけるきずなを完全に破壊することによって、随意の再生をする者となり、そこで完全煩悩破壊し、かの世界から（この愛欲界に）還らない法則の人となった。

アーナンダよ、ニカタ帰依信男は、五つの下位に結びつけるきずなを完全に破

壊することによって、随意の再生をする者となり、そこで完全煩悩破壊し、かの世界から（この愛欲界に）還らない法則の人となった。

アーナンダよ、カティッサハ帰依信男は、五つの下位に結びつけるきずなを完全に破壊することによって、随意の再生をする者となり、そこで完全煩悩破壊し、かの世界から（この愛欲界に）還らない法則の人となった。

アーナンダよ、トゥッタ帰依信男は、五つの下位に結びつけるきずなを完全に破壊することによって、随意の再生をする者となり、そこで完全煩悩破壊し、かの世界から（この愛欲界に）還らない法則の人となった。

アーナンダよ、サントゥッタ帰依信男は、五つの下位に結びつけるきずなを完全に破壊することによって、随意の再生をする者となり、そこで完全煩悩破壊し、かの世界から（この愛欲界に）還らない法則の人となった。

アーナンダよ、バッダ帰依信男は、五つの下位に結びつけるきずなを完全に破壊することによって、随意の再生をする者となり、そこで完全煩悩破壊し、かの

世界から（この愛欲界に）還らない法則の人となった。

アーナンダよ、スバッダ帰依信男は、五つの下位に結びつけるきずなを完全に破壊することによって、随意の再生をする者となり、そこで完全煩悩破壊し、かの世界から（この愛欲界に）還らない法則の人となった。

すべての者が、一つの方向をなすことができた。

四　アーナンダよ、五十以上の帰依信男がニャーティカで逝って、五つの下位に結びつけるきずなを完全に破壊することによって、随意の再生をする者となり、そこで完全煩悩破壊し、かの世界から（この愛欲界に）還らない法則の人となったのである。

アーナンダよ、九十を超える帰依信男がニャーティカで逝って、三つのきずなを完全に破壊することによって、愛著・邪悪心・迷妄が削減し、（愛欲界に）一度だけ再生する人となり、ただ一度だけこの世界に来て、苦しみの終極を行なうであろう。

アーナンダよ、五百六余りの帰依信男がニャーティカで逝って、三つのきずなを完全に破壊することによって、真理の流れに入った人であり、破滅にならない法則そのものであり、素晴らしい未来に対する確定者であり、正覚を最終地点とするのである。

五　しかし、アーナンダよ、人間が逝くということのことは、不思議なことではない。もしそれぞれの人が逝ったとき、わたしの所に至って、この意義を質問するならば、アーナンダよ、これはまさに真理勝者を困らせることとなるであろう。

アーナンダよ、だから、法則の鏡という名前の法則の要点を指し示そう。聖なる多学の弟子がこれを具足し、自分自身のために願うことによって、『激苦地獄が破壊され、動物としての発生が破壊され、低級霊域が破壊され、離別・悲痛に向かうこと・破滅が破壊され、わたしは真理の流れに入った人であり、破滅にならない法則そのものであり、素晴らしい未来に対する確定者であり、正覚を最終地点とする』と、自分自身を明らかにすることができる。

六　アーナンダよ、そして、聖なる多学の弟子がこれを具足し、自分自身のために願うことによって、『激苦地獄が破壊され、動物としての発生が破壊され、低級霊域が破壊され、離別・悲痛に向かうこと・破滅が破壊され、わたしは真理の流れに入った人であり、破滅にならない法則そのものであり、素晴らしい未来に対する確定者であり、正覚を最終地点とする』と、自分自身を明らかにすることができる、法則の鏡・法則の要点とは何であろうか。

七　アーナンダよ、ここに聖なる多学の弟子は、覚者に対して絶対の浄信を具足する。

『このように同様に、かの世尊は、供養値魂・最上正覚者・智徳成就者・最上善逝・世間解・無上士・丈夫調御者・天人師・覚者・世尊である』と。

法則に対して絶対の浄信を具足する。

『正しく言明された世尊による法則は、現実に利益をもたらし、直接的であり、すべての人に理解できるように説かれており、煩悩破壊へ導き、それぞれの識別

によって理解できる』と。

出家教団に対して絶対の浄信を具足する。

『世尊の多学の弟子出家教団は、善につき従い、世尊の多学の弟子出家教団は、誠実に従い、世尊の多学の弟子出家教団は、正しい体系に従い、世尊の多学の弟子出家教団は、正しい法則にのっとり日々を送るという、すなわち、この世尊の多学の弟子出家教団は、四対の人々-八つの宗教的特性を持つ人々であって、崇拝に値し、厚遇されるに値し、寄贈を受けるに値し、合掌されるに値し、世界の無上の功徳の田畑である』と。

聖人が愛する種々の戒を具足する。

『聖なる戒であり、道徳的に肯定されるべきものであり、悪趣に落ちない戒であり、純粋な戒であり、煩悩から解放する戒であり、識者に称賛され、煩悩に負けないための戒であり、サマディに貢献する』と。

アーナンダよ、これが、聖なる多学の弟子がこれを具足し、自分自身のために

願うことによって、『激苦地獄が破壊され、動物としての発生が破壊され、低級霊域が破壊され、離別・悲痛に向かうこと・破滅が破壊され、わたしは真理の流れに入った人であり、破滅にならない法則そのものであり、素晴らしい未来に対する確定者であり、正覚を最終地点とする』と、自分自身を明らかにすることができる、法則の鏡・法則の要点なのである」と。

第一　竹門品

その経群

国王、直結、ディーガーヴ、
次のサーリプッタが二つ、
種々の武官、竹門の人々、
三つのレンガの家をと。

第二　数千、あるいは国王の大庭園品

【一】第一　千

一　あるとき、世尊はサーヴァッティの国王の大庭園にとどまっておられた。

二　直ちに、千人の向煩悩滅尽多学女出家教団は、世尊の所に行った。行くと、世尊に敬礼してそばにとどまった。

三　そばにとどまったその向煩悩滅尽多学女たちに、実に世尊はこう演説なさった。

「向煩悩滅尽多学女たちよ、四つの法則を具足した聖なる多学の弟子は、真理の流れに入った人であり、破滅にならない法則そのものであり、素晴らしい未来に対する確定者であり、正覚を最終地点とするのである。四つとは何であろうか。

四　向煩悩滅尽多学女たちよ、ここに聖なる多学の弟子は、覚者に対して絶対の浄信を具足する。

『このように同様に、かの世尊は、供養値魂・最上正覚者・智徳成就者・最上善逝・世間解・無上士・丈夫調御者・天人師・覚者・世尊である』と。

五　法則に対して絶対の浄信を具足する。

『正しく言明された世尊による法則は、現実に利益をもたらし、直接的であり、すべての人に理解できるように説かれており、煩悩破壊へ導き、それぞれの識別によって理解できる』と。

六　出家教団に対して絶対の浄信を具足する。

『世尊の多学の弟子出家教団は、善につき従い、世尊の多学の弟子出家教団は、誠実に従い、世尊の多学の弟子出家教団は、正しい体系に従い、世尊の多学の弟子出家教団は、正しい法則にのっとり日々を送るという、すなわち、この世尊の多学の弟子出家教団は、四対の人々-八つの宗教的特性を持つ人々であって、崇拝に値し、厚遇されるに値し、寄贈を受けるに値し、合掌されるに値し、世界の無上の功徳の田畑である』と。

七　聖人が愛する種々の戒を具足する。『聖なる戒であり、道徳的に肯定されるべきものであり、悪趣に落ちない戒であり、純粋な戒であり、煩悩から解放する戒であり、識者に称賛され、煩悩に負けないための戒であり、サマディに貢献する』と。

八　向煩悩滅尽多学女たちよ、これら四つの法則を具足した聖なる多学の弟子は、真理の流れに入った人であり、破滅にならない法則そのものであり、素晴らしい未来に対する確定者であり、正覚を最終地点とするのである。」

【一二】第二　祭司

一、二　サーヴァッティの地にて。

三「向煩悩滅尽多学男たちよ、祭司たちは『上向に至る』という名前の方法を示し、多学の弟子をこのように鼓舞するのである。

『いいかい男よ、来なさい。お前は早く起きて、東に向かって行け。そのお前は不精を避けるな。窮地を避けるな。根株（つまずく要因となる障害）を避けるな。とげのある植物の場所を避けるな。村の入り口の汚い池を避けるな。村の近くの汚い池を避けるな。前方に崩れ落ちた所で死に近づくべきだ。いいかい、男よ。このようにしてお前は、身体が破壊してから死後、幸福に向かうことである天の世界へ流転するだろう。』

四　向煩悩滅尽多学男たちよ、しかし、祭司たちにはこの愚者として進むこと、この宗教的に罪深いこととして進むことはあるが、これは、現世否定・離愛著・滅尽・臨寂静（りんじゃくせい）・証智・正覚・煩悩破壊に至らしめることはないのである。

向煩悩滅尽多学男たちよ、わたしもまた、聖なる修行において上向に至る方法を示す。そして、それは完全なる現世否定・離愛著・滅尽・臨寂静・証智・正覚・煩悩破壊に至らしめるのである。向煩悩滅尽多学男たちよ、そして、完全なる現世否定・離愛著・滅尽・臨寂静・証智・正覚・煩悩破壊に至らしめる、上向に至

る方法とは何であろうか。

五　向煩悩滅尽多学男たちよ、ここに聖なる多学の弟子は、覚者に対して絶対の浄信を具足する。

『このように同様に、かの世尊は、供養値魂・最上正覚者・智徳成就者・最上善逝・世間解・無上士・丈夫調御者・天人師・覚者・世尊である』と。

法則に対して絶対の浄信を具足する。

『正しく言明された世尊による法則は、現実に利益をもたらし、直接的であり、すべての人に理解できるように説かれており、煩悩破壊へ導き、それぞれの識別によって理解できる』と。

出家教団に対して絶対の浄信を具足する。

『世尊の多学の弟子出家教団は、善につき従い、世尊の多学の弟子出家教団は、誠実に従い、世尊の多学の弟子出家教団は、正しい体系に従い、世尊の多学の弟子出家教団は、正しい法則にのっとり日々を送るという、すなわち、この世尊の

多学の弟子出家教団は、四対の人々-八つの宗教的特性を持つ人々であって、崇拝に値し、厚遇されるに値し、寄贈を受けるに値し、合掌されるに値し、世界の無上の功徳の田畑である』と。

聖人が愛する種々の戒を具足する。

『聖なる戒であり、道徳的に肯定されるべきものであり、悪趣に落ちない戒であり、純粋な戒であり、煩悩から解放する戒であり、識者に称賛され、煩悩に負けないための戒であり、サマディに貢献する』と。

六　向煩悩滅尽多学男たちよ、これがその上向に至る方法であり、それは完全なる現世否定・離愛著・滅尽・臨寂静・証智・正覚・煩悩破壊に至らしめるのである。」

【一三】第三　アーナンダ

一　あるとき、聖者アーナンダと聖者サーリプッタは、サーヴァッティのジェータ林にあるアナータピンディカの大庭園にとどまっていた。

二　直ちに、聖者サーリプッタは夕刻に独居から立ち上がって、聖者アーナンダの所に行った。行くと、聖者アーナンダとお互いに親しいあいさつを交わし、友情のこもった丁寧な談話を交わして、そばに座った。そばに座った聖者サーリプッタは、実に聖者アーナンダにこう言った。

三「友アーナンダよ、いくつの法則を捨断し、いくつの法則を具足することを原因として、このように、この弟子は真理の流れに入った人であり、破滅にならない法則そのものであり、素晴らしい未来に対する確定者であり、正覚を最終地点とすると、世尊は明らかになさるのであろうか。」

四「友よ、四つの法則を捨断し、四つの法則を具足することを原因として、このように、この弟子は真理の流れに入った人であり、破滅にならない法則そのもの

のであり、素晴らしい未来に対する確定者であり、正覚を最終地点とすると、世尊は明らかになさるのです。四つとは何でしょうか。

五　友よ、世尊に対する誹謗（ひぼう）を具足する無学の普通の人は、身体が破壊してから死後、離別であり、悲痛に向かうことであり、破滅である激苦地獄に流転しますが、世尊に対しては、そのような誹謗は存在しません。

友よ、覚者に対する絶対の浄信を具足する有学（ゆうがく）の聖なる多学の弟子は、身体が破壊してから死後、幸福に向かうことである天の世界に流転しますが、世尊に対しては、そのような絶対の浄信が存在するのです。

『このように同様に、かの世尊は、供養値魂・最上正覚者・智徳成就者・最上善逝・世間解・無上士・丈夫調御者・天人師・覚者・世尊である』と。

六　友よ、法則に対する誹謗を具足する無学の普通の人は、身体が破壊してから死後、離別であり、悲痛に向かうことであり、破滅である激苦地獄に流転しますが、法則に対しては、そのような誹謗は存在しません。

友よ、法則に対する絶対の浄信を具足する有学の聖なる多学の弟子は、身体が破壊してから死後、幸福に向かうことである天の世界に流転しますが、法則に対しては、そのような絶対の浄信が存在するのです。

『正しく言明された世尊による法則は、現実に利益をもたらし、直接的であり、すべての人に理解できるように説かれており、煩悩破壊へ導き、それぞれの識別によって理解できる』と。

七　友よ、出家教団に対する誹謗を具足する無学の普通の人は、身体が破壊してから死後、離別であり、悲痛に向かうことであり、破滅である激苦地獄に流転しますが、出家教団に対しては、そのような誹謗は存在しません。

友よ、出家教団に対する絶対の浄信を具足する有学の聖なる多学の弟子は、身体が破壊してから死後、幸福に向かうことである天の世界に流転しますが、出家教団に対しては、そのような絶対の浄信が存在するのです。

『世尊の多学の弟子出家教団は、善につき従い、世尊の多学の弟子出家教団は、

誠実に従い、世尊の多学の弟子出家教団は、正しい体系に従い、世尊の多学の弟子出家教団は、正しい法則にのっとり日々を送るという、すなわち、この世尊の多学の弟子出家教団は、四対の人々・八つの宗教的特性を持つ人々であって、崇拝に値し、厚遇されるに値し、寄贈を受けるに値し、合掌されるに値し、世界の無上の功徳の田畑である』と。

八　友よ、破戒を具足する無学の普通の人は、身体が破壊してから死後、悲痛に向かうことであり、破滅である激苦地獄に流転しますが、そのような破戒によって存在するのです。

友よ、聖人が愛する種々の戒を具足する有学の聖なる多学の弟子は、身体が破壊してから死後、幸福に向かうことである天の世界に流転しますが、そのような聖人が愛する種々の戒があるのです。

『聖なる戒であり、道徳的に肯定されるべきものであり、悪趣に落ちない戒であり、純粋な戒であり、煩悩から解放する戒であり、識者に称賛され、煩悩に負け

ないための戒であり、サマディに貢献する』と。
九　友よ、これら四つの法則を捨断し、これら四つの法則を具足することを原因として、このように、この弟子は真理の流れに入った人であり、破滅にならない法則そのものであり、素晴らしい未来に対する確定者であり、正覚を最終地点とすると、世尊は明らかになさるのです。」

【一四】第四　悲痛に向かうこと（一）

三「向煩悩滅尽多学男たちよ、四つの法則を具足した聖なる多学の弟子は、すべての悲痛に向かうことの恐怖から自由になるのである。四つとは何であろうか。
四　向煩悩滅尽多学男たちよ、ここに聖なる多学の弟子は、覚者に対して絶対の浄信を具足する。
『このように同様に、かの世尊は、供養値魂・最上正覚者・智徳成就者・最上善

逝・世間解・無上士・丈夫調御者・天人師・覚者・世尊である』と。

五　法則に対して絶対の浄信を具足する。

『正しく言明された世尊による法則は、現実に利益をもたらし、直接的であり、すべての人に理解できるように説かれており、煩悩破壊へ導き、それぞれの識別によって理解できる』と。

六　出家教団に対して絶対の浄信を具足する。

『世尊の多学の弟子出家教団は、善につき従い、世尊の多学の弟子出家教団は、誠実に従い、世尊の多学の弟子出家教団は、正しい体系に従い、世尊の多学の弟子出家教団は、正しい法則にのっとり日々を送るという、すなわち、この世尊の多学の弟子出家教団は、四対の人々・八つの宗教的特性を持つ人々であって、崇拝に値し、厚遇されるに値し、寄贈を受けるに値し、合掌されるに値し、世界の無上の功徳の田畑である』と。

七　聖人が愛する種々の戒を具足する。

『聖なる戒であり、道徳的に肯定されるべきものであり、悪趣に落ちない戒であり、純粋な戒であり、煩悩から解放する戒であり、識者に称賛され、煩悩に負けないための戒であり、サマディに貢献する』と。

八　向煩悩滅尽多学男たちよ、これら四つの法則を具足した聖なる多学の弟子は、すべての悲痛に向かうことの恐怖から自由になるのである」と。

【一五】　第五　悲痛に向かうこと（二）

三　「向煩悩滅尽多学男たちよ、四つの法則を具足した聖なる多学の弟子は、すべての悲痛に向かうことと破滅の恐怖から自由になるのである。

四　向煩悩滅尽多学男たちよ、ここに聖なる多学の弟子は、覚者に対して絶対の浄信を具足する。

『このように同様に、かの世尊は、供養値魂・最上正覚者・智徳成就者・最上善

逝・世間解・無上士・丈夫調御者・天人師・覚者・世尊である』と。

五　法則に対して絶対の浄信を具足する。

『正しく言明された世尊による法則は、現実に利益をもたらし、直接的であり、すべての人に理解できるように説かれており、煩悩破壊へ導き、それぞれの識別によって理解できる』と。

六　出家教団に対して絶対の浄信を具足する。

『世尊の多学の弟子出家教団は、善につき従い、世尊の多学の弟子出家教団は、誠実に従い、世尊の多学の弟子出家教団は、正しい体系に従い、世尊の多学の弟子出家教団は、正しい法則にのっとり日々を送るという、すなわち、この世尊の多学の弟子出家教団は、四対の人々-八つの宗教的特性を持つ人々であって、崇拝に値し、厚遇されるに値し、寄贈を受けるに値し、合掌されるに値し、世界の無上の功徳の田畑である』と。

七　聖人が愛する種々の戒を具足する。

『聖なる戒であり、道徳的に肯定されるべきものであり、悪趣に落ちない戒であり、純粋な戒であり、煩悩から解放する戒であり、識者に称賛され、煩悩に負けないための戒であり、サマディに貢献する』と。

八　向煩悩滅尽多学男たちよ、これら四つの法則を具足した聖なる多学の弟子は、すべての悲痛に向かうことと破滅の恐怖から自由になるのである」と。

【一六】第六　友による友人たち（一）

三　「向煩悩滅尽多学男たちよ、全く慈しみなさい、そして聴聞すべきことを考えさせなさい、友達や友人たちや親族たちや親類たちのことを。向煩悩滅尽多学男たちよ、彼らは実に、四つの真理の流れに入る段階において、鼓舞され、定着され、確立されなければならない。四つとは何であろうか。

四　覚者に対する絶対の浄信において、鼓舞され、定着され、確立されなければ

ならない。

『このように同様に、かの世尊は、供養値魂・最上正覚者・智徳成就者・最上善逝・世間解・無上士・丈夫調御者・天人師・覚者・世尊である』と。

法則に対する絶対の浄信において、鼓舞され、定着され、確立されなければならない。

『正しく言明された世尊による法則は、現実に利益をもたらし、直接的であり、すべての人に理解できるように説かれており、煩悩破壊へ導き、それぞれの識別によって理解できる』と。

出家教団に対する絶対の浄信において、鼓舞され、定着され、確立されなければならない。

『世尊の多学の弟子出家教団は、善につき従い、世尊の多学の弟子出家教団は、誠実に従い、世尊の多学の弟子出家教団は、正しい体系に従い、世尊の多学の弟子出家教団は、正しい法則にのっとり日々を送るという、すなわち、この世尊の

多学の弟子出家教団は、四対の人々・八つの宗教的特性を持つ人々であって、崇拝に値し、厚遇されるに値し、寄贈を受けるに値し、合掌されるに値し、世界の無上の功徳の田畑である』と。

聖人が愛する種々の戒において、鼓舞され、定着され、確立されなければならない。

『聖なる戒であり、道徳的に肯定されるべきものであり、悪趣に落ちない戒であり、純粋な戒であり、煩悩から解放する戒であり、識者に称賛され、煩悩に負けないための戒であり、サマディに貢献する』と。

五　向煩悩滅尽多学男たちよ、慈しみなさい、そして聴聞すべきことを考えさせなさい、友達や友人たちや親族たちや親類たちのことを。向煩悩滅尽多学男たちよ、彼らは君たちによって、これら四つの真理の流れに入る段階において、鼓舞され、定着され、確立されなければならない」と。

【一七】第七　友による友人たち（二）

三　「向煩悩滅尽多学男たちよ、慈しみなさい、そして聴聞すべきことを考えさせなさい、友達や友人たちや親族たちや親類たちのことを。向煩悩滅尽多学男たちよ、彼らは君たちによって、四つの真理の流れに入る段階において、鼓舞され、定着され、確立されなければならない。四つとは何であろうか。

四　覚者に対する絶対の浄信において、鼓舞され、定着され、確立されなければならない。

『このように同様に、かの世尊は、供養値魂・最上正覚者・智徳成就者・最上善逝・世間解・無上士・丈夫調御者・天人師・覚者・世尊である』と。

向煩悩滅尽多学男たちよ、地の要素・水の要素・火の要素・風の要素において、四大元素には重大な変化があるだろう。しかしながら、覚者に対する絶対の浄信を具足した聖なる多学の弟子には、重大な変化がないだろう。

そこでこの重大な変化とは、『覚者に対する絶対の浄信を具足した、その聖な

る多学の弟子が、激苦地獄や動物としての発生や低級霊域に流転する』ということであるが、この道理は存在しないのである。

五　法則に対する絶対の浄信において、鼓舞され、定着され、確立されなければならない。

『正しく言明された世尊による法則は、現実に利益をもたらし、直接的であり、すべての人に理解できるように説かれており、煩悩破壊へ導き、それぞれの識別によって理解できる』と。

向煩悩滅尽多学男たちよ、地の要素・水の要素・火の要素・風の要素において、四大元素には重大な変化があるだろう。しかしながら、法則に対する絶対の浄信を具足した聖なる多学の弟子には、重大な変化がないだろう。

そこでこの重大な変化とは、『法則に対する絶対の浄信を具足した、その聖なる多学の弟子が、激苦地獄や動物としての発生や低級霊域に流転する』ということであるが、この道理は存在しないのである。

六　出家教団に対する絶対の浄信において、鼓舞され、定着され、確立されなければならない。

『世尊の多学の弟子出家教団は、善につき従い、世尊の多学の弟子出家教団は、誠実に従い、世尊の多学の弟子出家教団は、正しい体系に従い、世尊の多学の弟子出家教団は、正しい法則にのっとり日々を送るという、すなわち、この世尊の多学の弟子出家教団は、四対の人々・八つの宗教的特性を持つ人々であって、崇拝に値し、厚遇されるに値し、寄贈を受けるに値し、合掌されるに値し、世界の無上の功徳の田畑である』と。

向煩悩滅尽多学男たちよ、地の要素・水の要素・火の要素・風の要素において、四大元素には重大な変化があるだろう。しかしながら、出家教団に対する絶対の浄信を具足した聖なる多学の弟子には、重大な変化がないだろう。

そこでこの重大な変化とは、『出家教団に対する絶対の浄信を具足した、その聖なる多学の弟子が、激苦地獄や動物としての発生や低級霊域に流転する』とい

うことであるが、この道理は存在しないのである。

七　聖人が愛する種々の戒において、鼓舞され、定着され、確立されなければならない。

『聖なる戒であり、道徳的に肯定されるべきものであり、悪趣に落ちない戒であり、純粋な戒であり、煩悩から解放する戒であり、識者に称賛され、煩悩に負けないための戒であり、サマディに貢献する』と。

向煩悩滅尽多学男たちよ、地の要素・水の要素・火の要素・風の要素において、四大元素には重大な変化があるだろう。しかしながら、聖人が愛する種々の戒を具足した聖なる多学の弟子には、重大な変化がないだろう。

そこでこの重大な変化とは、『聖人が愛する種々の戒を具足した、その聖なる多学の弟子が、激苦地獄や動物としての発生や低級霊域に流転する』ということであるが、この道理は存在しないのである。

八　向煩悩滅尽多学男たちよ、慈しみなさい、そして聴聞すべきことを考えさせ

なさい、友達や友人たちや親族たちや親類たちのことを。向煩悩滅尽多学男たちよ、彼らは君たちによって、これら四つの真理の流れに入る段階において、鼓舞され、定着され、確立されなければならない」と。

【一八】第八　愛欲神の旅行（一）

一　サーヴァッティの地にて。

二　直ちに、聖者マハーモッガラーナ（偉大なる乗り物の軌道）は、例として、力のある男が曲げた腕を伸ばし、伸ばした腕を曲げるという、まさにこのように、ジェータ林で消滅して、三十三愛欲神天に生じたのである。

三　直ちに、多くの三十三天衆の愛欲本質神たちは、聖者マハーモッガラーナの所に行った。行くと、聖者マハーモッガラーナに敬礼してそばにとどまった。そばにとどまったその愛欲本質神たちに、実に聖者マハーモッガラーナはこう言っ

た。

四　「素晴らしいことだ、友よ。覚者に対して絶対の浄信を具足することは。『このように同様に、かの世尊は、供養値魂・最上正覚者・智徳成就者・最上善逝・世間解・無上士・丈夫調御者・天人師・覚者・世尊である』と。

友よ、覚者に対して絶対の浄信を具足することを原因として、このように、ここにある種々の生命体は、身体が破壊してから死後、幸福に向かうことである天の世界に流転するのである。

五　素晴らしいことだ、友よ。法則に対して絶対の浄信を具足することは。『正しく言明された世尊による法則は、現実に利益をもたらし、直接的であり、すべての人に理解できるように説かれており、煩悩破壊へ導き、それぞれの識別によって理解できる』と。

友よ、法則に対して絶対の浄信を具足することを原因として、このように、ここにある種々の生命体は、身体が破壊してから死後、幸福に向かうことである天

の世界に流転するのである。

六　素晴らしいことだ、友よ。出家教団に対して絶対の浄信を具足することは。

『世尊の多学の弟子出家教団は、善につき従い、世尊の多学の弟子出家教団は、誠実に従い、世尊の多学の弟子出家教団は、正しい体系に従い、世尊の多学の弟子出家教団は、正しい法則にのっとり日々を送るという、すなわち、この世尊の多学の弟子出家教団は、四対の人々・八つの宗教的特性を持つ人々であって、崇拝に値し、厚遇されるに値し、寄贈を受けるに値し、合掌されるに値し、世界の無上の功徳の田畑である』と。

友よ、出家教団に対して絶対の浄信を具足することを原因として、このように、ここにある種々の生命体は、身体が破壊してから死後、幸福に向かうことである天の世界に流転するのである。

七　素晴らしいことだ、友よ。聖人が愛する種々の戒を具足することは。

『聖なる戒であり、道徳的に肯定されるべきものであり、悪趣に落ちない戒であ

り、純粋な戒であり、煩悩から解放する戒であり、識者に称賛され、煩悩に負けないための戒であり、サマディに貢献する』と。

友よ、聖人が愛する種々の戒を具足することを原因として、このように、ここにある種々の生命体は、身体が破壊してから死後、幸福に向かうことである天の世界に流転するのである。」

八　「素晴らしいことです、尊い人マハーモッガラーナよ。覚者に対して絶対の浄信を具足することは。

『このように同様に、かの世尊は、供養値魂・最上正覚者・智徳成就者・最上善逝・世間解・無上士・丈夫調御者・天人師・覚者・世尊である』と。

尊い人マハーモッガラーナよ、覚者に対して絶対の浄信を具足することを原因として、このように、ここにある種々の生命体は、身体が破壊してから死後、幸福に向かうことである天の世界に流転するのです。

九　素晴らしいことです、尊い人マハーモッガラーナよ。法則に対して絶対の浄

信を具足することは。
『正しく言明された世尊による法則は、現実に利益をもたらし、直接的であり、すべての人に理解できるように説かれており、煩悩破壊へ導き、それぞれの識別によって理解できる』と。

尊い人マハーモッガラーナよ、法則に対して絶対の浄信を具足することを原因として、このように、ここにある種々の生命体は、身体が破壊してから死後、幸福に向かうことである天の世界に流転するのです。

一〇　素晴らしいことです、尊い人マハーモッガラーナよ。出家教団に対して絶対の浄信を具足することは。
『世尊の多学の弟子出家教団は、善につき従い、世尊の多学の弟子出家教団は、誠実に従い、世尊の多学の弟子出家教団は、正しい体系に従い、世尊の多学の弟子出家教団は、正しい法則にのっとり日々を送るという、すなわち、この世尊の多学の弟子出家教団は、四対の人々-八つの宗教的特性を持つ人々であって、崇

拝に値し、厚遇されるに値し、寄贈を受けるに値し、合掌されるに値し、世界の無上の功徳の田畑である』と。

尊い人マハーモッガラーナよ、出家教団に対して絶対の浄信を具足することを原因として、このように、ここにある種々の生命体は、身体が破壊してから死後、幸福に向かうことである天の世界に流転するのです。

一一　素晴らしいことです、尊い人マハーモッガラーナよ。聖人が愛する種々の戒を具足することは。

『聖なる戒であり、道徳的に肯定されるべきものであり、悪趣に落ちない戒であり、純粋な戒であり、煩悩から解放する戒であり、識者に称賛され、煩悩に負けないための戒であり、サマディに貢献する』と。

尊い人マハーモッガラーナよ、聖人が愛する種々の戒を具足することを原因として、このように、ここにある種々の生命体は、身体が破壊してから死後、幸福に向かうことである天の世界に流転するのです。」

【一九】第九　愛欲神の旅行（二）

一　あるとき、聖者マハーモッガラーナはサーヴァッティのジェータ林にあるアナータピンディカの大庭園にとどまっていた。

二　直ちに、聖者マハーモッガラーナは、例として、力のある男が曲げた腕を伸ばし、伸ばした腕を曲げるという、まさにこのように、ジェータ林で消滅して、三十三愛欲神天に生じたのである。

三　直ちに、多くの三十三天衆の愛欲本質神たちは、聖者マハーモッガラーナの所に行った。行くと、聖者マハーモッガラーナに敬礼してそばにとどまった。そばにとどまったその愛欲本質神たちに、実に聖者マハーモッガラーナはこう言った。

四「素晴らしいことだ、友よ。覚者に対して絶対の浄信を具足することは。『このように同様に、かの世尊は、供養値魂・最上正覚者・智徳成就者・最上善逝・世間解・無上士・丈夫調御者・天人師・覚者・世尊である』と。

友よ、覚者に対して絶対の浄信を具足することを原因として、このように、ここにある種々の生命体は、身体が破壊してから死後、幸福に向かうことである天の世界に流転したのである。

五　素晴らしいことだ、友よ。法則に対して絶対の浄信を具足することは。『正しく言明された世尊による法則は、現実に利益をもたらし、直接的であり、すべての人に理解できるように説かれており、煩悩破壊へ導き、それぞれの識別によって理解できる』と。

友よ、法則に対して絶対の浄信を具足することを原因として、このように、ここにある種々の生命体は、身体が破壊してから死後、幸福に向かうことである天の世界に流転したのである。

六　素晴らしいことだ、友よ。出家教団に対して絶対の浄信を具足することは。『世尊の多学の弟子出家教団は、善につき従い、世尊の多学の弟子出家教団は、誠実に従い、世尊の多学の弟子出家教団は、正しい体系に従い、世尊の多学の弟

子出家教団は、正しい法則にのっとり日々を送るという、すなわち、この世尊の多学の弟子出家教団は、四対の人々・八つの宗教的特性を持つ人々であって、崇拝に値し、厚遇されるに値し、寄贈を受けるに値し、合掌されるに値し、世界の無上の功徳の田畑である』と。

友よ、出家教団に対して絶対の浄信を具足することを原因として、このように、ここにある種々の生命体は、身体が破壊してから死後、幸福に向かうことである天の世界に流転したのである。

七　素晴らしいことだ、友よ。聖人が愛する種々の戒を具足することは。『聖なる戒であり、道徳的に肯定されるべきものであり、悪趣に落ちない戒であり、純粋な戒であり、煩悩から解放する戒であり、識者に称賛され、煩悩に負けないための戒であり、サマディに貢献する』と。

友よ、聖人が愛する種々の戒を具足することを原因として、このように、ここにある種々の生命体は、身体が破壊してから死後、幸福に向かうことである天の

世界に流転したのである。」

八　「素晴らしいことです、尊い人マハーモッガラーナよ。覚者に対して絶対の浄信を具足することは。

『このように同様に、かの世尊は、供養値魂・最上正覚者・智徳成就者・最上善逝・世間解・無上士・丈夫調御者・天人師・覚者・世尊である』と。

　尊い人マハーモッガラーナよ、覚者に対して絶対の浄信を具足することを原因として、このように、ここにある種々の生命体は、身体が破壊してから死後、幸福に向かうことである天の世界に流転したのです。

九　素晴らしいことです、尊い人マハーモッガラーナよ。法則に対して絶対の浄信を具足することは。

『正しく言明された世尊による法則は、現実に利益をもたらし、直接的であり、すべての人に理解できるように説かれており、煩悩破壊へ導き、それぞれの識別によって理解できる』と。

尊い人マハーモッガラーナよ、法則に対して絶対の浄信を具足することを原因として、このように、ここにある種々の生命体は、身体が破壊してから死後、幸福に向かうことである天の世界に流転したのです。

一〇　素晴らしいことです、尊い人マハーモッガラーナよ。出家教団に対して絶対の浄信を具足することは。

『世尊の多学の弟子出家教団は、善につき従い、世尊の多学の弟子出家教団は、誠実に従い、世尊の多学の弟子出家教団は、正しい体系に従い、世尊の多学の弟子出家教団は、正しい法則にのっとり日々を送るという、すなわち、この世尊の多学の弟子出家教団は、四対の人々・八つの宗教的特性を持つ人々であって、崇拝に値し、厚遇されるに値し、寄贈を受けるに値し、合掌されるに値し、世界の無上の功徳の田畑である』と。

尊い人マハーモッガラーナよ、出家教団に対して絶対の浄信を具足することを原因として、このように、ここにある種々の生命体は、身体が破壊してから死後、

幸福に向かうことである天の世界に流転したのです。

一一　素晴らしいことです、尊い人マハーモッガラーナよ。聖人が愛する種々の戒を具足することは。

『聖なる戒であり、道徳的に肯定されるべきものであり、悪趣に落ちない戒であり、純粋な戒であり、煩悩から解放する戒であり、識者に称賛され、煩悩に負けないための戒であり、サマディに貢献する』と。

尊い人マハーモッガラーナよ、聖人が愛する種々の戒を具足することを原因として、このように、ここにある種々の生命体は、身体が破壊してから死後、幸福に向かうことである天の世界に流転したのです。」

【三〇】第十　愛欲神の旅行（三）

二　直ちに、世尊は、例として、力のある男が曲げた腕を伸ばし、伸ばした腕を

曲げるという、まさにこのように、ジェータ林で消滅して、三十三愛欲神天に生じられたのである。

三 直ちに、多くの三十三天衆の愛欲本質神たちは、世尊の所に行った。行くと、世尊に敬礼してそばにとどまった。そばにとどまったその愛欲本質神たちに、実に世尊はこう演説なさった。

四 「素晴らしいことだ、友よ。覚者に対して絶対の浄信を具足することは。『このように同様に、かの世尊は、供養値魂・最上正覚者・智徳成就者・最上善逝・世間解・無上士・丈夫調御者・天人師・覚者・世尊である』と。

友よ、覚者に対して絶対の浄信を具足することを原因として、このように、ここにある種々の生命体は、真理の流れに入った人であり、破滅にならない法則そのものであり、素晴らしい未来に対する確定者であり、正覚を最終地点とするのである。

五 素晴らしいことだ、友よ。法則に対して絶対の浄信を具足することは。

『正しく言明された世尊による法則は、現実に利益をもたらし、直接的であり、すべての人に理解できるように説かれており、煩悩破壊へ導き、それぞれの識別によって理解できる』と。

友よ、法則に対して絶対の浄信を具足することを原因として、このように、ここにある種々の生命体は、真理の流れに入った人であり、破滅にならない法則そのものであり、素晴らしい未来に対する確定者であり、正覚を最終地点とするのである。

六　素晴らしいことだ、友よ。出家教団に対して絶対の浄信を具足することとは。

『世尊の多学の弟子出家教団は、善につき従い、世尊の多学の弟子出家教団は、誠実に従い、世尊の多学の弟子出家教団は、正しい体系に従い、世尊の多学の弟子出家教団は、正しい法則にのっとり日々を送るという、すなわち、この世尊の多学の弟子出家教団は、四対の人々-八つの宗教的特性を持つ人々であって、崇拝に値し、厚遇されるに値し、寄贈を受けるに値し、合掌されるに値し、世界の

無上の功徳の田畑である』と。
友よ、出家教団に対して絶対の浄信を具足することを原因として、このように、ここにある種々の生命体は、真理の流れに入った人であり、破滅にならない法則そのものであり、素晴らしい未来に対する確定者であり、正覚を最終地点とするのである。

七 素晴らしいことだ、友よ。聖人が愛する種々の戒を具足することは。
『聖なる戒であり、道徳的に肯定されるべきものであり、悪趣に落ちない戒であり、純粋な戒であり、煩悩から解放する戒であり、識者に称賛され、煩悩に負けないための戒であり、サマディに貢献する』と。
友よ、聖人が愛する種々の戒を具足することを原因として、このように、ここにある種々の生命体は、真理の流れに入った人であり、破滅にならない法則そのものであり、素晴らしい未来に対する確定者であり、正覚を最終地点とするのである。」

八　「素晴らしいことです、尊い人よ。覚者に対して絶対の浄信を具足することは。『このように同様に、かの世尊は、供養値魂・最上正覚者・智徳成就者・最上善逝・世間解・無上士・丈夫調御者・天人師・覚者・世尊である』と。

尊い人よ、覚者に対して絶対の浄信を具足することを原因として、このように、この弟子は、真理の流れに入った人であり、破滅にならない法則そのものであり、素晴らしい未来に対する確定者であり、正覚を最終地点とするのです。

九　素晴らしいことです、尊い人よ。法則に対して絶対の浄信を具足することは。『正しく言明された世尊による法則は、現実に利益をもたらし、直接的であり、すべての人に理解できるように説かれており、煩悩破壊へ導き、それぞれの識別によって理解できる』と。

尊い人よ、法則に対して絶対の浄信を具足することを原因として、このように、この弟子は、真理の流れに入った人であり、破滅にならない法則そのものであり、素晴らしい未来に対する確定者であり、正覚を最終地点とするのです。

一〇　素晴らしいことです、尊い人よ。出家教団に対して絶対の浄信を具足することは。

『世尊の多学の弟子出家教団は、善につき従い、世尊の多学の弟子出家教団は、誠実に従い、世尊の多学の弟子出家教団は、正しい体系に従い、世尊の多学の弟子出家教団は、正しい法則にのっとり日々を送るという、すなわち、この世尊の多学の弟子出家教団は、四対の人々-八つの宗教的特性を持つ人々であって、崇拝に値し、厚遇されるに値し、寄贈を受けるに値し、合掌されるに値し、世界の無上の功徳の田畑である』と。

尊い人よ、出家教団に対して絶対の浄信を具足することを原因として、このように、この弟子は、真理の流れに入った人であり、破滅にならない法則そのものであり、素晴らしい未来に対する確定者であり、正覚を最終地点とするのです。

一一　素晴らしいことです、尊い人よ。聖人が愛する種々の戒を具足することは。

『聖なる戒であり、道徳的に肯定されるべきものであり、悪趣に落ちない戒であ

り、純粋な戒であり、煩悩から解放する戒であり、識者に称賛され、煩悩に負けないための戒であり、サマディに貢献する』と。

尊い人よ、聖人が愛する種々の戒を具足することを原因として、このように、この弟子は、真理の流れに入った人であり、破滅にならない法則そのものであり、素晴らしい未来に対する確定者であり、正覚を最終地点とするのです。」

第二　数千品

経群

千、祭司、アーナンダ、
次に悲痛に向かうことが二つ、
友による友人たちが二つ演説され、
そして、三つの愛欲神の旅行と。

第三　サラカーニ品

【二一】第一　マハーナーマ（一）

一　このようにわたしは聞いた。
あるとき、世尊はサキャ国のカピラヴァットゥ（褐色の要素）にあるバンヤンジュの大庭園にとどまっておられた。

二　直ちに、サキャ族のマハーナーマ（偉大な名前）は、世尊の所に行った。行くと、世尊に敬礼してそばに座った。そばに座ったサキャ族のマハーナーマは、実に世尊にこう申し上げた。

三「尊師よ、ここカピラヴァットゥは繁栄し、富みに富んで、数多くの人々があり、人々で満ちあふれ、群衆が密集しています。尊師よ、このわたしは、世尊や、意識に修習している向煩悩滅尽多学男たちに臣従(しんじゅう)の礼をし終わって、夕刻にカピラヴァットゥに入りました。すると、駆け回る象に出合い、駆け回る馬に出

合い、駆け回る二輪車に出合い、駆け回る牛車に出合い、駆け回る男に出合いました。尊師よ、そのとき、このわたしには世尊に関して記憶修習がぼんやりしている状態になり、法則に関して記憶修習がぼんやりしている状態になり、出家教団に関して記憶修習がぼんやりしている状態になったのです。

尊師よ、このわたしはこのようになったのです。もし、このときわたしが逝ったならば、わたしには、どのような方向と、どのような来世があるのでしょうか。」

四　「マハーナーマよ、恐怖することはない。マハーナーマよ、恐怖することはない。悪くないあなたの生存の終わりの時は、悪くない死となるだろう。

マハーナーマよ、長い間、信に熟達させられた心があり、戒に熟達させられた心があり、教学に熟達させられた心があり、放棄に熟達させられた心があり、智慧に熟達させられた心があるどのような者でも、その身は形状-容姿を持ち、四大元素からなり、父母から起源があり、乳と粥(かゆ)の統合体であり、無常で、腐敗し、炎症が起きるものであり、裂け口が生じるものであり、死滅の法則がある。ここ

にまさにそれを、カラスの群れが食べたり、ハゲタカの群れが食べたり、鷹(たか)の群れが食べたり、犬の群れが食べたり、ヤマイヌの群れが食べたり、様々な生き物が食べたりする。

しかし、長い間、信に熟達させられ、戒に熟達させられ、教学に熟達させられ、放棄に熟達させられた心は、上方に至り、卓越へと至るのである。

五　マハーナーマよ、例として、男が透明なバターのかめや油のかめを、深い湖に沈めて壊すとしよう。そこで、その陶器の破片やかけらは下方に至るが、そこで、その透明なバターや油は、上方に至り、卓越へと至る。

マハーナーマよ、全く同様に、長い間、信に熟達させられた心があり、戒に熟達させられた心があり、教学に熟達させられた心があり、放棄に熟達させられた心があり、智慧に熟達させられた心があるどのような者でも、その身は形状-容姿を持ち、四大元素からなり、父母から起源があり、乳と粥の統合体であり、無常で、腐敗し、炎症が起きるものであり、裂け口が生じるものであり、死滅の法

則がある。ここにまさにそれを、カラスの群れが食べたり、ハゲタカの群れが食べたり、鷹の群れが食べたり、犬の群れが食べたり、ヤマイヌの群れが食べたり、様々な生き物が食べたりする。

しかし、長い間、その信に熟達させられ、戒に熟達させられ、教学に熟達させられ、放棄に熟達させられ、智慧に熟達させられた心は、上方に至り、卓越へと至るのである。

六　マハーナーマよ、あなたには、長い間、信に熟達させられた心があり、戒に熟達させられた心があり、教学に熟達させられた心があり、放棄に熟達させられた心があり、智慧に熟達させられた心がある。

マハーナーマよ、恐怖することはない。マハーナーマよ、恐怖することはない。悪くないあなたの生存の終わりの時は、悪くない死となるだろう。」

【三二】第二　マハーナーマ（二）

一　このようにわたしは聞いた。
　あるとき、世尊はサキャ国のカピラヴァットゥにあるバンヤンジュの大庭園にとどまっておられた。
二　直ちに、サキャ族のマハーナーマは、世尊の所に行った。行くと、世尊に敬礼してそばに座った。そばに座ったサキャ族のマハーナーマは、実に世尊にこう申し上げた。
三「尊師よ、ここカピラヴァットゥは繁栄し、富みに富んで、数多くの人々があり、人々で満ちあふれ、群衆が密集しています。尊師よ、このわたしは、世尊や、意識に修習している向煩悩滅尽多学男たちに臣従の礼をし終わって、夕刻にカピラヴァットゥに入りました。すると、駆け回る象に出合い、駆け回る馬に出合い、駆け回る二輪車に出合い、駆け回る牛車に出合い、駆け回る男に出合いました。尊師よ、そのとき、このわたしには世尊に関して記憶修習がぼんやりして

いる状態になり、法則に関して記憶修習がぼんやりしている状態になり、出家教団に関して記憶修習がぼんやりしている状態になったのです。

尊師よ、このわたしはこのようになったのです。もし、このときわたしが逝ったならば、わたしには、どのような方向と、どのような来世があるのでしょうか。」

四　「マハーナーマよ、恐怖することはない。マハーナーマよ、恐怖することはない。悪くないあなたの生存の終わりの時は、悪くない死となるだろう。

マハーナーマよ、四つの法則を具足した聖なる多学の弟子は、煩悩破壊に下り、煩悩破壊に傾斜し、煩悩破壊に至るのである。四つとは何であろうか。

五　マハーナーマよ、ここに聖なる多学の弟子は、覚者に対して絶対の浄信を具足する。

『このように同様に、かの世尊は、供養値魂・最上正覚者・智徳成就者・最上善逝・世間解・無上士・丈夫調御者・天人師・覚者・世尊である』と。

法則に対して絶対の浄信を具足する。

『正しく言明された世尊による法則は、現実に利益をもたらし、直接的であり、すべての人に理解できるように説かれており、煩悩破壊へ導き、それぞれの識別によって理解できる』と。

出家教団に対して絶対の浄信を具足する。

『世尊の多学の弟子出家教団は、善につき従い、世尊の多学の弟子出家教団は、誠実に従い、世尊の多学の弟子出家教団は、正しい体系に従い、世尊の多学の弟子出家教団は、正しい法則にのっとり日々を送るという、すなわち、この世尊の多学の弟子出家教団は、四対の人々-八つの宗教的特性を持つ人々であって、崇拝に値し、厚遇されるに値し、寄贈を受けるに値し、合掌されるに値し、世界の無上の功徳の田畑である』と。

聖人が愛する種々の戒を具足する。

『聖なる戒であり、道徳的に肯定されるべきものであり、悪趣に落ちない戒であり、純粋な戒であり、煩悩から解放する戒であり、識者に称賛され、煩悩に負け

ないための戒であり、サマディに貢献する』と。

六　マハーナーマよ、例として、樹木があって、東に下り、東に傾斜し、東に至っていたとしよう。その根が切られたとき、どちらの方に崩れ落ちるだろうか。」
「尊師よ、それが下り、それが傾斜し、それが至っていた方です。」
「マハーナーマよ、全く同様に、これら四つの法則を具足した聖なる多学の弟子は、煩悩破壊に下り、煩悩破壊に傾斜し、煩悩破壊に至るのである。」

【二三】第三　ゴーダー、あるいはマハーナーマ（三）

一　カピラヴァットゥの地にて。

二　直ちに、マハーナーマは、サキャ族のゴーダー（大トカゲ）の所に行った。行くと、サキャ族のゴーダーにこう言った。

三「ゴーダーよ、いくつの法則を具足した者を、真理の流れに入った人であり、

破滅にならない法則そのものであり、素晴らしい未来に対する確定者であり、正覚を最終地点とする魂であると、あなたは解釈しているのだろうか。」

「マハーナーマよ、三つの法則を具足した者を、真理の流れに入った人であり、破滅にならない法則そのものであり、素晴らしい未来に対する確定者であり、正覚を最終地点とする魂であると、わたしは解釈している。三つとは何であろうか。

四 マハーナーマよ、ここに聖なる多学の弟子は、覚者に対して絶対の浄信を具足する。

『このように同様に、かの世尊は、供養値魂・最上正覚者・智徳成就者・最上善逝・世間解・無上士・丈夫調御者・天人師・覚者・世尊である』と。

法則に対して絶対の浄信を具足する。

『正しく言明された世尊による法則は、現実に利益をもたらし、直接的であり、すべての人に理解できるように説かれており、煩悩破壊へ導き、それぞれの識別によって理解できる』と。

出家教団に対して絶対の浄信を具足する。

『世尊の多学の弟子出家教団は、善につき従い、世尊の多学の弟子出家教団は、誠実に従い、世尊の多学の弟子出家教団は、正しい体系に従い、世尊の多学の弟子出家教団は、正しい法則にのっとり日々を送るという、すなわち、この世尊の多学の弟子出家教団は、四対の人々・八つの宗教的特性を持つ人々であって、崇拝に値し、厚遇されるに値し、寄贈を受けるに値し、合掌されるに値し、世界の無上の功徳の田畑である』と。

マハーナーマよ、これら三つの法則を具足した者を、真理の流れに入った人であり、破滅にならない法則そのものであり、素晴らしい未来に対する確定者であり、正覚を最終地点とする魂であると、わたしは解釈しているのである。

五　マハーナーマよ、さて、いくつの法則を具足した者を、真理の流れに入った人であり、破滅にならない法則そのものであり、素晴らしい未来に対する確定者であり、正覚を最終地点とする魂であると、あなたは解釈しているのだろうか。」

「ゴーダーよ、四つの法則を具足した者を、真理の流れに入った人であり、破滅にならない法則そのものであり、素晴らしい未来に対する確定者であり、正覚を最終地点とする魂であると、わたしは解釈している。四つとは何であろうか。

ゴーダーよ、ここに聖なる多学の弟子は、覚者に対して絶対の浄信を具足する。『このように同様に、かの世尊は、供養値魂・最上正覚者・智徳成就者・最上善逝・世間解・無上士・丈夫調御者・天人師・覚者・世尊である』と。

法則に対して絶対の浄信を具足する。

『正しく言明された世尊による法則は、現実に利益をもたらし、直接的であり、すべての人に理解できるように説かれており、煩悩破壊へ導き、それぞれの識別によって理解できる』と。

出家教団に対して絶対の浄信を具足する。

『世尊の多学の弟子出家教団は、善につき従い、世尊の多学の弟子出家教団は、誠実に従い、世尊の多学の弟子出家教団は、正しい体系に従い、世尊の多学の弟

子出家教団は、正しい法則にのっとり日々を送るという、すなわち、この世尊の多学の弟子出家教団は、四対の人々‐八つの宗教的特性を持つ人々であって、崇拝に値し、厚遇されるに値し、寄贈を受けるに値し、合掌されるに値し、世界の無上の功徳の田畑である』と。

聖人が愛する種々の戒を具足する。『聖なる戒であり、道徳的に肯定されるべきものであり、悪趣に落ちない戒であり、純粋な戒であり、煩悩から解放する戒であり、識者に称賛され、煩悩に負けないための戒であり、サマディに貢献する』と。

ゴーダーよ、これら四つの法則を具足した者を、真理の流れに入った人であり、破滅にならない法則そのものであり、素晴らしい未来に対する確定者であり、正覚を最終地点とする魂であると、わたしは解釈しているのである。」

六　「あなたは待て、マハーナーマよ。あなたは待て、マハーナーマよ。世尊ならこの法則の具足と不具足とをおわかりいただけるであろう。」

「ゴーダーよ、早く、世尊の所に行こう。行って、この意義をお告げしよう。」

七 直ちに、サキャ族のマハーナーマとサキャ族のゴーダーは、世尊の所に行った。行くと、世尊に敬礼してそばに座った。そばに座ったサキャ族のマハーナーマは、実に世尊にこう申し上げた。

八 「尊師よ、ここにわたしは、サキャ族のゴーダーの所に行きました。行くと、サキャ族のゴーダーにこう言いました。

『ゴーダーよ、いくつの法則を具足した者を、真理の流れに入った人であり、破滅にならない法則そのものであり、素晴らしい未来に対する確定者であり、正覚を最終地点とする魂であると、あなたは解釈しているのだろうか』と。

尊師よ、このように言われたとき、サキャ族のゴーダーはわたしにこう言いました。

『マハーナーマよ、三つの法則を具足した者を、真理の流れに入った人であり、破滅にならない法則そのものであり、素晴らしい未来に対する確定者であり、正

覚を最終地点とする魂であると、わたしは解釈している。三つとは何であろうか。

マハーナーマよ、ここに聖なる多学の弟子は、覚者に対して絶対の浄信を具足する。

「このように同様に、かの世尊は、供養値魂・最上正覚者・智徳成就者・最上善逝・世間解・無上士・丈夫調御者・天人師・覚者・世尊である」と。

法則に対して絶対の浄信を具足する。

「正しく言明された世尊による法則は、現実に利益をもたらし、直接的であり、すべての人に理解できるように説かれており、煩悩破壊へ導き、それぞれの識別によって理解できる」と。

出家教団に対して絶対の浄信を具足する。

「世尊の多学の弟子出家教団は、善につき従い、世尊の多学の弟子出家教団は、誠実に従い、世尊の多学の弟子出家教団は、正しい体系に従い、世尊の多学の弟子出家教団は、正しい法則にのっとり日々を送るという、すなわち、この世尊の

多学の弟子出家教団は、四対の人々・八つの宗教的特性を持つ人々であって、崇拝に値し、厚遇されるに値し、寄贈を受けるに値し、合掌されるに値し、世界の無上の功徳の田畑である」と。

マハーナーマよ、これら三つの法則を具足した者を、真理の流れに入った人であり、破滅にならない法則そのものであり、素晴らしい未来に対する確定者であり、正覚を最終地点とする魂であると、わたしは解釈しているのである。

マハーナーマよ、さて、いくつの法則を具足した者を、真理の流れに入った人であり、破滅にならない法則そのものであり、素晴らしい未来に対する確定者であり、正覚を最終地点とする魂であると、あなたは解釈しているのだろうか』と。

九　尊師よ、このように言われたとき、わたしはサキャ族のゴーダーにこう言いました。

『ゴーダーよ、四つの法則を具足した者を、真理の流れに入った人であり、破滅にならない法則そのものであり、素晴らしい未来に対する確定者であり、正覚を

最終地点とする魂であると、わたしは解釈している。四つとは何であろうか。
ゴーダーよ、ここに聖なる多学の弟子は、覚者に対して絶対の浄信を具足する。
「このように同様に、かの世尊は、供養値魂・最上正覚者・智徳成就者・最上善逝・世間解・無上士・丈夫調御者・天人師・覚者・世尊である」と。
法則に対して絶対の浄信を具足する。
「正しく言明された世尊による法則は、現実に利益をもたらし、直接的であり、すべての人に理解できるように説かれており、煩悩破壊へ導き、それぞれの識別によって理解できる」と。
出家教団に対して絶対の浄信を具足する。
「世尊の多学の弟子出家教団は、善につき従い、世尊の多学の弟子出家教団は、誠実に従い、世尊の多学の弟子出家教団は、正しい体系に従い、世尊の多学の弟子出家教団は、正しい法則にのっとり日々を送るという、すなわち、この世尊の多学の弟子出家教団は、四対の人々-八つの宗教的特性を持つ人々であって、崇

拝に値し、厚遇されるに値し、寄贈を受けるに値し、合掌されるに値し、世界の無上の功徳の田畑である」と。

聖人が愛する種々の戒を具足する。

「聖なる戒であり、道徳的に肯定されるべきものであり、悪趣に落ちない戒であり、純粋な戒であり、煩悩から解放する戒であり、識者に称賛され、煩悩に負けないための戒であり、サマディに貢献する」と。

ゴーダーよ、これら四つの法則を具足した者を、真理の流れに入った人であり、破滅にならない法則そのものであり、素晴らしい未来に対する確定者であり、正覚を最終地点とする魂であると、わたしは解釈しているのである』と。

尊師よ、このように言われたとき、サキャ族のゴーダーはわたしにこう言いました。

『あなたは待て、マハーナーマよ。あなたは待て、マハーナーマよ。世尊ならこの法則の具足と不具足とをおわかりいただけるであろう』と。

一〇　尊師よ、ここに、ある者の法則の生起が生じたとしましょう。一つは世尊であり、一つは向煩悩滅尽多学男出家教団です。わたしはまさに世尊のところにあり、尊師よ、世尊はわたしにこのように浄信をもたらしてくださったのです。

一一　尊師よ、ここに、ある者の法則の生起が生じたとしましょう。一つは世尊であり、一つは向煩悩滅尽多学男出家教団・向煩悩滅尽多学女出家教団です。そして、わたしはまさに世尊のところにあり、尊師よ、世尊はわたしにこのように浄信をもたらしてくださったのです。

一二　尊師よ、ここに、ある者の法則の生起が生じたとしましょう。一つは世尊であり、一つは向煩悩滅尽多学男出家教団・向煩悩滅尽多学女出家教団・帰依信男です。そして、わたしはまさに世尊のところにあり、尊師よ、世尊はわたしにこのように浄信をもたらしてくださったのです。

一三　尊師よ、ここに、ある者の法則の生起が生じたとしましょう。一つは世尊であり、一つは向煩悩滅尽多学男出家教団・向煩悩滅尽多学女出家教団・帰依信

男・帰依信女です。そして、わたしはまさに世尊のところにあり、尊師よ、世尊はわたしにこのように浄信をもたらしてくださったのです。

一四　尊師よ、ここに、ある者の法則の生起が生じたとしましょう。一つは世尊であり、一つは向煩悩滅尽多学男出家教団・向煩悩滅尽多学女出家教団・帰依信男・帰依信女、そして愛欲神と共にあり、破滅天と共にあり、神聖天と共にある世界、出家修行者や祭司と共にあり、愛欲神や人々と共にある弟子です。そして、わたしはまさに世尊のところにあり、尊師よ、世尊はわたしにこのように浄信をもたらしてくださったのです。」

一五　「ゴーダーよ、このような言い方をしているサキャ族のマハーナーマに、あなたは何を断言しようというのだろうか。」

「尊師よ、このような言い方をしているサキャ族のマハーナーマに、素晴らしいことのほかや善であることのほかは、わたしは何も断言しないでしょう。」

【二四】第四　サラカーニ、あるいはサラナーニ（一）

一　カピラヴァットゥの地にて。

二　ところでそのとき、サキャ族のサラカーニ（器）は逝き、世尊は、彼が真理の流れに入った人であり、破滅にならない法則そのものであり、素晴らしい未来に対する確定者であり、正覚を最終地点とすると明らかになさった。

三　そこで、多くのサキャ族は会合して出会い、いらいらして、ぶつぶつと不平を言い、不愉快に思ったのである。

「本当に不思議なことだ。本当に驚くべきことだ。この場所で、今やだれも真理の流れに入った人にならないだろう。全く、サキャ族のサラカーニが逝き、世尊は、彼が真理の流れに入った人であり、破滅にならない法則そのものであり、素晴らしい未来に対する確定者であり、正覚を最終地点とすると明らかになさったからだ。

サキャ族のサラカーニは教えに弱くなり、酔わせる飲み物を飲んだんだぞ。」

四　直ちに、サキャ族のマハーナーマは、世尊の所に行った。行くと、世尊に敬礼してそばに座った。そばに座ったサキャ族のマハーナーマは、実に世尊にこう申し上げた。

五「尊師よ、ここに、サキャ族のサラカーニは逝き、世尊は、彼が真理の流れに入った人であり、破滅にならない法則そのものであり、素晴らしい未来に対する確定者であり、正覚を最終地点とすると明らかになさいました。尊師よ、そこで、多くのサキャ族は会合して出会い、いらいらして、ぶつぶつと不平を言い、不愉快に思ったのです。

『本当に不思議なことだ。本当に驚くべきことだ。この場所で、今やだれも真理の流れに入った人にならないだろう。全く、サキャ族のサラカーニが逝き、世尊は、彼が真理の流れに入った人であり、破滅にならない法則そのものであり、素晴らしい未来に対する確定者であり、正覚を最終地点とすると明らかになさったからだ。

サキャ族のサラカーニは教えに弱くなり、酔わせる飲み物を飲んだんだぞ』と。」
「マハーナーマよ、長い間、彼は帰依信男であり、覚者を救いとして活用し、法則を救いとして活用し、出家教団を救いとして活用したが、どうして破滅に至ることがあろうか。

六　マハーナーマよ、というのは、長い間、帰依信男であり、覚者を救いとして活用し、法則を救いとして活用し、出家教団を救いとして活用したと、正しく断言して断言するべきサキャ族のサラカーニを、マハーナーマよ、『サキャ族のサラカーニは長い間、帰依信男であり、覚者を救いとして活用し、法則を救いとして活用し、出家教団を救いとして活用した』と、正しく断言して断言するべきだからである。どうして彼が破滅に至ることがあろうか。

七　マハーナーマよ、ここに、ある魂は、覚者に対して絶対の浄信を具足する。
『このように同様に、かの世尊は、供養値魂・最上正覚者・智徳成就者・最上善逝・世間解・無上士・丈夫調御者・天人師・覚者・世尊である』と。

法則に対して絶対の浄信を具足する。
『正しく言明された世尊による法則は、現実に利益をもたらし、直接的であり、すべての人に理解できるように説かれており、煩悩破壊へ導き、それぞれの識別によって理解できる』と。

出家教団に対して絶対の浄信を具足する。
『世尊の多学の弟子出家教団は、善につき従い、世尊の多学の弟子出家教団は、誠実に従い、世尊の多学の弟子出家教団は、正しい体系に従い、世尊の多学の弟子出家教団は、正しい法則にのっとり日々を送るという、すなわち、この世尊の多学の弟子出家教団は、四対の人々-八つの宗教的特性を持つ人々であって、崇拝に値し、厚遇されるに値し、寄贈を受けるに値し、合掌されるに値し、世界の無上の功徳の田畑である』と。

賢い智慧を有し、機敏な智慧を有し、そして離解脱を具足する。彼は種々の漏を破壊することによって、無漏の心の離解脱や智慧の離解脱を、まさに見られる

法則において、自ら証智し現証し達成してとどまる。
マハーナーマよ、この魂は、激苦地獄から完全に解脱し、動物としての発生から完全に解脱し、低級霊域から完全に解脱し、離別・悲痛に向かうこと・破滅から完全に解脱したのである。
八　マハーナーマよ、ところでここに、ある魂は、覚者に対して絶対の浄信を具足する。
『このように同様に、かの世尊は、供養値魂・最上正覚者・智徳成就者・最上善逝・世間解・無上士・丈夫調御者・天人師・覚者・世尊である』と。
法則に対して絶対の浄信を具足する。
『正しく言明された世尊による法則は、現実に利益をもたらし、直接的であり、すべての人に理解できるように説かれており、煩悩破壊へ導き、それぞれの識別によって理解できる』と。
出家教団に対して絶対の浄信を具足する。

『世尊の多学の弟子出家教団は、善につき従い、世尊の多学の弟子出家教団は、誠実に従い、世尊の多学の弟子出家教団は、正しい体系に従い、世尊の多学の弟子出家教団は、正しい法則にのっとり日々を送るという、すなわち、この世尊の多学の弟子出家教団は、四対の人々・八つの宗教的特性を持つ人々であって、崇拝に値し、厚遇されるに値し、寄贈を受けるに値し、合掌されるに値し、世界の無上の功徳の田畑である』と。――

賢い智慧を有し、機敏な智慧を有し、そして離解脱を具足していない。彼は五つの下位に結びつけるきずなを完全に破壊することによって、随意の再生をする者となり、そこで完全煩悩破壊し、かの世界から（この愛欲界に）還らない法則の人となる。

マハーナーマよ、実に同様に、この魂は、激苦地獄から完全に解脱し、動物としての発生から完全に解脱し、低級霊域から完全に解脱し、離別・悲痛に向かうこと・破滅から完全に解脱したのである。

九　マハーナーマよ、ところでここに、ある魂は、覚者に対して絶対の浄信を具足する。

『このように同様に、かの世尊は、供養値魂・最上正覚者・智徳成就者・最上善逝・世間解・無上士・丈夫調御者・天人師・覚者・世尊である』と。

法則に対して絶対の浄信を具足する。

『正しく言明された世尊による法則は、現実に利益をもたらし、直接的であり、すべての人に理解できるように説かれており、煩悩破壊へ導き、それぞれの識別によって理解できる』と。

出家教団に対して絶対の浄信を具足する。

『世尊の多学の弟子出家教団は、善につき従い、世尊の多学の弟子出家教団は、誠実に従い、世尊の多学の弟子出家教団は、正しい体系に従い、世尊の多学の弟子出家教団は、正しい法則にのっとり日々を送るという、すなわち、この世尊の多学の弟子出家教団は、四対の人々・八つの宗教的特性を持つ人々であって、宗

拝に値し、厚遇されるに値し、寄贈を受けるに値し、合掌されるに値し、世界の無上の功徳の田畑である』と。

賢い智慧を有さず、機敏な智慧を有さず、そして離解脱を具足していない。彼は三つのきずなを完全に破壊することによって、愛著・邪悪心・迷妄が削減し、一度だけ再生する人となり、もう一度だけこの世界に来て、苦しみの終極を行なう。

マハーナーマよ、実に同様に、この魂は、激苦地獄から完全に解脱し、動物としての発生から完全に解脱し、低級霊域から完全に解脱し、離別・悲痛に向かうこと・破滅から完全に解脱したのである。

一〇　マハーナーマよ、ところでここに、ある魂は、覚者に対して絶対の浄信を具足する。

『このように同様に、かの世尊は、供養値魂・最上正覚者・智徳成就者・最上善逝・世間解・無上士・丈夫調御者・天人師・覚者・世尊である』と。

法則に対して絶対の浄信を具足する。
『正しく言明された世尊による法則は、現実に利益をもたらし、直接的であり、すべての人に理解できるように説かれており、煩悩破壊へ導き、それぞれの識別によって理解できる』と。

出家教団に対して絶対の浄信を具足する。
『世尊の多学の弟子出家教団は、善につき従い、世尊の多学の弟子出家教団は、誠実に従い、世尊の多学の弟子出家教団は、正しい体系に従い、世尊の多学の弟子出家教団は、正しい法則にのっとり日々を送るという、すなわち、この世尊の多学の弟子出家教団は、四対の人々・八つの宗教的特性を持つ人々であって、崇拝に値し、厚遇されるに値し、寄贈を受けるに値し、合掌されるに値し、世界の無上の功徳の田畑である』と。

賢い智慧を有さず、機敏な智慧を有さず、そして離解脱を具足していない。彼は三つのきずなを完全に破壊することによって、真理の流れに入った人であり、

破滅にならない法則そのものであり、正覚を最終地点とする。

マハーナーマよ、実に同様に、この魂は、激苦地獄から完全に解脱し、動物としての発生から完全に解脱し、低級霊域から完全に解脱し、離別・悲痛に向かうこと・破滅から完全に解脱したのである。

一一　マハーナーマよ、ところでここに、ある魂は、覚者に対して絶対の浄信を具足しない。法則に対して具足しない。出家教団に対して具足しない。賢い智慧を有さず、機敏な智慧を有さず、そして離解脱を具足していない。

その上、彼には、信の潜在性・精進の潜在性・記憶修習の潜在性・サマディの潜在性・智慧の潜在性という、これらの法則がある。彼には真理勝者によって説き明かされた種々の法則があり、智慧によって適度に喜びを見つける。

マハーナーマよ、実に同様に、この魂は、激苦地獄に行かず、動物としての発生に行かず、低級霊域に行かず、離別・悲痛に向かうこと・破滅に至らないのである。

一二　マハーナーマよ、ところでここに、ある魂は、覚者に対して絶対の浄信を具足しない。法則に対して具足しない。出家教団に対して具足しない。賢い智慧を有さず、機敏な智慧を有さず、そして離解脱を具足していない。

その上、彼には、信の潜在性・精進の潜在性・記憶修習の潜在性・サマディの潜在性・智慧の潜在性という、種々の法則がある。彼には、真理勝者に対する十分な信と十分な愛情がある。

実に同様に、この魂は、激苦地獄に行かず、動物としての発生に行かず、低級霊域に行かず、離別・悲痛に向かうこと・破滅に至らないのである。

一三　同様に、マハーナーマよ、たとえこれら大邸宅を有している者たちが、正しいことを言うことと間違ったことを言うことを解釈しても、わたしはこれら大邸宅を有している者たちを、真理の流れに入った人であり、破滅にならない法則そのものであり、素晴らしい未来に対する確定者であり、正覚を最終地点とすると明らかにするだろう。

したがって、サキャ族のサラカーニにおいてはなおさらである。マハーナーマよ、サキャ族のサラカーニは生存の終わりの時に、教え（の義務・責任）を負っていたのだから」と。

【二五】第五　サラカーニ、あるいはサラナーニ（二）

一　カピラヴァットゥの地にて。

二　ところでそのとき、サキャ族のサラカーニは逝き、世尊は、彼が真理の流れに入った人であり、破滅にならない法則そのものであり、素晴らしい未来に対する確定者であり、正覚を最終地点とすると明らかになさった。

三　そこで、多くのサキャ族は会合して出会い、いらいらして、ぶつぶつと不平を言い、不愉快に思ったのである。

「本当に不思議なことだ。本当に驚くべきことだ。この場所で、今やだれも真理

の流れに入った人にならないだろう。全く、サキャ族のサラカーニが逝き、世尊は、彼が真理の流れに入った人であり、破滅にならない法則そのものであり、素晴らしい未来に対する確定者であり、正覚を最終地点とすると明らかになさったからだ。

サキャ族のサラカーニは教えを完全にしなかったんだぞ。」

四　直ちに、サキャ族のマハーナーマは、世尊の所に行った。行くと、世尊に敬礼してそばに座った。そばに座ったサキャ族のマハーナーマは、実に世尊にこう申し上げた。

五「尊師よ、ここにサキャ族のサラカーニは逝き、世尊は、彼が真理の流れに入った人であり、破滅にならない法則そのものであり、素晴らしい未来に対する確定者であり、正覚を最終地点とすると明らかになさいました。尊師よ、そこで、多くのサキャ族は会合して出会い、いらいらして、ぶつぶつと不平を言い、不愉快に思ったのです。

『本当に不思議なことだ。本当に驚くべきことだ。この場所で、今やだれも真理の流れに入った人にならないだろう。全く、サキャ族のサラカーニが逝き、世尊は、彼が真理の流れに入った人であり、破滅にならない法則そのものであり、素晴らしい未来に対する確定者であり、正覚を最終地点とすると明らかになさったからだ。

サキャ族のサラカーニは教えを完全にしなかったんだぞ』と。」

「マハーナーマよ、長い間、彼は帰依信男であり、覚者を救いとして活用し、法則を救いとして活用し、出家教団を救いとして活用したが、どうして破滅に至ることがあろうか。

六　マハーナーマよ、というのは、長い間、帰依信男であり、覚者を救いとして活用し、法則を救いとして活用し、出家教団を救いとして活用したと、正しく断言して断言するべきサキャ族のサラカーニを、マハーナーマよ、『サキャ族のサラカーニは長い間、帰依信男であり、覚者を救いとして活用し、法則を救いとし

て活用し、出家教団を救いとして活用した』と、正しく断言して断言するべきだからである。どうして彼が破滅に至ることがあろうか。

七　マハーナーマよ、ここに、ある魂は、覚者に対して完全に献身しており、平安を見いだす。

『このように同様に、かの世尊は、供養値魂・最上正覚者・智徳成就者・最上善逝・世間解・無上士・丈夫調御者・天人師・覚者・世尊である』と。

法則に対して完全に献身しており、平安を見いだす。

『正しく言明された世尊による法則は、現実に利益をもたらし、直接的であり、すべての人に理解できるように説かれており、煩悩破壊へ導き、それぞれの識別によって理解できる』と。

出家教団に対して完全に献身しており、平安を見いだす。

『世尊の多学の弟子出家教団は、善につき従い、世尊の多学の弟子出家教団は、誠実に従い、世尊の多学の弟子出家教団は、正しい体系に従い、世尊の多学の弟

子出家教団は、正しい法則にのっとり日々を送るという、すなわち、この世尊の多学の弟子出家教団は、四対の人々-八つの宗教的特性を持つ人々であって、崇拝に値し、厚遇されるに値し、寄贈を受けるに値し、合掌されるに値し、世界の無上の功徳の田畑である』と。

賢い智慧を有し、機敏な智慧を有し、そして離解脱を具足する。彼は種々の漏を破壊することによって、無漏の心の離解脱や智慧の離解脱を、まさに見られる法則において、自ら証智し現証し達成してとどまる。

マハーナーマよ、この魂は、激苦地獄から完全に解脱し、動物としての発生から完全に解脱し、低級霊域から完全に解脱し、離別・悲痛に向かうこと・破滅から完全に解脱したのである。

八　マハーナーマよ、ところでここに、ある魂は、覚者に対して完全に献身しており、平安を見いだす。

『このように同様に、かの世尊は、供養値魂・最上正覚者・智徳成就者・最上善

逝・世間解・無上士・丈夫調御者・天人師・覚者・世尊である』と。

法則に対して完全に献身しており、平安を見いだす。

『正しく言明された世尊による法則は、現実に利益をもたらし、直接的であり、すべての人に理解できるように説かれており、煩悩破壊へ導き、それぞれの識別によって理解できる』と。

出家教団に対して完全に献身しており、平安を見いだす。

『世尊の多学の弟子出家教団は、善につき従い、世尊の多学の弟子出家教団は、誠実に従い、世尊の多学の弟子出家教団は、正しい体系に従い、世尊の多学の弟子出家教団は、正しい法則にのっとり日々を送るという、すなわち、この世尊の多学の弟子出家教団は、四対の人々-八つの宗教的特性を持つ人々であって、崇拝に値し、厚遇されるに値し、寄贈を受けるに値し、合掌されるに値し、世界の無上の功徳の田畑である』と。

賢い智慧を有し、機敏な智慧を有し、そして離解脱を具足する。彼は五つの下

位に結びつけるきずなを完全に破壊することによって、中完全煩悩破壊者となる。
マハーナーマよ、実に同様に、この魂は、激苦地獄から完全に解脱し、動物としての発生から完全に解脱し、低級霊域から完全に解脱し、離別・悲痛に向かうこと・破滅から完全に解脱したのである。
マハーナーマよ、ところでここに、ある魂は、覚者に対して完全に献身しており、平安を見いだす。
『このように同様に、かの世尊は、供養値魂・最上正覚者・智徳成就者・最上善逝・世間解・無上士・丈夫調御者・天人師・覚者・世尊である』と。
法則に対して完全に献身しており、平安を見いだす。
『正しく言明された世尊による法則は、現実に利益をもたらし、直接的であり、すべての人に理解できるように説かれており、煩悩破壊へ導き、それぞれの識別によって理解できる』と。
出家教団に対して完全に献身しており、平安を見いだす。

『世尊の多学の弟子出家教団は、善につき従い、世尊の多学の弟子出家教団は、誠実に従い、世尊の多学の弟子出家教団は、正しい体系に従い、世尊の多学の弟子出家教団は、正しい法則にのっとり日々を送るという、すなわち、この世尊の多学の弟子出家教団は、四対の人々-八つの宗教的特性を持つ人々であって、崇拝に値し、厚遇されるに値し、寄贈を受けるに値し、合掌されるに値し、世界の無上の功徳の田畑である』と。

賢い智慧を有し、機敏な智慧を有し、そして離解脱を具足する。彼は五つの下位に結びつけるきずなを完全に破壊することによって、減少完全煩悩破壊者となる。

マハーナーマよ、実に同様に、この魂は、激苦地獄から完全に解脱し、動物としての発生から完全に解脱し、低級霊域から完全に解脱し、離別・悲痛に向かうこと・破滅から完全に解脱したのである。

マハーナーマよ、ところでここに、ある魂は、覚者に対して完全に献身してお

り、平安を見いだす。

『このように同様に、かの世尊は、供養値魂・最上正覚者・智徳成就者・最上善逝・世間解・無上士・丈夫調御者・天人師・覚者・世尊である』と。

法則に対して完全に献身しており、平安を見いだす。

『正しく言明された世尊による法則は、現実に利益をもたらし、直接的であり、すべての人に理解できるように説かれており、煩悩破壊へ導き、それぞれの識別によって理解できる』と。

出家教団に対して完全に献身しており、平安を見いだす。

『世尊の多学の弟子出家教団は、善につき従い、世尊の多学の弟子出家教団は、誠実に従い、世尊の多学の弟子出家教団は、正しい体系に従い、世尊の多学の弟子出家教団は、正しい法則にのっとり日々を送るという、すなわち、この世尊の多学の弟子出家教団は、四対の人々-八つの宗教的特性を持つ人々であって、崇拝に値し、厚遇されるに値し、寄贈を受けるに値し、合掌されるに値し、世界の

無上の功徳の田畑である』と。

賢い智慧を有し、機敏な智慧を有し、そして離解脱を具足する。彼は五つの下位に結びつけるきずなを完全に破壊することによって、形状界にて経験の構成がなく功徳の果報を受けつつある完全煩悩破壊者となる。

マハーナーマよ、実に同様に、この魂は、激苦地獄から完全に解脱し、動物としての発生から完全に解脱し、低級霊域から完全に解脱し、離別・悲痛に向かうこと・破滅から完全に解脱したのである。

マハーナーマよ、ところでここに、ある魂は、覚者に対して完全に献身しており、平安を見いだす。

『このように同様に、かの世尊は、供養値魂・最上正覚者・智徳成就者・最上善逝・世間解・無上士・丈夫調御者・天人師・覚者・世尊である』と。

法則に対して完全に献身しており、平安を見いだす。

『正しく言明された世尊による法則は、現実に利益をもたらし、直接的であり、

すべての人に理解できるように説かれており、煩悩破壊へ導き、それぞれの識別によって理解できる』と。

出家教団に対して完全に献身しており、平安を見いだす。

『世尊の多学の弟子出家教団は、善につき従い、世尊の多学の弟子出家教団は、誠実に従い、世尊の多学の弟子出家教団は、正しい体系に従い、世尊の多学の弟子出家教団は、正しい法則にのっとり日々を送るという、すなわち、この世尊の多学の弟子出家教団は、四対の人々-八つの宗教的特性を持つ人々であって、崇拝に値し、厚遇されるに値し、寄贈を受けるに値し、合掌されるに値し、世界の無上の功徳の田畑である』と。

賢い智慧を有し、機敏な智慧を有し、そして離解脱を具足する。彼は五つの下位に結びつけるきずなを完全に破壊することによって、形状界にて経験の構成があり真理の実践による完全煩悩破壊者となる。

マハーナーマよ、実に同様に、この魂は、激苦地獄から完全に解脱し、動物と

しての発生から完全に解脱し、低級霊域から完全に解脱し、離別・悲痛に向かうこと・破滅から完全に解脱したのである。
マハーナーマよ、ところでここに、ある魂は、覚者に対して完全に献身しており、平安を見いだす。
『このように同様に、かの世尊は、供養値魂・最上正覚者・智徳成就者・最上善逝・世間解・無上士・丈夫調御者・天人師・覚者・世尊である』と。
法則に対して完全に献身しており、平安を見いだす。
『正しく言明された世尊による法則は、現実に利益をもたらし、直接的であり、すべての人に理解できるように説かれており、煩悩破壊へ導き、それぞれの識別によって理解できる』と。
出家教団に対して完全に献身しており、平安を見いだす。
『世尊の多学の弟子出家教団は、善につき従い、世尊の多学の弟子出家教団は、誠実に従い、世尊の多学の弟子出家教団は、正しい体系に従い、世尊の多学の弟

子出家教団は、正しい法則にのっとり日々を送るという、すなわち、この世尊の多学の弟子出家教団は、四対の人々‐八つの宗教的特性を持つ人々であって、崇拝に値し、厚遇されるに値し、寄贈を受けるに値し、合掌されるに値し、世界の無上の功徳の田畑である』と。

賢い智慧を有し、機敏な智慧を有し、そして離解脱を具足する。彼は五つの下位に結びつけるきずなを完全に破壊することによって、上流となり超越童子天に至る者となる。

マハーナーマよ、実に同様に、この魂は、激苦地獄から完全に解脱し、動物としての発生から完全に解脱し、低級霊域から完全に解脱し、離別・悲痛に向かうこと・破滅から完全に解脱したのである。

九　マハーナーマよ、ところでここに、ある魂は、覚者に対して完全に献身しており、平安を見いだす。

『このように同様に、かの世尊は、供養値魂・最上正覚者・智徳成就者・最上善

逝・世間解・無上士・丈夫調御者・天人師・覚者・世尊である』と。
法則に対して完全に献身しており、平安を見いだす。
『正しく言明された世尊による法則は、現実に利益をもたらし、直接的であり、すべての人に理解できるように説かれており、煩悩破壊へ導き、それぞれの識別によって理解できる』と。
出家教団に対して完全に献身しており、平安を見いだす。
『世尊の多学の弟子出家教団は、善につき従い、世尊の多学の弟子出家教団は、誠実に従い、世尊の多学の弟子出家教団は、正しい体系に従い、世尊の多学の弟子出家教団は、正しい法則にのっとり日々を送るという、すなわち、この世尊の多学の弟子出家教団は、四対の人々-八つの宗教的特性を持つ人々であって、崇拝に値し、厚遇されるに値し、寄贈を受けるに値し、合掌されるに値し、世界の無上の功徳の田畑である』と。
賢い智慧を有さず、機敏な智慧を有さず、そして離解脱を具足していない。彼

は三つのきずなを完全に破壊することによって、愛著・邪悪心・迷妄が削減し、(愛欲界に)一度だけ再生する人となり、もう一度だけこの世界に来て、苦しみの終極を行なう。

マハーナーマよ、実に同様に、この魂は、激苦地獄から完全に解脱し、動物としての発生から完全に解脱し、低級霊域から完全に解脱し、離別・悲痛に向かうこと・破滅から完全に解脱したのである。

一〇 マハーナーマよ、ところでここに、ある魂は、覚者に対して完全に献身しており、平安を見いだす。

『このように同様に、かの世尊は、供養値魂・最上正覚者・智徳成就者・最上善逝・世間解・無上士・丈夫調御者・天人師・覚者・世尊である』と。

法則に対して完全に献身しており、平安を見いだす。

『正しく言明された世尊による法則は、現実に利益をもたらし、直接的であり、すべての人に理解できるように説かれており、煩悩破壊へ導き、それぞれの識別

によって理解できる』と。

出家教団に対して完全に献身しており、平安を見いだす。

『世尊の多学の弟子出家教団は、善につき従い、世尊の多学の弟子出家教団は、誠実に従い、世尊の多学の弟子出家教団は、正しい体系に従い、世尊の多学の弟子出家教団は、正しい法則にのっとり日々を送るという、すなわち、この世尊の多学の弟子出家教団は、四対の人々・八つの宗教的特性を持つ人々であって、崇拝に値し、厚遇されるに値し、寄贈を受けるに値し、合掌されるに値し、世界の無上の功徳の田畑である』と。

賢い智慧を有さず、機敏な智慧を有さず、そして離解脱を具足していない。彼は三つのきずなを完全に破壊することによって、真理の流れに入った人であり、破滅にならない法則そのものであり、素晴らしい未来に対する確定者であり、正覚を最終地点とする。

マハーナーマよ、実に同様に、この魂は、激苦地獄から完全に解脱し、動物と

しての発生から完全に解脱し、低級霊域から完全に解脱し、離別・悲痛に向かうこと・破滅から完全に解脱したのである。

一一　マハーナーマよ、ところでここに、ある魂は、覚者に対して完全に献身しておらず、平安を見いださない。法則に対して完全に献身しておらず、平安を見いださない。出家教団に対して完全に献身しておらず、平安を見いださない。賢い智慧を有さず、機敏な智慧を有さず、そして離解脱を具足していない。

その上、彼には、信の潜在性・精進の潜在性・記憶修習の潜在性・サマディの潜在性・智慧の潜在性という、これらの法則がある。彼には真理勝者によって説き明かされた法則があり、智慧によって適度に喜びを見つける。

マハーナーマよ、実に同様に、この魂は、激苦地獄に行かず、動物としての発生に行かず、低級霊域に行かず、離別・悲痛に向かうこと・破滅に至らないのである。

一二　マハーナーマよ、ところでここに、ある魂は、覚者に対して完全に献身し

ておらず、平安を見いだささない。法則に対して完全に献身しておらず、平安を見いだささない。出家教団に対して完全に献身しておらず、平安を見いだささない。賢い智慧を有さず、機敏な智慧を有さず、そして離解脱を具足していない。

その上、彼には、信の潜在性・精進の潜在性・記憶修習の潜在性・サマディの潜在性・智慧の潜在性という、これらの法則がある。彼には、真理勝者に対する十分な信と十分な愛情がある。

マハーナーマよ、実に同様に、この魂は、激苦地獄に行かず、動物としての発生に行かず、低級霊域に行かず、離別・悲痛に向かうこと・破滅に至らないのである。

一三 マハーナーマよ、例として、根株が取り払われておらず不良の土壌の悪い田畑に、分割された粗悪な、風と熱暑で駄目にされ、土によく植えられていない、役に立たない種々の種子があり、愛欲神が激しいにわか雨をもたらさなかったとしよう。実は同一に、それらの種子は発達し成長し充実することになるだろうか。」

「尊師よ、そのようなことはありません。」

「マハーナーマよ、全く同様に、ここに法則は、悪く言明され、悪く説き明かされ、輪廻から脱却させず、寂静に臨み貢献せず、最上正覚者によって説き明かされたものではない。これが悪い田畑においてあると、わたしは断言する。

そして、多学の弟子が、その法則に対して、真理の法則にのっとり法則の実践を行ない、正しい法則にのっとり日々を送り、真理を背景として日々を送ってとどまる。これが悪い種子においてあると、わたしは断言するのである。

一四　マハーナーマよ、例として、根株が正しく取り払われた優れた土壌の田畑に、分割されず粗悪ではない、風と熱暑で駄目にされていない、土によく植えられた、最も優良な種々の種子があり、愛欲神が激しいにわか雨をもたらすとしよう。実は同一に、それらの種子は発達し成長し充実することになるだろうか。」

「尊師よ、そのとおりです。」

「マハーナーマよ、全く同様に、ここに法則は、正しく言明され、正しく説き明

かされ、輪廻から脱却させ、寂静に臨み貢献し、最上正覚者によって説き明かされたものである。これが良い田畑においてあると、わたしは断言する。

そして、多学の弟子が、その法則に対して、真理の法則にのっとり法則の実践を行ない、正しい法則にのっとり日々を送り、真理を背景として日々を送ってとどまる。これが良い種子においてあると、わたしは断言するのである。

したがって、サキャ族のサラカーニにおいてはなおさらである。マハーナーマよ、サキャ族のサラカーニは生存の終わりの時に、教えを完全にしていたのだから。」

【二六】第六　破戒（一）、あるいはアナータピンディカ（一）

一　サーヴァッティの地にて。

二　ところでそのとき、アナータピンディカ後援者は病気で、苦しみ、重病であっ

た。

三　直ちに、アナータピンディカ後援者は、ある召使いに呼びかけた。
「いいかい、召使いよ、来なさい。お前は聖者サーリプッタの所に行きなさい。行って、わたしの名前で聖者サーリプッタの足に頭でうやうやしくあいさつしなさい。
『尊者よ、アナータピンディカ後援者は病気で、苦しみ、重病です。彼は聖者サーリプッタの足に頭でうやうやしくあいさつして、このように話しかけます。
「尊者よ、どうか真に慈悲に応じて、聖者サーリプッタはアナータピンディカ後援者の所にいらっしゃってください」と。』」
「わかりました、尊者よ。」
と、実にその召使いはアナータピンディカ後援者に承諾して、聖者サーリプッタの所に行った。行くと、聖者サーリプッタに敬礼して、そばに座った。

四　そばに座ったその召使いは、実に聖者サーリプッタにこう言った。

「尊者よ、アナータピンディカ後援者は病気で、苦しみ、重病です。彼は聖者サーリプッタの足に頭でうやうやしくあいさつして、このように話しかけます。『尊者よ、どうか真に慈悲に応じて、聖者サーリプッタがアナータピンディカ後援者の所にいらっしゃってください』と。」

実に、聖者サーリプッタは黙っていることによって同意したのである。

五　直ちに、聖者サーリプッタは、早朝正装して、鉢と上衣を持って、聖者アーナンダを後に出家修行者として、アナータピンディカ後援者の所に行った。行くと、用意された座に座った。座ると、実に聖者サーリプッタはアナータピンディカ後援者にこう言った。

「後援者よ、果たしてあなたは快方に向かっていますか。果たして生命の維持に耐えられますか。果たして種々の苦しみの感覚は減り全く進まず、その減少が認識され理解され、進行は全く認識されず理解されませんか」と。

「尊者よ、わたしは快方に向かっていず、生命の維持に耐えられず、わたしの種々

の強烈な苦しみの感覚は進み全く減らず、その進行が認識され理解され、減少は全く認識されず理解されません」と。

六「後援者よ、実に、覚者に対する誹謗を具足した無学の普通の人は、身体が破壊してから死後、離別であり、悲痛に向かうことであり、破滅である激苦地獄に流転しますが、あなたには覚者に対するそのような誹謗はありません。後援者よ、そして実に、あなたには覚者に対する絶対の浄信があるのです。『このように同様に、かの世尊は、供養値魂・最上正覚者・智徳成就者・最上善逝・世間解・無上士・丈夫調御者・天人師・覚者・世尊である』と。

そしてしたがって、自分自身には覚者に対して絶対の浄信があるのだとあなたが認めれば、感覚は必然的に治まることでしょう。

七 後援者よ、実に、法則に対する誹謗を具足した無学の普通の人は、身体が破壊してから死後、離別であり、悲痛に向かうことであり、破滅である激苦地獄に流転しますが、あなたには法則に対するそのような誹謗はありません。後援者よ、

そして実に、あなたには法則に対する絶対の浄信があるのです。
『正しく言明された世尊による法則は、現実に利益をもたらし、直接的であり、すべての人に理解できるように説かれており、煩悩破壊へ導き、それぞれの識別によって理解できる』と。

そしてしたがって、自分自身には法則に対して絶対の浄信があるのだとあなたが認めれば、感覚は必然的に治まることでしょう。

八　後援者よ、実に、出家教団に対する誹謗を具足した無学の普通の人は、身体が破壊してから死後、離別であり、悲痛に向かうことであり、破滅である激苦地獄に流転しますが、あなたには出家教団に対するそのような誹謗はありません。後援者よ、そして実に、あなたには出家教団に対する絶対の浄信があるのです。
『世尊の多学の弟子出家教団は、善につき従い、世尊の多学の弟子出家教団は、誠実に従い、世尊の多学の弟子出家教団は、正しい体系に従い、世尊の多学の弟子出家教団は、正しい法則にのっとり日々を送るという、すなわち、この世尊の

多学の弟子出家教団は、四対の人々・八つの宗教的特性を持つ人々であって、崇拝に値し、厚遇されるに値し、寄贈を受けるに値し、合掌されるに値し、世界の無上の功徳の田畑である』と。

そしてしたがって、自分自身には出家教団に対して絶対の浄信があるのだとあなたが認めれば、感覚は必然的に治まることでしょう。

九　後援者よ、実に、破戒を具足した無学の普通の人は、身体が破壊してから死後、離別であり、悲痛に向かうことであり、破滅である激苦地獄に流転しますが、あなたにはそのような破戒はありません。後援者よ、そして実に、あなたには聖人が愛する種々の戒があるのです。

『聖なる戒であり、道徳的に肯定されるべきものであり、悪趣に落ちない戒であり、純粋な戒であり、煩悩から解放する戒であり、識者に称賛され、煩悩に負けないための戒であり、サマディに貢献する』と。

そしてしたがって、自分自身には聖人が愛する種々の戒があるのだとあなたが

認めれば、感覚は必然的に治まることでしょう。

一〇　後援者よ、実に、誤謬見解（ごびゅうけんかい）を具足した無学の普通の人は、身体が破壊してから死後、離別であり、悲痛に向かうことであり、破滅である激苦地獄に流転しますが、あなたにはそのような誤謬見解はありません。後援者よ、そして実に、あなたには正見解があるのです。

そしてしたがって、自分自身には正見解があるのだとあなたが認めれば、感覚は必然的に治まることでしょう。

一一　後援者よ、実に、誤謬思惟（ごびゅうしい）を具足した無学の普通の人は、身体が破壊してから死後、離別であり、悲痛に向かうことであり、破滅である激苦地獄に流転しますが、あなたにはそのような誤謬思惟はありません。後援者よ、そして実に、あなたには正思惟があるのです。

そしてしたがって、自分自身には正思惟があるのだとあなたが認めれば、感覚は必然的に治まることでしょう。

一二　後援者よ、実に、誤謬語を具足した無学の普通の人は、身体が破壊してから死後、離別であり、悲痛に向かうことであり、破滅である激苦地獄に流転しますが、あなたにはそのような誤謬語はありません。後援者よ、そして実に、あなたには正語があるのです。

そしてしたがって、自分自身には正語があるのだとあなたが認めれば、感覚は必然的に治まることでしょう。

一三　後援者よ、実に、誤謬行為を具足した無学の普通の人は、身体が破壊してから死後、離別であり、悲痛に向かうことであり、破滅である激苦地獄に流転しますが、あなたにはそのような誤謬行為はありません。後援者よ、そして実に、あなたには正行為があるのです。

そしてしたがって、自分自身には正行為があるのだとあなたが認めれば、感覚は必然的に治まることでしょう。

一四　後援者よ、実に、誤謬生活を具足した無学の普通の人は、身体が破壊して

から死後、離別であり、悲痛に向かうことであり、破滅である激苦地獄に流転しますが、あなたにはそのような誤謬生活はありません。後援者よ、そして実に、あなたには正生活があるのです。

そしてしたがって、自分自身には正生活があるのだとあなたが認めれば、感覚は必然的に治まることでしょう。

一五　後援者よ、実に、誤謬奮闘（ごびゅうふんとう）を具足した無学の普通の人は、身体が破壊してから死後、離別であり、悲痛に向かうことであり、破滅である激苦地獄に流転しますが、あなたにはそのような誤謬奮闘はありません。後援者よ、そして実に、あなたには正奮闘があるのです。

そしてしたがって、自分自身には正奮闘があるのだとあなたが認めれば、感覚は必然的に治まることでしょう。

一六　後援者よ、実に、誤謬記憶修習（ごびゅうきおくしゅじゅう）を具足した無学の普通の人は、身体が破壊してから死後、離別であり、悲痛に向かうことであり、破滅である激苦地獄に流

転しますが、あなたにはそのような誤謬記憶修習はありません。後援者よ、そして実に、あなたには正記憶修習があるのです。

そしてしたがって、自分自身には正記憶修習があるのだとあなたが認めれば、感覚は必然的に治まることでしょう。

一七　後援者よ、実に、誤謬サマディを具足した無学の普通の人は、身体が破壊してから死後、離別であり、悲痛に向かうことであり、破滅である激苦地獄に流転しますが、あなたにはそのような誤謬サマディはありません。後援者よ、そして実に、あなたには正サマディがあるのです。

そしてしたがって、自分自身には正サマディがあるのだとあなたが認めれば、感覚は必然的に治まることでしょう。

一八　後援者よ、実に、誤謬精通を具足した無学の普通の人は、身体が破壊してから死後、離別であり、悲痛に向かうことであり、破滅である激苦地獄に流転しますが、あなたにはそのような誤謬精通はありません。後援者よ、そして実に、

あなたには正精通があるのです。
そしてしたがって、自分自身には正精通があるのだとあなたが認めれば、感覚は必然的に治まることでしょう。
一九　後援者よ、実に、誤謬離解脱を具足した無学の普通の人は、身体が破壊してから死後、離別であり、悲痛に向かうことであり、破滅である激苦地獄に流転しますが、あなたにはそのような誤謬離解脱はありません。後援者よ、そして実に、あなたには正離解脱があるのです。
そしてしたがって、自分自身には正離解脱があるのだとあなたが認めれば、感覚は必然的に治まることでしょう。」
二〇　直ちに、アナータピンディカ後援者の感覚は、必然的に治まったのである。
二一　直ちに、アナータピンディカ後援者は、聖者サーリプッタと聖者アーナンダに、自分自身で広い皿に料理されたものを給仕した。
二二　なおまた、アナータピンディカ後援者は至って、聖者サーリプッタが食べ

てしまって、手で鉢を置いたとき、ある低い座を取って、そばに座った。

二三　そばに座ったアナータピンディカ後援者に対し、実に聖者サーリプッタはこの詩句によって感謝した。

一　「真理勝者に対する信が、
確固として正しく確立しており、
そして聖人が愛し称賛した
素晴らしい戒があり、

二　出家教団に対する浄信があり、
そして誠実な真実の見解がある者には、
生活は空虚ではなく、
彼を『貧しくない』という。

三　この理由ゆえに、頭の良いあなた方は、
覚者の救済計画を記憶修習しながら、
信と戒と浄信と法則見解を、
守り実践するべきだ」と。

二四　直ちに、アナータピンディカ後援者に対し、聖者サーリプッタはこの詩句によって感謝して、座を立って去った。

二五　直ちに、聖者アーナンダは世尊の所に行った。行くと、世尊に敬礼してそばに座った。そばに座った聖者アーナンダに、実に世尊はこうおっしゃられた。

二六「さあ、アーナンダよ、君はこんなに朝早くどこから来たんだ？」
「尊師よ、聖者サーリプッタによって、アナータピンディカ後援者はこれとこれの忠告によって忠告されたのです。」

「アーナンダよ、サーリプッタは賢者である。アーナンダよ、サーリプッタは偉大な智慧を有する。全く、四つの真理の流れに入る段階を十の状態に分別できるからである。」

【二七】第七　破戒、あるいはアナータピンディカ（二）

一　サーヴァッティの地にて。

二　ところでそのとき、アナータピンディカ後援者は病気で、苦しみ、重病であった。

三　直ちに、アナータピンディカ後援者は、ある召使いに呼びかけた。

「いいかい、召使いよ、来なさい。お前は聖者アーナンダの所に行きなさい。行って、わたしの名前で聖者アーナンダの足に頭でうやうやしくあいさつしなさい。『尊者よ、アナータピンディカ後援者は病気で、苦しみ、重病です。彼は聖者アーナンダの足に頭でうやうやしくあいさつして、このように話しかけます。

「尊者よ、どうか真に慈悲に応じて、聖者アーナンダがアナータピンディカ後援者の所にいらっしゃってください」と。』」

「わかりました。尊者よ。」

と、実にその召使いはアナータピンディカ後援者に承諾して、聖者アーナンダの所に行った。行くと、聖者アーナンダに敬礼して、そばに座った。

四　そばに座ったその召使いは、実に聖者アーナンダにこう言った。

「尊者よ、アナータピンディカ後援者は病気で、苦しみ、重病です。彼は聖者アーナンダの足に頭でうやうやしくあいさつして、このように話しかけます。

『尊者よ、どうか真に慈悲に応じて、聖者アーナンダがアナータピンディカ後援者の所にいらっしゃってください』と。」

実に、聖者アーナンダは黙っていることによって同意したのである。

五　直ちに、聖者アーナンダは、早朝正装して、鉢と上衣を持って、アナータピンディカ後援者の所に行った。行くと、用意された座に座った。座ると、実に聖

者アーナンダはアナータピンディカ後援者にこう言った。
「後援者よ、果たしてあなたは快方に向かっていますか。果たして生命の維持に耐えられますか。果たして種々の苦しみの感覚は減り全く進まず、その減少が認識され理解され、進行は全く認識されず理解されませんか」と。
「尊者よ、わたしは快方に向かっていず、生命の維持に耐えられず、わたしの種々の強烈な苦しみの感覚は進み全く減らず、その進行が認識され理解され、減少は全く認識されず理解されません」と。
六 「後援者よ、四つの法則を具足した無学の普通の人には、恐れがあり、驚愕(きょうがく)があり、来世の死の恐怖があります。四つとは何でしょうか。
七 後援者よ、ここに無学の普通の人は、覚者に対する誹謗を具足します。そしてしたがって、自分自身には覚者に対して誹謗があるのだと彼が認めれば、恐れがあり、驚愕があり、来世の死の恐怖があるのです。
後援者よ、そしてまたさらに、無学の普通の人は、法則に対する誹謗を具足し

ます。そしてしたがって、自分自身には法則に対して誹謗があるのだと彼が認めれば、恐れがあり、驚愕があり、来世の死の恐怖があるのです。

後援者よ、そしてまたさらに、無学の普通の人は、出家教団に対する誹謗を具足します。そしてしたがって、自分自身には出家教団に対して誹謗があるのだと彼が認めれば、恐れがあり、驚愕があり、来世の死の恐怖があるのです。

後援者よ、そしてまたさらに、無学の普通の人は、破戒を具足します。そしてしたがって、自分自身には破戒があるのだと彼が認めれば、恐れがあり、驚愕があり、来世の死の恐怖があるのです。

後援者よ、実にこれら四つの法則を具足した無学の普通の人には、恐れがあり、驚愕があり、来世の死の恐怖があるのです。

八　後援者よ、四つの法則を具足した有学の聖なる多学の弟子には、恐れがなく、驚愕がなく、来世の死の恐怖がありません。四つとは何でしょうか。

後援者よ、ここに有学の聖なる多学の弟子は、覚者に対して絶対の浄信を具足

します。
『このように同様に、かの世尊は、供養値魂・最上正覚者・智徳成就者・最上善逝・世間解・無上士・丈夫調御者・天人師・覚者・世尊である』と。
そしてしたがって、自分自身には覚者に対して絶対の浄信があるのだと彼が認めれば、恐れがなく、驚愕がなく、来世の死の恐怖がないのです。
後援者よ、そしてまたさらに、有学の聖なる多学の弟子は、法則に対して絶対の浄信を具足します。
『正しく言明された世尊による法則は、現実に利益をもたらし、直接的であり、すべての人に理解できるように説かれており、煩悩破壊へ導き、それぞれの識別によって理解できる』と。
そしてしたがって、自分自身には法則に対して絶対の浄信があるのだと彼が認めれば、恐れがなく、驚愕がなく、来世の死の恐怖がないのです。
後援者よ、そしてまたさらに、有学の聖なる多学の弟子は、出家教団に対して

絶対の浄信を具足します。

『世尊の多学の弟子出家教団は、善につき従い、世尊の多学の弟子出家教団は、誠実に従い、世尊の多学の弟子出家教団は、正しい体系に従い、世尊の多学の弟子出家教団は、正しい法則にのっとり日々を送るという、すなわち、この世尊の多学の弟子出家教団は、四対の人々・八つの宗教的特性を持つ人々であって、崇拝に値し、厚遇されるに値し、寄贈を受けるに値し、合掌されるに値し、世界の無上の功徳の田畑である』と。

そしてしたがって、自分自身には出家教団に対して絶対の浄信があるのだと彼が認めれば、恐れがなく、驚愕がなく、来世の死の恐怖がないのです。

後援者よ、そしてまたさらに、有学の聖なる多学の弟子は、聖人が愛する種々の戒を具足します。

『聖なる戒であり、道徳的に肯定されるべきものであり、悪趣に落ちない戒であり、純粋な戒であり、煩悩から解放する戒であり、識者に称賛され、煩悩に負け

ないための戒であり、サマディに貢献する』と。

そしてしたがって、自分自身には聖人が愛する種々の戒があるのだと彼が認めれば、恐れがなく、驚愕がなく、来世の死の恐怖がないのです。

後援者よ、実にこれら四つの法則を具足した有学の聖なる多学の弟子には、恐れがなく、驚愕がなく、来世の死の恐怖がないのです。」

九 「尊者アーナンダよ、わたしは恐怖しません。わたしは何を恐怖するのでしょうか。

尊者よ、なるほどわたしは、覚者に対して絶対の浄信を具足します。『このように同様に、かの世尊は、供養値魂・最上正覚者・智徳成就者・最上善逝・世間解・無上士・丈夫調御者・天人師・覚者・世尊である』と。

法則に対して絶対の浄信を具足します。『正しく言明された世尊による法則は、現実に利益をもたらし、直接的であり、すべての人に理解できるように説かれており、煩悩破壊へ導き、それぞれの識別

によって理解できる』と。
　出家教団に対して絶対の浄信を具足します。
『世尊の多学の弟子出家教団は、善につき従い、世尊の多学の弟子出家教団は、誠実に従い、世尊の多学の弟子出家教団は、正しい体系に従い、世尊の多学の弟子出家教団は、正しい法則にのっとり日々を送るという、すなわち、この世尊の多学の弟子出家教団は、四対の人々・八つの宗教的特性を持つ人々であって、崇拝に値し、厚遇されるに値し、寄贈を受けるに値し、合掌されるに値し、世界の無上の功徳の田畑である』と。
　尊者よ、世尊によって、信徒の正しい法則にのっとった教えの真相が指し示されましたが、それにはどんな欠けた部分も、わたしはそれ自体の中に認めることはないのです。」
一〇「後援者よ、あなたにとって利益です。後援者よ、あなたにとってこの上ない幸福です。後援者よ、あなたは真理の流れに入る果報を明らかにしたのです。」

【二八】第八　悪しき罪悪、あるいはアナータピンディカ（三）

一　サーヴァッティの地にて。

二　直ちに、アナータピンディカ後援者は、世尊の所に行った。行くと、世尊に敬礼してそばに座った。そばに座ったアナータピンディカ後援者に、実に世尊はこう演説なさった。

三「後援者よ、実に聖なる多学の弟子は、五つの恐怖と罪悪を静止し、四つの真理の流れに入る段階を具足する。そして、彼には智慧によって、聖なる正しい体系が正しく見られ、正しく洞察される。彼が自分自身のために願うならば、『激苦地獄が破壊され、動物としての発生が破壊され、低級霊域が破壊され、離別・悲痛に向かうこと・破滅が破壊され、わたしは真理の流れに入った人であり、破滅にならない法則そのものであり、素晴らしい未来に対する確定者であり、正覚を最終地点とする』と、自分自身を明らかにすることができるのである。

『五つの恐怖と罪悪を静止する』とは、何であろうか。

四　後援者よ、殺生する者は、殺生を条件として、同様に見られる法則の恐怖と罪悪を生み、同様に来世の恐怖と罪悪を生み、同様に心の苦しみと落胆を経験する。殺生を自制することから、このようにその恐怖と罪悪は静止する。

後援者よ、与えられないものを強奪する者は、与えられないものを強奪することを条件として、同様に見られる法則の恐怖と罪悪を生み、同様に来世の恐怖と罪悪を生み、同様に心の苦しみと落胆を経験する。与えられないものを強奪することを自制することから、このようにその恐怖と罪悪は静止する。

後援者よ、愛欲における邪悪な行為をなす者は、愛欲における邪悪な行為を条件として、同様に見られる法則の恐怖と罪悪を生み、同様に来世の恐怖と罪悪を生み、同様に心の苦しみと落胆を経験する。愛欲における邪悪な行為を自制することから、このようにその恐怖と罪悪は静止する。

後援者よ、嘘の言い方をする者は、嘘の言い方を条件として、同様に見られる法則の恐怖と罪悪を生み、同様に来世の恐怖と罪悪を生み、同様に心の苦しみと

落胆を経験する。嘘の言い方を自制することから、このようにその恐怖と罪悪は静止する。

後援者よ、蒸留酒であるアルコールで酔わせて怠惰にする道理がある者は、蒸留酒であるアルコールで酔わせて怠惰にする道理を条件として、同様に見られる法則の恐怖と罪悪を生み、同様に来世の恐怖と罪悪を生み、同様に心の苦しみと落胆を経験する。蒸留酒であるアルコールで酔わせて怠惰にする道理を自制することから、このようにその恐怖と罪悪は静止する。

これらが、『五つの恐怖と罪悪を静止する』ことである。

五　『四つの真理の流れに入る段階を具足する』とは、何であろうか。

後援者よ、ここに聖なる多学の弟子は、覚者に対して絶対の浄信を具足する。『このように同様に、かの世尊は、供養値魂・最上正覚者・智徳成就者・最上善逝・世間解・無上士・丈夫調御者・天人師・覚者・世尊である』と。

法則に対して絶対の浄信を具足する。

『正しく言明された世尊による法則は、現実に利益をもたらし、直接的であり、すべての人に理解できるように説かれており、煩悩破壊へ導き、それぞれの識別によって理解できる』と。

出家教団に対して絶対の浄信を具足する。

『世尊の多学の弟子出家教団は、善につき従い、世尊の多学の弟子出家教団は、誠実に従い、世尊の多学の弟子出家教団は、正しい体系に従い、世尊の多学の弟子出家教団は、正しい法則にのっとり日々を送るという、すなわち、この世尊の多学の弟子出家教団は、四対の人々-八つの宗教的特性を持つ人々であって、崇拝に値し、厚遇されるに値し、寄贈を受けるに値し、合掌されるに値し、世界の無上の功徳の田畑である』と。

聖人が愛する種々の戒を具足する。

『聖なる戒であり、道徳的に肯定されるべきものであり、悪趣に落ちない戒であり、純粋な戒であり、煩悩から解放する戒であり、識者に称賛され、煩悩に負け

ないための戒であり、サマディに貢献する』と。

これらが、『四つの真理の流れに入る段階を具足する』ということである。

六　そして、『彼には智慧によって、聖なる正しい体系が正しく見られ、正しく洞察される』とは何であろうか。

後援者よ、ここに聖なる多学の弟子は、条件の生起を完璧に真理にのっとり作意する。

このように、これがあるとき、これがある。この起因によって、これが起因する。このように、これがないとき、これがない。この滅尽によって、これが滅尽する。

すなわち、非神秘力を条件として経験の構成があり、経験の構成を条件として識別があり、識別を条件として心の要素-形状-容姿があり、心の要素-形状-容姿を条件として六つの感覚要素と対象があり、六つの感覚要素と対象を条件として接触があり、接触を条件として感覚があり、感覚を条件として渇愛(かつあい)があり、渇愛

を条件としてとらわれがあり、とらわれを条件として生存があり、生存を条件として出生があり、出生を条件として老死があり、老死を条件として種々の不運な出来事・悲嘆・苦しみ・激痛・悩みが引き起こされて、このように、このすべての部分を含む苦しみの集積の生起がある。

しかしながら、非神秘力において、離愛著で残らず滅尽することにより、経験の構成の滅尽があり、経験の構成の滅尽によって識別の滅尽があり、識別の滅尽によって心の要素-形状-容姿の滅尽があり、心の要素-形状-容姿の滅尽によって六つの感覚要素と対象の滅尽があり、六つの感覚要素と対象の滅尽によって接触の滅尽があり、接触の滅尽によって感覚の滅尽があり、感覚の滅尽によって渇愛の滅尽があり、渇愛の滅尽によってとらわれの滅尽があり、とらわれの滅尽によって生存の滅尽があり、生存の滅尽によって出生の滅尽があり、出生の滅尽によって老死の滅尽があり、老死の滅尽によって種々の不運な出来事・悲嘆・苦しみ・激痛・悩みが滅尽して、このように、このすべての部分を含む苦しみの集積の滅

尽がある。
これが、『彼には智慧によって、聖なる正しい体系が正しく見られ、正しく洞察される』ことである。
七　後援者よ、実に聖なる多学の弟子は、これら五つの恐怖と罪悪を静止し、これら四つの真理の流れに入る段階を具足する。そして、彼には智慧によって、この聖なる正しい体系が正しく見られ、正しく洞察される。彼が自分自身のために願うならば、『激苦地獄が破壊され、動物としての発生が破壊され、低級霊域が破壊され、離別・悲痛に向かうこと・破滅が破壊され、わたしは真理の流れに入った人であり、破滅にならない法則そのものであり、素晴らしい未来に対する確定者であり、正覚を最終地点とする』と、自分自身を明らかにすることができるのである」と。

【三九】第九　恐怖、あるいは向煩悩滅尽多学男

一　サーヴァッティの地にて。

二　直ちに、多くの向煩悩滅尽多学男たちは、世尊の所に行った。行くと、世尊に敬礼してそばに座った。そばに座ったその向煩悩滅尽多学男たちに、実に世尊はこう演説なさった。

三「向煩悩滅尽多学男たちよ、実に聖なる多学の弟子は、五つの恐怖と罪悪を静止し、四つの真理の流れに入る段階を具足する。そして、彼には智慧によって、聖なる正しい体系が正しく見られ、正しく洞察される。彼が自分自身のために願うならば、『激苦地獄が破壊され、動物としての発生が破壊され、低級霊域が破壊され、離別・悲痛に向かうこと・破滅が破壊され、わたしは真理の流れに入った人であり、破滅にならない法則そのものであり、素晴らしい未来に対する確定者であり、正覚を最終地点とする』と、自分自身を明らかにすることができるのである。

『五つの恐怖と罪悪を静止する』とは、何であろうか。

四　向煩悩滅尽多学男たちよ、殺生する者は、殺生を条件として、同様に見られる法則の恐怖と罪悪を生み、同様に来世の恐怖と罪悪を生み、同様に心の苦しみと落胆を経験する。殺生を自制することから、このようにその恐怖と罪悪は静止する。

向煩悩滅尽多学男たちよ、与えられないものを強奪する者は、与えられないものを強奪することを条件として、同様に見られる法則の恐怖と罪悪を生み、同様に来世の恐怖と罪悪を生み、同様に心の苦しみと落胆を経験する。与えられないものを強奪することを自制することから、このようにその恐怖と罪悪は静止する。

向煩悩滅尽多学男たちよ、愛欲における邪悪な行為をなす者は、愛欲における邪悪な行為を条件として、同様に見られる法則の恐怖と罪悪を生み、同様に来世の恐怖と罪悪を生み、同様に心の苦しみと落胆を経験する。愛欲における邪悪な行為を自制することから、このようにその恐怖と罪悪は静止する。

向煩悩滅尽多学男たちよ、嘘の言い方をする者は、嘘の言い方を条件として、同様に見られる法則の恐怖と罪悪を生み、同様に来世の恐怖と罪悪を生み、同様に心の苦しみと落胆を経験する。嘘の言い方を自制することから、このようにその恐怖と罪悪は静止する。

向煩悩滅尽多学男たちよ、蒸留酒であるアルコールで酔わせて怠惰にする道理がある者は、蒸留酒であるアルコールで酔わせて怠惰にする道理を条件として、同様に見られる法則の恐怖と罪悪を生み、同様に来世の恐怖と罪悪を生み、同様に心の苦しみと落胆を経験する。蒸留酒であるアルコールで酔わせて怠惰にする道理を自制することから、このようにその恐怖と罪悪は静止する。

これらが、『五つの恐怖と罪悪を静止する』ことである。

五　『四つの真理の流れに入る段階を具足する』とは、何であろうか。

向煩悩滅尽多学男たちよ、ここに聖なる多学の弟子は、覚者に対して絶対の浄信を具足する。

『このように同様に、かの世尊は、供養値魂・最上正覚者・智徳成就者・最上善逝・世間解・無上士・丈夫調御者・天人師・覚者・世尊である』と。
法則に対して絶対の浄信を具足する。
『正しく言明された世尊による法則は、現実に利益をもたらし、直接的であり、すべての人に理解できるように説かれており、煩悩破壊へ導き、それぞれの識別によって理解できる』と。
出家教団に対して絶対の浄信を具足する。
『世尊の多学の弟子出家教団は、善につき従い、世尊の多学の弟子出家教団は、誠実に従い、世尊の多学の弟子出家教団は、正しい体系に従い、世尊の多学の弟子出家教団は、正しい法則にのっとり日々を送るという、すなわち、この世尊の多学の弟子出家教団は、四対の人々-八つの宗教的特性を持つ人々であって、崇拝に値し、厚遇されるに値し、寄贈を受けるに値し、合掌されるに値し、世界の無上の功徳の田畑である』と。

聖人が愛する種々の戒を具足する。

『聖なる戒であり、道徳的に肯定されるべきものであり、悪趣に落ちない戒であり、純粋な戒であり、煩悩から解放する戒であり、識者に称賛され、煩悩に負けないための戒であり、サマディに貢献する』と。

これらが、『四つの真理の流れに入る段階を具足する』ということである。

六　そして、『彼には智慧によって、聖なる正しい体系が正しく見られ、正しく洞察される』とは何であろうか。

向煩悩滅尽多学男たちよ、ここに聖なる多学の弟子は、条件の生起を完璧に真理にのっとり作意する。

このように、これがあるとき、これがある。この起因によって、これが起因する。このように、これがないとき、これがない。この滅尽によって、これが滅尽する。

すなわち、非神秘力を条件として経験の構成があり、経験の構成を条件として識別があり、識別を条件として心の要素-形状-容姿があり、心の要素-形状-容姿

を条件として六つの感覚要素と対象があり、六つの感覚要素と対象を条件として接触があり、接触を条件として感覚があり、感覚を条件として渇愛があり、渇愛を条件としてとらわれがあり、とらわれを条件として生存があり、生存を条件として出生があり、出生を条件として老死があり、老死を条件として種々の不運な出来事・悲嘆・苦しみ・激痛・悩みが引き起こされて、このように、このすべての部分を含む苦しみの集積の生起がある。

しかしながら、非神秘力において、離愛著で残らず滅尽することにより、経験の構成の滅尽があり、経験の構成の滅尽によって識別の滅尽があり、識別の滅尽によって心の要素-形状-容姿の滅尽があり、心の要素-形状-容姿の滅尽によって六つの感覚要素と対象の滅尽があり、六つの感覚要素と対象の滅尽によって接触の滅尽があり、接触の滅尽によって感覚の滅尽があり、感覚の滅尽によって渇愛の滅尽があり、渇愛の滅尽によってとらわれの滅尽があり、とらわれの滅尽によって生存の滅尽があり、生存の滅尽によって出生の滅尽があり、出生の滅尽によっ

て老死の滅尽があり、老死の滅尽によって種々の不運な出来事・悲嘆・苦しみ・激痛・悩みが滅尽して、このように、このすべての部分を含む苦しみの集積の滅尽がある。

これが、『彼には智慧によって、聖なる正しい体系が正しく見られ、正しく洞察される』ことである。

七　向煩悩滅尽多学男たちよ、実に聖なる多学の弟子は、これら五つの恐怖と罪悪を静止し、これら四つの真理の流れに入る段階を具足する。そして、彼には智慧によって、この聖なる正しい体系が正しく見られ、正しく洞察される。彼が自分自身のために願うならば、『激苦地獄が破壊され、動物としての発生が破壊され、低級霊域が破壊され、離別・悲痛に向かうこと・破滅が破壊され、わたしは真理の流れに入った人であり、破滅にならない法則そのものであり、素晴らしい未来に対する確定者であり、正覚を最終地点とする』と、自分自身を明らかにすることができるのである」と。

【三〇】第十　リッチャヴィ、あるいはナンダカ

一　あるとき、世尊はヴェーサーリー（広大王によって造られた都市）の大林にある重閣講堂にとどまっておられた。

二　直ちに、リッチャヴィ（表皮のない）の大臣ナンダカ（小さな喜悦の性質を持つ者）は、世尊の所に行った。行くと、世尊に敬礼してそばに座った。そばに座ったリッチャヴィの大臣ナンダカに、実に世尊はこう演説なさった。

「ナンダカよ、実に四つの法則を具足した聖なる多学の弟子は、真理の流れに入った人であり、破滅にならない法則そのものであり、素晴らしい未来に対する確定者であり、正覚を最終地点とするのである。四つとは何であろうか。

三　ナンダカよ、ここに聖なる多学の弟子は、覚者に対して絶対の浄信を具足する。

『このように同様に、かの世尊は、供養値魂・最上正覚者・智徳成就者・最上善逝・世間解・無上士・丈夫調御者・天人師・覚者・世尊である』と。

法則に対して絶対の浄信を具足する。

『正しく言明された世尊による法則は、現実に利益をもたらし、直接的であり、すべての人に理解できるように説かれており、煩悩破壊へ導き、それぞれの識別によって理解できる』と。

出家教団に対して絶対の浄信を具足する。

『世尊の多学の弟子出家教団は、善につき従い、世尊の多学の弟子出家教団は、誠実に従い、世尊の多学の弟子出家教団は、正しい体系に従い、世尊の多学の弟子出家教団は、正しい法則にのっとり日々を送るという、すなわち、この世尊の多学の弟子出家教団は、四対の人々-八つの宗教的特性を持つ人々であって、崇拝に値し、厚遇されるに値し、寄贈を受けるに値し、合掌されるに値し、世界の無上の功徳の田畑である』と。

聖人が愛する種々の戒を具足する。

『聖なる戒であり、道徳的に肯定されるべきものであり、悪趣に落ちない戒であり、純粋な戒であり、煩悩から解放する戒であり、識者に称賛され、煩悩に負け

ないための戒であり、サマディに貢献する』と。

ナンダカよ、そしてしたがって、これら四つの法則を具足した聖なる多学の弟子は、真理の流れに入った人であり、破滅にならない法則そのものであり、素晴らしい未来に対する確定者であり、正覚を最終地点とするのである。

四 ナンダカよ、そしてしたがって、これら四つの法則を具足した聖なる多学の弟子は、「同様に天同様に人の寿命と結ばれ、同様に天同様に人の容色と結ばれ、同様に天同様に人の楽と結ばれ、同様に天同様に人の栄光と結ばれ、同様に天同様に人の統治と結ばれる。

五 ナンダカよ、その場合においては、わたしはこれを他の出家修行者や、あるいは祭司に聞いて断言するのではない。その上、わたしが自分だけで発見し、自分だけで見、自分だけで知ったこと、それをまさにわたしは断言するのである」と。

六 このように演説なさったとき、ある召使いは、リッチャヴィの大臣ナンダカにこう言った。

「大臣よ、水浴の時間です」と。

「今この外的な水浴によるものは、おい、たくさんだよ。この心の中の水浴がかなっているに違いない。すなわち、世尊に対する浄信があるから」と。

第三　サラカーニ品

その経群

マハーナーマによって二つが演説され、ゴーダー、そしてサラナーが二つ

破戒によって二つが演説され、

悪しき罪悪によって、そして恐怖によって、

リッチャヴィの第十が演説され、

品（ほん）がそれによって著しく言われると。

第四　功徳の器からあふれ出たもので生きること品

【三一】第一　あふれ出たもの（一）

一　サーヴァッティの地にて。

二　「向煩悩滅尽多学男たちよ、四つの『功徳の器からあふれ出たもので生きること・正しさの器からあふれ出たもので生きること・楽の食物』がある。四つとは何であろうか。

三　向煩悩滅尽多学男たちよ、ここに聖なる多学の弟子は、覚者に対して絶対の浄信を具足する。

『このように同様に、かの世尊は、供養値魂・最上正覚者・智徳成就者・最上善逝・世間解・無上士・丈夫調御者・天人師・覚者・世尊である』と。

これが、第一の『功徳の器からあふれ出たもので生きること・正しさの器からあふれ出たもので生きること・楽の食物』である。

四　向煩悩滅尽多学男たちよ、そしてまたさらに、聖なる多学の弟子は、法則に対して絶対の浄信を具足する。
『正しく言明された世尊による法則は、現実に利益をもたらし、直接的であり、すべての人に理解できるように説かれており、煩悩破壊へ導き、それぞれの識別によって理解できる』と。
　これが、第二の『功徳の器からあふれ出たもので生きること・正しさの器からあふれ出たもので生きること・楽の食物』である。
五　向煩悩滅尽多学男たちよ、そしてまたさらに、聖なる多学の弟子は、出家教団に対して絶対の浄信を具足する。
『世尊の多学の弟子出家教団は、善につき従い、世尊の多学の弟子出家教団は、誠実に従い、世尊の多学の弟子出家教団は、正しい体系に従い、世尊の多学の弟子出家教団は、正しい法則にのっとり日々を送るという、すなわち、この世尊の多学の弟子出家教団は、四対の人々-八つの宗教的特性を持つ人々であって、宗

拝に値し、厚遇されるに値し、寄贈を受けるに値し、合掌されるに値し、世界の無上の功徳の田畑である』と。

これが、第三の『功徳の器からあふれ出たもので生きること・正しさの器からあふれ出たもので生きること・楽の食物』である。

六　向煩悩滅尽多学男たちよ、そしてまたさらに、聖なる多学の弟子は、聖人が愛する種々の戒を具足する。――『聖なる戒であり、道徳的に肯定されるべきものであり、悪趣に落ちない戒であり、純粋な戒であり、煩悩から解放する戒であり、識者に称賛され、煩悩に負けないための戒であり、サマディに貢献する』と。

これが、第四の『功徳の器からあふれ出たもので生きること・正しさの器からあふれ出たもので生きること・楽の食物』である。

七　向煩悩滅尽多学男たちよ、これらが実に、四つの『功徳の器からあふれ出たもので生きること・正しさの器からあふれ出たもので生きること・楽の食物』で

ある」と。

【三二】第二　あふれ出たもの（二）

二　「向煩悩滅尽多学男たちよ、四つの『功徳の器からあふれ出たもので生きること・楽の食物』がある。四つとは何であろうか。

三　向煩悩滅尽多学男たちよ、ここに聖なる多学の弟子は、覚者に対して絶対の浄信を具足する。

『このように同様に、かの世尊は、供養値魂・最上正覚者・智徳成就者・最上善逝・世間解・無上士・丈夫調御者・天人師・覚者・世尊である』と。

これが、第一の『功徳の器からあふれ出たもので生きること・正しさの器からあふれ出たもので生きること・楽の食物』である。

四　向煩悩滅尽多学男たちよ、そしてまたさらに、聖なる多学の弟子は、法則に対して絶対の浄信を具足する。
『正しく言明された世尊による法則は、現実に利益をもたらし、直接的であり、すべての人に理解できるように説かれており、煩悩破壊へ導き、それぞれの識別によって理解できる』と。

これが、第二の『功徳の器からあふれ出たもので生きること・正しさの器からあふれ出たもので生きること・楽の食物』である。

五　向煩悩滅尽多学男たちよ、そしてまたさらに、聖なる多学の弟子は、出家教団に対して絶対の浄信を具足する。
『世尊の多学の弟子出家教団は、善につき従い、世尊の多学の弟子出家教団は、誠実に従い、世尊の多学の弟子出家教団は、正しい体系に従い、世尊の多学の弟子出家教団は、正しい法則にのっとり日々を送るという、すなわち、この世尊の多学の弟子出家教団は、四対の人々・八つの宗教的特性を持つ人々であって、崇

拝に値し、厚遇されるに値し、寄贈を受けるに値し、合掌されるに値し、世界の無上の功徳の田畑である』と。

これが、第三の『功徳の器からあふれ出たもので生きること・正しさの器からあふれ出たもので生きること・楽の食物』である。

六　向煩悩滅尽多学男たちよ、そしてまたさらに、聖なる多学の弟子は、物惜しみの垢を消滅した心で家で生活し、放棄して物惜しみをせず、手によって布施し、安楽を楽しみ、施しを求められたら喜んで応じ、布施を分配することを楽しむ。

これが、第四の『功徳の器からあふれ出たもので生きること・正しさの器からあふれ出たもので生きること・楽の食物』である。

七　向煩悩滅尽多学男たちよ、これらが実に、四つの『功徳の器からあふれ出たもので生きること・正しさの器からあふれ出たもので生きること・楽の食物』である」と。

【三三】第三　あふれ出たもの（三）

二「向煩悩滅尽多学男たちよ、四つの『功徳の器からあふれ出たもので生きること・正しさの器からあふれ出たもので生きること・楽の食物』がある。四つとは何であろうか。

三　向煩悩滅尽多学男たちよ、ここに聖なる多学の弟子は、覚者に対して絶対の浄信を具足する。

『このように同様に、かの世尊は、供養値魂・最上正覚者・智徳成就者・最上善逝・世間解・無上士・丈夫調御者・天人師・覚者・世尊である』と。

これが、第一の『功徳の器からあふれ出たもので生きること・正しさの器からあふれ出たもので生きること・楽の食物』である。

四　向煩悩滅尽多学男たちよ、そしてまたさらに、聖なる多学の弟子は、法則に対して絶対の浄信を具足する。

『正しく言明された世尊による法則は、現実に利益をもたらし、直接的であり、

すべての人に理解できるように説かれており、煩悩破壊へ導き、それぞれの識別によって理解できる』と。

これが、第二の『功徳の器からあふれ出たもので生きること・正しさの器からあふれ出たもので生きること・楽の食物』である。

五　向煩悩滅尽多学男たちよ、そしてまたさらに、聖なる多学の弟子は、出家教団に対して絶対の浄信を具足する。

『世尊の多学の弟子出家教団は、善につき従い、世尊の多学の弟子出家教団は、誠実に従い、世尊の多学の弟子出家教団は、正しい体系に従い、世尊の多学の弟子出家教団は、正しい法則にのっとり日々を送るという、すなわち、この世尊の多学の弟子出家教団は、四対の人々-八つの宗教的特性を持つ人々であって、崇拝に値し、厚遇されるに値し、寄贈を受けるに値し、合掌されるに値し、世界の無上の功徳の田畑である』と。

これが、第三の『功徳の器からあふれ出たもので生きること・正しさの器から

あふれ出たもので生きること・楽の食物』である。

六　智慧を有する者は、上向と消失に至る智慧と、完全な苦しみの破壊に至る聖なる貫達（かんたつ）を具足する。

これが、第四の『功徳の器からあふれ出たもので生きること・正しさの器からあふれ出たもので生きること・楽の食物』である。

七　向煩悩滅尽多学男たちよ、これらが実に、四つの『功徳の器からあふれ出たもので生きること・正しさの器からあふれ出たもので生きること・楽の食物』である」と。

【三四】　第四　愛欲神への手段（一）

一　サーヴァッティの地にて。

二　「向煩悩滅尽多学男たちよ、清浄ではない種々の生命体を清浄にさせ、浄化

されていない種々の生命体を浄化させるための、これら四つの愛欲神の愛欲神への手段がある。四つとは何であろうか。

三　向煩悩滅尽多学男たちよ、ここに聖なる多学の弟子は、覚者に対して絶対の浄信を具足する。

『このように同様に、かの世尊は、供養値魂・最上正覚者・智徳成就者・最上善逝・世間解・無上士・丈夫調御者・天人師・覚者・世尊である』と。

これが、清浄ではない種々の生命体を清浄にさせ、浄化されていない種々の生命体を浄化させるための、第一の愛欲神の愛欲神への手段である。

四　向煩悩滅尽多学男たちよ、そしてまたさらに、聖なる多学の弟子は、法則に対して絶対の浄信を具足する。

『正しく言明された世尊による法則は、現実に利益をもたらし、直接的であり、すべての人に理解できるように説かれており、煩悩破壊へ導き、それぞれの識別によって理解できる』と。

これが、清浄ではない種々の生命体を清浄にさせ、浄化されていない種々の生命体を浄化させるための、第二の愛欲神の愛欲神への手段である。

五　向煩悩滅尽多学男たちよ、そしてまたさらに、聖なる多学の弟子は、出家教団に対して絶対の浄信を具足する。

『世尊の多学の弟子出家教団は、善につき従い、世尊の多学の弟子出家教団は、誠実に従い、世尊の多学の弟子出家教団は、正しい体系に従い、世尊の多学の弟子出家教団は、正しい法則にのっとり日々を送るという、すなわち、この世尊の多学の弟子出家教団は、四対の人々-八つの宗教的特性を持つ人々であって、崇拝に値し、厚遇されるに値し、寄贈を受けるに値し、合掌されるに値し、世界の無上の功徳の田畑である』と。

これが、清浄ではない種々の生命体を清浄にさせ、浄化されていない種々の生命体を浄化させるための、第三の愛欲神の愛欲神への手段である。

六　向煩悩滅尽多学男たちよ、そしてまたさらに、聖なる多学の弟子は、聖人が

愛する種々の戒を具足する。

『聖なる戒であり、道徳的に肯定されるべきものであり、悪趣に落ちない戒であり、純粋な戒であり、煩悩から解放する戒であり、識者に称賛され、煩悩に負けないための戒であり、サマディに貢献する』と。

これが、清浄ではない種々の生命体を清浄にさせ、浄化されていない種々の生命体を浄化させるための、第四の愛欲神の愛欲神への手段である。

七　向煩悩滅尽多学男たちよ、これらが実に、清浄ではない種々の生命体を清浄にさせ、浄化されていない種々の生命体を浄化させるための、四つの愛欲神の愛欲神への手段である」と。

【三五】第五　愛欲神への手段（二）

二　「向煩悩滅尽多学男たちよ、清浄ではない種々の生命体を清浄にさせ、浄化

されていない種々の生命体を浄化させるための、これら四つの愛欲神の愛欲神への手段がある。四つとは何であろうか。

三　向煩悩滅尽多学男たちよ、ここに聖なる多学の弟子は、覚者に対して絶対の浄信を具足する。

『このように同様に、かの世尊は、供養値魂・最上正覚者・智徳成就者・最上善逝・世間解・無上士・丈夫調御者・天人師・覚者・世尊である』と。

彼はこのように弁別する。

『愛欲神の愛欲神への手段とは、いったい何であろうか』と。

彼はこのように認識し理解するのである。

『今わたしは、最も優れた愛欲神には害することがないと聞く。またわたしは、おびえているものも固定されているものも何でもかんでも痛めつけることがないと聞く。確実に、わたしは愛欲神への手段の法則を具足してとどまろう』と。

これが、清浄ではない種々の生命体を清浄にさせ、浄化されていない種々の生

命体を浄化させるための、第一の愛欲神の愛欲神への手段である。

四　向煩悩滅尽多学男たちよ、そしてまたさらに、聖なる多学の弟子は、法則に対して絶対の浄信を具足する。

『正しく言明された世尊による法則は、現実に利益をもたらし、直接的であり、すべての人に理解できるように説かれており、煩悩破壊へ導き、それぞれの識別によって理解できる』と。

彼はこのように弁別する。

『愛欲神の愛欲神への手段とは、いったい何であろうか』と。

彼はこのように認識し理解するのである。

『今わたしは、最も優れた愛欲神には害することがないと聞く。またわたしは、おびえているものも固定されているものも何でもかんでも痛めつけることがないと聞く。確実に、わたしは愛欲神への手段の法則を具足してとどまろう』と。

これが、清浄ではない種々の生命体を清浄にさせ、浄化されていない種々の生

命体を浄化させるための、第二の愛欲神の愛欲神への手段である。

五　向煩悩滅尽多学男たちよ、そしてまたさらに、聖なる多学の弟子は、出家教団に対して絶対の浄信を具足する。

『世尊の多学の弟子出家教団は、善につき従い、世尊の多学の弟子出家教団は、誠実に従い、世尊の多学の弟子出家教団は、正しい体系に従い、世尊の多学の弟子出家教団は、正しい法則にのっとり日々を送るという、すなわち、この世尊の多学の弟子出家教団は、四対の人々-八つの宗教的特性を持つ人々であって、崇拝に値し、厚遇されるに値し、寄贈を受けるに値し、合掌されるに値し、世界の無上の功徳の田畑である』と。

　彼はこのように弁別する。

『愛欲神の愛欲神への手段とは、いったい何であろうか』と。

　彼はこのように認識し理解するのである。

『今わたしは、最も優れた愛欲神には害することがないと聞く。またわたしは、

おびえているものも固定されているものも何でもかんでも痛めつけることがないと聞く。確実に、わたしは愛欲神への手段の法則を具足してとどまろう』と。
これが、清浄ではない種々の生命体を清浄にさせ、浄化されていない種々の生命体を浄化させるための、第三の愛欲神の愛欲神への手段である。
六　向煩悩滅尽多学男たちよ、そしてまたさらに、聖なる多学の弟子は、聖人が愛する種々の戒を具足する。
『聖なる戒であり、道徳的に肯定されるべきものであり、悪趣に落ちない戒であり、純粋な戒であり、煩悩から解放する戒であり、識者に称賛され、煩悩に負けないための戒であり、サマディに貢献する』と。
彼はこのように弁別する。
『愛欲神の愛欲神への手段とは、いったい何であろうか』と。
彼はこのように認識し理解するのである。
『現在わたしは、最も優れた愛欲神には害することがないと聞く。またわたしは、

おびえているものも固定されているものも何でもかんでも痛めつけることがないと聞く。確実に、わたしは愛欲神への手段の法則を具足してとどまろう』と。

これが、清浄ではない種々の生命体を清浄にさせ、浄化されていない種々の生命体を浄化させるための、第四の愛欲神の愛欲神への手段である。

七　向煩悩滅尽多学男たちよ、これらが実に、清浄ではない種々の生命体を清浄にさせ、浄化されていない種々の生命体を浄化させるための、四つの愛欲神の愛欲神への手段である」と。

【三六】第六　同胞

二　「向煩悩滅尽多学男たちよ、四つの法則を具足したならば、愛欲神が大喜びして『同胞である』と主張するのである。四つとは何であろうか。

三　向煩悩滅尽多学男たちよ、ここに聖なる多学の弟子は、覚者に対して絶対の

浄信を具足する。

『このように同様に、かの世尊は、供養値魂・最上正覚者・智徳成就者・最上善逝・世間解・無上士・丈夫調御者・天人師・覚者・世尊である』と。

覚者に対して絶対の浄信を具足して、ここから死んでそこで流転したその愛欲神たちには、このようになる。

『わたしたちが覚者に対して絶対の浄信を具足して、そこから死んでここに流転したように、聖なる多学の弟子もまた、そのように覚者に対して絶対の浄信を具足して、愛欲神の面前に来ることであろう』と。

四　向煩悩滅尽多学男たちよ、そしてまたさらに、聖なる多学の弟子は、法則に対して絶対の浄信を具足する。

『正しく言明された世尊による法則は、現実に利益をもたらし、直接的であり、すべての人に理解できるように説かれており、煩悩破壊へ導き、それぞれの識別によって理解できる』と。

法則に対して絶対の浄信を具足して、ここから死んでそこで流転したその愛欲神たちには、このようになる。

『わたしたちが法則に対して絶対の浄信を具足して、そこから死んでここに流転したように、聖なる多学の弟子もまた、そのように法則に対して絶対の浄信を具足して、愛欲神の面前に来ることであろう』と。

五　向煩悩滅尽多学男たちよ、そしてまたさらに、聖なる多学の弟子は、出家教団に対して絶対の浄信を具足する。

『世尊の多学の弟子出家教団は、善につき従い、世尊の多学の弟子出家教団は、誠実に従い、世尊の多学の弟子出家教団は、正しい体系に従い、世尊の多学の弟子出家教団は、正しい法則にのっとり日々を送るという、すなわち、この世尊の多学の弟子出家教団は、四対の人々-八つの宗教的特性を持つ人々であって、崇拝に値し、厚遇されるに値し、寄贈を受けるに値し、合掌されるに値し、世界の無上の功徳の田畑である』と。

出家教団に対して絶対の浄信を具足して、ここから死んでそこで流転したその愛欲神たちには、このようになる。

『わたしたちが出家教団に対して絶対の浄信を具足して、そこから死んでここに流転したように、聖なる多学の弟子もまた、そのように出家教団に対して絶対の浄信を具足して、愛欲神の面前に来ることであろう』と。

六　向煩悩滅尽多学男たちよ、そしてまたさらに、聖なる多学の弟子は、聖人が愛する種々の戒を具足する。

『聖なる戒であり、道徳的に肯定されるべきものであり、悪趣に落ちない戒であり、純粋な戒であり、煩悩から解放する戒であり、識者に称賛され、煩悩に負けないための戒であり、サマディに貢献する』と。

聖人が愛する種々の戒を具足して、ここから死んでそこで流転したその愛欲神たちには、このようになる。

『わたしたちが聖人が愛する種々の戒を具足して、そこから死んでここに流転し

たように、聖なる多学の弟子もまた、そのように聖人が愛する種々の戒を具足して、愛欲神の面前に来ることであろう』」と。

七 向煩悩滅尽多学男たちよ、実にこれら四つの法則を具足したならば、愛欲神が大喜びして『同胞である』と主張するのである」と。

【三七】 第七 マハーナーマ

一 あるとき、世尊はサキャ国のカピラヴァットゥにあるバンヤンジュの大庭園にとどまっておられた。

二 直ちに、サキャ族のマハーナーマは、世尊の所に行った。行くと、世尊に敬礼してそばに座った。そばに座ったサキャ族のマハーナーマは、実に世尊にこう申し上げた。

三 「尊師よ、いったいどのくらいの範囲まで、帰依信男とするのでしょうか」

と。

「マハーナーマよ、実に、覚者を救いとして活用し、法則を救いとして活用し、出家教団を救いとして活用することから、マハーナーマよ、それゆえに実に帰依信男とするのである」と。

四「尊師よ、ところで、どのくらいの範囲まで、『帰依信男が戒を獲得した』とするのでしょうか」と。

「マハーナーマよ、実に、帰依信男が殺生を自制し、与えられないものを強奪することを自制し、愛欲における邪悪な行為を自制し、嘘の言い方を自制し、蒸留酒であるアルコールで酔わせて怠惰にする道理を自制することから、マハーナーマよ、それゆえに実に『帰依信男が戒を獲得した』とするのである」と。

五「尊師よ、ところで、どのくらいの範囲まで、『帰依信男が信を獲得した』とするのでしょうか」と。

「マハーナーマよ、ここに帰依信男は、信があり、真理勝者の覚醒を信じる。

『このように同様に、かの世尊は、供養値魂・最上正覚者・智徳成就者・最上善逝・世間解・無上士・丈夫調御者・天人師・覚者・世尊である』と。

マハーナーマよ、それゆえに実に『帰依信男が信を獲得した』とするのである」と。

六 「尊師よ、ところで、どのくらいの範囲まで、『帰依信男が放棄を獲得した』とするのでしょうか」と。

「マハーナーマよ、ここに帰依信男は、物惜しみの垢を消滅した心で家で生活し、放棄して物惜しみをせず、手によって布施し、安楽を楽しみ、施しを求められたら喜んで応じ、布施を分配することを楽しむ。

マハーナーマよ、それゆえに実に『帰依信男が放棄を獲得した』とするのである」と。

七 「尊師よ、ところで、どのくらいの範囲まで、『帰依信男が智慧を獲得した』とするのでしょうか」と。

「マハーナーマよ、ここに帰依信男は、智慧を有する者であり、上向と消失に至る智慧と、完全な苦しみの破壊に至る聖なる貫達を具足する。
マハーナーマよ、それゆえに実に『帰依信男が智慧を獲得した』とするのである」と。

【三八】第八　雨

二　「向煩悩滅尽多学男たちよ、例として、山の最上部に雨の神の愛欲神が雨を降らせるとき、その水は下りにしたがって前進し、山の谷間や支流の溝をいっぱいにする。山の谷間や支流の溝がいっぱいになると、小さな池をいっぱいにする。小さな池がいっぱいになると、大きな池をいっぱいにする。大きな池がいっぱいになると、小さな河をいっぱいにする。小さな河がいっぱいになると、大きな河をいっぱいにする。大きな河がいっぱいになると、大海と大洋をいっぱいにする。

三　向煩悩滅尽多学男たちよ、全く同様に、聖なる多学の弟子の覚者に対する絶対の浄信と、法則に対する絶対の浄信と、出家教団に対する絶対の浄信と、聖人が愛する種々の戒といった、これらの法則は押し流されて、かの岸に至り、漏の破壊に至らしめるのである」と。

【三九】第九　カーリ

一　あるとき、世尊はサキャ国のカピラヴァットゥにあるバンヤンジュの大庭園にとどまっておられた。

二　直ちに、世尊は早朝、正装して、鉢と上衣を持って、サキャ族の女性カーリゴーダー（黒い大トカゲ）の所においでになった。行くと、用意された座にお座りになった。

三　直ちに、サキャ族の女性カーリゴーダーは、世尊の所に行った。行くと、世

尊に敬礼してそばに座った。そばに座ったサキャ族のカーリゴーダーに、実に世尊はこう演説なさった。

「ゴーダーよ、実に四つの法則を具足した聖なる女の多学の弟子は、聖なる流れに入った人であり、破滅にならない法則そのものであり、素晴らしい未来に対する確定者であり、正覚を最終地点とするのである。四つとは何であろうか。

四　ゴーダーよ、ここに聖なる女の多学の弟子は、覚者に対して絶対の浄信を具足する。

『このように同様に、かの世尊は、供養値魂・最上正覚者・智徳成就者・最上善逝・世間解・無上士・丈夫調御者・天人師・覚者・世尊である』と。

法則に対して絶対の浄信を具足する。

『正しく言明された世尊による法則は、現実に利益をもたらし、直接的であり、すべての人に理解できるように説かれており、煩悩破壊へ導き、それぞれの識別によって理解できる』と。

出家教団に対して絶対の浄信を具足する。

『世尊の多学の弟子出家教団は、善につき従い、世尊の多学の弟子出家教団は、誠実に従い、世尊の多学の弟子出家教団は、正しい体系に従い、世尊の多学の弟子出家教団は、正しい法則にのっとり日々を送るという、すなわち、この世尊の多学の弟子出家教団は、四対の人々・八つの宗教的特性を持つ人々であって、崇拝に値し、厚遇されるに値し、寄贈を受けるに値し、合掌されるに値し、世界の無上の功徳の田畑である』と。

物惜しみの垢を消滅した心で家で生活し、放棄して物惜しみをせず、手によって布施し、安楽を楽しみ、施しを求められたら喜んで応じ、布施を分配することを楽しむ。

ゴーダーよ、実に、これら四つの法則を具足した聖なる女の多学の弟子は、聖なる流れに入った人であり、破滅にならない法則そのものであり、素晴らしい未来に対する確定者であり、正覚を最終地点とするのである」と。

五　「尊師よ、世尊が指し示されたこれら四つの真理の流れに入る段階の法則は、わたしの中に存在し、わたしはその法則に合致して暮らしています。

尊師よ、わたしは覚者に対して絶対の浄信を具足します。

『このように同様に、かの世尊は、供養値魂・最上正覚者・智徳成就者・最上善逝・世間解・無上士・丈夫調御者・天人師・覚者・世尊である』と。

法則に対して絶対の浄信を具足します。

『正しく言明された世尊による法則は、現実に利益をもたらし、直接的であり、すべての人に理解できるように説かれており、煩悩破壊へ導き、それぞれの識別によって理解できる』と。

出家教団に対して絶対の浄信を具足します。

『世尊の多学の弟子出家教団は、善につき従い、世尊の多学の弟子出家教団は、誠実に従い、世尊の多学の弟子出家教団は、正しい体系に従い、世尊の多学の弟子出家教団は、正しい法則にのっとり日々を送るという、すなわち、この世尊の

多学の弟子出家教団は、四対の人々・八つの宗教的特性を持つ人々であって、崇拝に値し、厚遇されるに値し、寄贈を受けるに値し、合掌されるに値し、世界の無上の功徳の田畑である』と。

その場合においては、家で法則によって贈与されたもの何でもかんでもすべては、戒を持す者や素晴らしい法則を持つ者によって自他の区別をしないのです」と。

六 「ゴーダーよ、あなたにとって利得である。ゴーダーよ、あなたにとってこの上ない幸福である。ゴーダーよ、真理の流れに入る果報が、あなたによって明らかにされたのである」と。

【四〇】第十 ナンディヤ

一 あるとき、世尊はサキャ国のカピラヴァットゥにあるバンヤンジュの大庭園にとどまっておられた。

二　直ちに、サキャ族のナンディヤ（喜悦の性質を持つ者）は、世尊の所に行った。行くと、世尊に敬礼してそばに座った。そばに座ったサキャ族のナンディヤは、実に世尊にこう申し上げた。

三「尊師よ、まさにいったい聖なる多学の弟子に、四つの真理の流れに入る段階が、すべて一緒に完全にあることはない、その聖なる多学の弟子は、尊師よ、いったいこのように怠惰にとどまるといわれるのですか。」

「ナンディヤよ、実に四つの真理の流れに入る段階が、すべて一緒に完全にあることはない彼を、わたしは『外部の者であり、普通の人の仲間にとどまる者』と断言するのである。

四　ナンディヤよ、その上、聖なる多学の弟子が怠惰にとどまったり、それのみならずそして怠惰でないことにとどまったりすることについて聞きなさい。完璧に作意しなさい。わたしは説こう。」

「わかりました、尊師よ。」

と、実にサキャ族のナンディヤは世尊に承諾し申し上げた。世尊はこう演説なさった。

五「ナンディヤよ、どのように、聖なる多学の弟子は怠惰にとどまるのであろうか。

ナンディヤよ、ここに聖なる多学の弟子は、覚者に対して絶対の浄信を具足する。

『このように同様に、かの世尊は、供養値魂・最上正覚者・智徳成就者・最上善逝・世間解・無上士・丈夫調御者・天人師・覚者・世尊である』と。

彼はこの覚者に対する絶対の浄信に正しく喜んで、さらに昼間は閑居し、夜は独居しようと奮闘することがない。このように、彼が怠惰にとどまるので歓喜がなく、歓喜がないとき喜はなく、喜がないとき静寂はなく、静寂がないとき苦しみはとどまり、苦しみがあるために心はサマディに入らず、心がサマディに入らないとき種々の法則は生じない。種々の法則が生じないことから、『怠惰にとど

まっている者』と定義されるのである。

ナンディヤよ、そしてまたさらに、法則に対して絶対の浄信を具足する。『正しく言明された世尊による法則は、現実に利益をもたらし、直接的であり、すべての人に理解できるように説かれており、煩悩破壊へ導き、それぞれの識別によって理解できる』と。

彼はこの法則に対する絶対の浄信に正しく喜んで、さらに昼間は閑居し、夜は独居しようと奮闘することがない。このように、彼が怠惰にとどまるので歓喜がなく、歓喜がないとき喜はなく、喜がないとき静寂はなく、静寂がないとき苦しみはとどまり、苦しみがあるために心はサマディに入らず、心がサマディに入らないとき種々の法則は生じない。種々の法則が生じないことから、『怠惰にとどまっている者』と定義されるのである。

ナンディヤよ、そしてまたさらに、出家教団に対して絶対の浄信を具足する。『世尊の多学の弟子出家教団は、善につき従い、世尊の多学の弟子出家教団は、

誠実に従い、世尊の多学の弟子出家教団は、正しい体系に従い、世尊の多学の弟子出家教団は、正しい法則にのっとり日々を送るという、すなわち、この世尊の多学の弟子出家教団は、四対の人々・八つの宗教的特性を持つ人々であって、崇拝に値し、厚遇されるに値し、寄贈を受けるに値し、合掌されるに値し、世界の無上の功徳の田畑である』と。

彼はこの出家教団に対する絶対の浄信に正しく喜んで、さらに昼間は閑居し、夜は独居しようと奮闘することがない。このように、彼が怠惰にとどまるので歓喜がなく、歓喜がないとき喜はなく、喜がないとき静寂はなく、静寂がないとき苦しみはとどまり、苦しみがあるために心はサマディに入らず、心がサマディに入らないとき種々の法則は生じない。種々の法則が生じないことから、『怠惰にとどまっている者』と定義されるのである。

ナンディヤよ、そしてまたさらに、聖人が愛する種々の戒を具足する。『聖なる戒であり、道徳的に肯定されるべきものであり、悪趣に落ちない戒であ

り、純粋な戒であり、煩悩から解放する戒であり、識者に称賛され、煩悩に負けないための戒であり、サマディに貢献する』と。

彼はこの聖人が愛する種々の戒に満足して、さらに昼間は閑居し、夜は独居しようと奮闘することがない。このように、彼が怠惰にとどまるので歓喜がなく、歓喜がないとき喜はなく、喜がないとき静寂はなく、静寂がないとき苦しみはとどまり、苦しみがあるために心はサマディに入らず、心がサマディに入らないとき種々の法則は生じない。種々の法則が生じないことから、『怠惰にとどまっている者』と定義されるのである。

ナンディヤよ、このように実に、聖なる多学の弟子は怠惰にとどまるのである。

六　ナンディヤよ、どのように、聖なる多学の弟子は怠惰でないことにとどまるのであろうか。

ナンディヤよ、ここに聖なる多学の弟子は、覚者に対して絶対の浄信を具足する。

『このように同様に、かの世尊は、供養値魂・最上正覚者・智徳成就者・最上善逝・世間解・無上士・丈夫調御者・天人師・覚者・世尊である』と。

彼はこの世尊に対する絶対の浄信に満足せず、さらに昼間は閑居し、夜は独居しようと奮闘する。このように、彼が怠惰でないことにとどまるので歓喜が生まれ、歓喜があるとき喜が生まれ、意識が喜であることから身が静寂になり、身が静寂であって楽を経験し、楽あることから心はサマディに入り、心がサマディに入るとき種々の法則は生じる。そして、種々の法則が生じることから、『怠惰でないことにとどまっている者』と定義されるのである。

ナンディヤよ、そしてまたさらに、法則に対して絶対の浄信を具足する。『正しく言明された世尊による法則は、現実に利益をもたらし、直接的であり、すべての人に理解できるように説かれており、煩悩破壊へ導き、それぞれの識別によって理解できる』と。

彼はこの法則に対する絶対の浄信に満足せず、さらに昼間は閑居し、夜は独居

しようと奮闘する。このように、彼が怠惰でないことにとどまるので歓喜が生まれ、歓喜があるとき喜が生まれ、意識が喜であることから身が静寂になり、身が静寂であって楽を経験し、楽あることから心はサマディに入り、心がサマディに入るとき種々の法則は生じる。そして、種々の法則が生じることから、『怠惰でないことにとどまっている者』と定義されるのである。

ナンディヤよ、そしてまたさらに、出家教団に対して絶対の浄信を具足する。『世尊の多学の弟子出家教団は、善につき従い、世尊の多学の弟子出家教団は、誠実に従い、世尊の多学の弟子出家教団は、正しい体系に従い、世尊の多学の弟子出家教団は、正しい法則にのっとり日々を送るという、すなわち、この世尊の多学の弟子出家教団は、四対の人々・八つの宗教的特性を持つ人々であって、崇拝に値し、厚遇されるに値し、寄贈を受けるに値し、合掌されるに値し、世界の無上の功徳の田畑である』と。

彼はこの出家教団に対する絶対の浄信に満足せず、さらに昼間は閑居し、夜は

独居しようと奮闘する。このように、彼が怠惰でないことにとどまるので歓喜が生まれ、歓喜があるとき喜が生まれ、意識が喜であることから身が静寂になり、身が静寂であって楽を経験し、楽あることから心はサマディに入り、心がサマディに入るとき種々の法則は生じる。そして、種々の法則が生じることから、『怠惰でないことにとどまっている者』と定義されるのである。

ナンディヤよ、そしてまたさらに、聖人が愛する種々の戒を具足する。『聖なる戒であり、道徳的に肯定されるべきものであり、悪趣に落ちない戒であり、純粋な戒であり、煩悩から解放する戒であり、識者に称賛され、煩悩に負けないための戒であり、サマディに貢献する』と。

彼はこの聖人が愛する種々の戒に満足せず、さらに昼間は閑居し、夜は独居しようと奮闘する。このように、彼が怠惰でないことにとどまるので歓喜が生まれ、歓喜があるとき喜が生まれ、意識が喜であることから身が静寂になり、身が静寂であって楽を経験し、楽あることから心はサマディに入り、心がサマディに入る

とき種々の法則は生じる。種々の法則が生じることから、『怠惰でないことにとどまっている者』と定義されるのである。

ナンディヤよ、このように実に、聖なる多学の弟子は怠惰でないことにとどまるのである」と。

第四　功徳の器からあふれ出たもので生きること品

経群

あふれ出たものが二つ演説され、
そして、二つの愛欲神への手段、
同胞、マハーナーマ、
雨、カーリー、そしてナンディヤと。

第五　詩句を伴う功徳の器からあふれ出たもので生きること品

【四二】第一　あふれ出たもの、あるいは耐えられること（一）

二「向煩悩滅尽多学男たちよ、四つの『功徳の器からあふれ出たもので生きること・正しさの器からあふれ出たもので生きること・楽の食物』がある。四つとは何であろうか。

三　向煩悩滅尽多学男たちよ、ここに聖なる多学の弟子は、覚者に対して絶対の浄信を具足する。

『このように同様に、かの世尊は、供養値魂・最上正覚者・智徳成就者・最上善逝・世間解・無上士・丈夫調御者・天人師・覚者・世尊である』と。

これが、第一の『功徳の器からあふれ出たもので生きること・正しさの器からあふれ出たもので生きること・楽の食物』である。

向煩悩滅尽多学男たちよ、そしてまたさらに、聖なる多学の弟子は、法則に対

して絶対の浄信を具足する。
『正しく言明された世尊による法則は、現実に利益をもたらし、直接的であり、すべての人に理解できるように説かれており、煩悩破壊へ導き、それぞれの識別によって理解できる』と。
これが、第二の『功徳の器からあふれ出たもので生きること・正しさの器からあふれ出たもので生きること・楽の食物』である。
向煩悩滅尽多学男たちよ、そしてまたさらに、聖なる多学の弟子は、出家教団に対して絶対の浄信を具足する。
『世尊の多学の弟子出家教団は、善につき従い、世尊の多学の弟子出家教団は、誠実に従い、世尊の多学の弟子出家教団は、正しい体系に従い、世尊の多学の弟子出家教団は、正しい法則にのっとり日々を送るという、すなわち、この世尊の多学の弟子出家教団は、四対の人々・八つの宗教的特性を持つ人々であって、崇拝に値し、厚遇されるに値し、寄贈を受けるに値し、合掌されるに値し、世界の

無上の功徳の田畑である』と。
これが、第三の『功徳の器からあふれ出たもので生きること・正しさの器からあふれ出たもので生きること・楽の食物』である。
向煩悩滅尽多学男たちよ、そしてまたさらに、聖なる多学の弟子は、聖人が愛する種々の戒を具足する。
『聖なる戒であり、道徳的に肯定されるべきものであり、悪趣に落ちない戒であり、純粋な戒であり、煩悩から解放する戒であり、識者に称賛され、煩悩に負けないための戒であり、サマディに貢献する』と。
これが、第四の『功徳の器からあふれ出たもので生きること・正しさの器からあふれ出たもので生きること・楽の食物』である。
向煩悩滅尽多学男たちよ、これらが実に、四つの『功徳の器からあふれ出たもので生きること・正しさの器からあふれ出たもので生きること・楽の食物』である。
四　向煩悩滅尽多学男たちよ、実に、これら四つの『功徳の器からあふれ出たも

ので生きること・正しさの器からあふれ出たもので生きること』を具足した、聖なる多学の弟子の功徳の大きさを、『こんなにたくさんの功徳の器からあふれ出たもので生きること・正しさの器からあふれ出たもので生きること・楽の食物がある』と量ることはたやすいことではない。

現在では、数えきれず、計り知れない、大いなる功徳の集積が、まさにこれゆえに定義されるのである。

五　向煩悩滅尽多学男たちよ、例として、大海で水の大きさを、あるいは『こんなにたくさんの一アールハカ（容積の単位）の水がある』と、あるいは『こんなにたくさんの百アールハカの水がある』と、あるいは『こんなにたくさんの千アールハカの水がある』と、あるいは『こんなにたくさんの十万アールハカの水がある』と量ることはたやすいことではない。

現在では、数えきれず、計り知れない、大いなる水の集積が、まさにこれゆえに定義されるのである。

向煩悩滅尽多学男たちよ、全く同様に、これら四つの『功徳の器からあふれ出たもので生きること・正しさの器からあふれ出たもので生きること』を具足した、聖なる多学の弟子の功徳の大きさを、『こんなにたくさんの功徳の器からあふれ出たもので生きること・正しさの器からあふれ出たもので生きること・楽の食物がある』と量ることはたやすいことではない。

現在では、『数えきれず、計り知れない、大いなる功徳の集積である』と定義されるのである」と。

六　このように世尊は演説なさった。

一「壮大な海は無限の大きな沼地である。
　宝の塊に欲望を起こすことには多くの忌まわしさがある。
ひとかどの人が多数の人や出家教団に依存するように、
　種々の河は広く流れて大洋に及ぶ。

二　このように、食べ物・飲み物・衣服を施し、
寝具・座具・絨毯（じゅうたん）を寄付する、
賢者であるひとかどの人に、
功徳の種々の絶え間ない流れが及ぶ。
水を運ぶものにしたがって、
あたかも種々の河が大洋に及ぶように」と。

【四二】第二　あふれ出たもの、あるいは耐えられること（二）

二「向煩悩滅尽多学男たちよ、四つの『功徳の器からあふれ出たもので生きること・正しさの器からあふれ出たもので生きること・楽の食物』がある。四つとは何であろうか。

三　向煩悩滅尽多学男たちよ、ここに聖なる多学の弟子は、覚者に対して絶対の

浄信を具足する。

『このように同様に、かの世尊は、供養値魂・最上正覚者・智徳成就者・最上善逝・世間解・無上士・丈夫調御者・天人師・覚者・世尊である』と。

これが、第一の『功徳の器からあふれ出たもので生きること・正しさの器からあふれ出たもので生きること・楽の食物』である。

向煩悩滅尽多学男たちよ、そしてまたさらに、聖なる多学の弟子は、法則に対して絶対の浄信を具足する。

『正しく言明された世尊による法則は、現実に利益をもたらし、直接的であり、すべての人に理解できるように説かれており、煩悩破壊へ導き、それぞれの識別によって理解できる』と。

これが、第二の『功徳の器からあふれ出たもので生きること・正しさの器からあふれ出たもので生きること・楽の食物』である。

向煩悩滅尽多学男たちよ、そしてまたさらに、聖なる多学の弟子は、出家教団

に対して絶対の浄信を具足する。
『世尊の多学の弟子出家教団は、善につき従い、世尊の多学の弟子出家教団は、誠実に従い、世尊の多学の弟子出家教団は、正しい体系に従い、世尊の多学の弟子出家教団は、正しい法則にのっとり日々を送るという、すなわち、この世尊の多学の弟子出家教団は、四対の人々・八つの宗教的特性を持つ人々であって、崇拝に値し、厚遇されるに値し、寄贈を受けるに値し、合掌されるに値し、世界の無上の功徳の田畑である』と。

これが、第三の『功徳の器からあふれ出たもので生きること・正しさの器からあふれ出たもので生きること・楽の食物』である。

物惜しみの垢を消滅した心で家で生活し、放棄して物惜しみをせず、手によって布施し、安楽を楽しみ、施しを求められたら喜んで応じ、布施を分配することを楽しむ。

これが、第四の『功徳の器からあふれ出たもので生きること・楽の食物』であ

る。

向煩悩滅尽多学男たちよ、これらが実に、四つの『功徳の器からあふれ出たもので生きること・正しさの器からあふれ出たもので生きること・楽の食物』である。

四　向煩悩滅尽多学男たちよ、実に、これら四つの『功徳の器からあふれ出たもので生きること』を具足した、聖なる多学の弟子の功徳の大きさを、『こんなにたくさんの功徳の器からあふれ出たもので生きること・正しさの器からあふれ出たもので生きること・楽の食物がある』と量ることはたやすいことではない。

現在では、『数えきれず、計り知れない、大いなる功徳の集積である』と定義されるのである。

五　向煩悩滅尽多学男たちよ、例として、これらの大きな河、つまり、ガンガー（大変速い河）、ヤムナー（双子の河）、アチラヴァティー（すぐ必要とされる河）、

サラブー（沼地の存在）、マヒー（大地の河）は混合して集まるが、そこで『こんなにたくさんの一アールハカの水を、あるいはこんなにたくさんの百アールハカの水を、あるいはこんなにたくさんの千アールハカの水を、あるいはこんなにたくさんの十万アールハカの水を』と量ることはたやすいことではない。

現在では、『数えきれず、計り知れない、大いなる水の集積である』と定義されるのである。

向煩悩滅尽多学男たちよ、全く同様に、これら四つの『功徳の器からあふれ出たもので生きること・正しさの器からあふれ出たもので生きること』を具足した、聖なる多学の弟子の功徳の大きさを、『こんなにたくさんの功徳の器からあふれ出たもので生きること・正しさの器からあふれ出たもので生きること・楽の食物がある』と量ることはたやすいことではない。

現在では、『数えきれず、計り知れない、大いなる功徳の集積である』と定義されるのである」と。

六　このように世尊は演説なさった。これを演説した後、最上善逝である尊師は、こう演説なさった。

一　「壮大な海は無限の大きな沼地である。
宝の塊に欲望を起こすことには多くの忌まわしさがある。
ひとかどの人が多数の人や出家教団に依存するように、
種々の河は広く流れて大洋に及ぶ。

二　このように、食べ物・飲み物・衣服を施し、
寝具・座具・絨毯を寄付する、
賢者であるひとかどの人に、
功徳の種々の絶え間ない流れが及ぶ。
水を運ぶものにしたがって、
あたかも種々の河が大洋に及ぶように」と。

【四三】第三　あふれ出たもの、あるいは耐えられること（三）

二　「向煩悩滅尽多学男たちよ、四つの『功徳の器からあふれ出たもので生きること・楽の食物』がある。四つとは何であろうか。

三　向煩悩滅尽多学男たちよ、ここに聖なる多学の弟子は、覚者に対して絶対の浄信を具足する。

『このように同様に、かの世尊は、供養値魂・最上正覚者・智徳成就者・最上善逝・世間解・無上士・丈夫調御者・天人師・覚者・世尊である』と。

これが、第一の『功徳の器からあふれ出たもので生きること・正しさの器からあふれ出たもので生きること・楽の食物』である。

向煩悩滅尽多学男たちよ、そしてまたさらに、聖なる多学の弟子は、法則に対して絶対の浄信を具足する。

『正しく言明された世尊による法則は、現実に利益をもたらし、直接的であり、

すべての人に理解できるように説かれており、煩悩破壊へ導き、それぞれの識別によって理解できる』と。

これが、第二の『功徳の器からあふれ出たもので生きること・正しさの器からあふれ出たもので生きること・楽の食物』である。

向煩悩滅尽多学男たちよ、そしてまたさらに、聖なる多学の弟子は、出家教団に対して絶対の浄信を具足する。

『世尊の多学の弟子出家教団は、善につき従い、世尊の多学の弟子出家教団は、誠実に従い、世尊の多学の弟子出家教団は、正しい体系に従い、世尊の多学の弟子出家教団は、正しい法則にのっとり日々を送るという、すなわち、この世尊の多学の弟子出家教団は、四対の人々・八つの宗教的特性を持つ人々であって、崇拝に値し、厚遇されるに値し、寄贈を受けるに値し、合掌されるに値し、世界の無上の功徳の田畑である』と。

これが、第三の『功徳の器からあふれ出たもので生きること・正しさの器から

あふれ出たもので生きること・楽の食物』である。
智慧を有する者は、上向と消失に至る智慧と、完全な苦しみの破壊に至る聖なる貫達を具足する。
これが、第四の『功徳の器からあふれ出たもので生きること・正しさの器からあふれ出たもので生きること・楽の食物』である。
向煩悩滅尽多学男たちよ、これらが実に、四つの『功徳の器からあふれ出たもので生きること・正しさの器からあふれ出たもので生きること・楽の食物』である。

四　向煩悩滅尽多学男たちよ、実に、これら四つの『功徳の器からあふれ出たもので生きること・正しさの器からあふれ出たもので生きること』を具足した、聖なる多学の弟子の功徳の大きさを、『こんなにたくさんの功徳の器からあふれ出たもので生きること・正しさの器からあふれ出たもので生きること・楽の食物がある』と量ることはたやすいことではない。
現在では、『数えきれず、計り知れない、大いなる功徳の集積である』と定義

されるのである」と。

五　このように世尊は演説なさった。

「功徳を感覚の喜びの対象として善を確立し、
不死に達しようと道を修習すれば、
彼は法則の実体を習得し、破壊に満足して、
死の神の王が臨んだとしてもぶるぶる震えることはない」と。

【四四】第四　大いなる財産、あるいは豊か（一）

二「向煩悩滅尽多学男たちよ、四つの法則を具足した聖なる多学の弟子は、豊かであり、大いなる財産と大いなる楽しみと大いなる栄光があるといわれる。四つとは何であろうか。

三　向煩悩滅尽多学男たちよ、ここに聖なる多学の弟子は、覚者に対して絶対の浄信を具足する。

『このように同様に、かの世尊は、供養値魂・最上正覚者・智徳成就者・最上善逝・世間解・無上士・丈夫調御者・天人師・覚者・世尊である』と。

法則に対して絶対の浄信を具足する。

『正しく言明された世尊による法則は、現実に利益をもたらし、直接的であり、すべての人に理解できるように説かれており、煩悩破壊へ導き、それぞれの識別によって理解できる』と。

出家教団に対して絶対の浄信を具足する。

『世尊の多学の弟子出家教団は、善につき従い、世尊の多学の弟子出家教団は、誠実に従い、世尊の多学の弟子出家教団は、正しい体系に従い、世尊の多学の弟子出家教団は、正しい法則にのっとり日々を送るという、すなわち、この世尊の多学の弟子出家教団は、四対の人々-八つの宗教的特性を持つ人々であって、崇

拝に値し、厚遇されるに値し、寄贈を受けるに値し、合掌されるに値し、世界の無上の功徳の田畑である』と。

聖人が愛する種々の戒を具足する。

『聖なる戒であり、道徳的に肯定されるべきものであり、悪趣に落ちない戒であり、純粋な戒であり、煩悩から解放する戒であり、識者に称賛され、煩悩に負けないための戒であり、サマディに貢献する』と。

四　向煩悩滅尽多学男たちよ、実に、これら四つの法則を具足した聖なる多学の弟子は、豊かであり、大いなる財産と大いなる楽しみと大いなる栄光があるといわれるのである」と。

【四五】第五　大いなる財産、あるいは豊か（二）

二　「向煩悩滅尽多学男たちよ、四つの法則を具足した聖なる多学の弟子は、豊

かであり、大いなる財産と大いなる楽しみと大いなる栄光があるといわれる。四つとは何であろうか。

三　向煩悩滅尽多学男たちよ、ここに聖なる多学の弟子は、覚者に対して絶対の浄信を具足する。

『このように同様に、かの世尊は、供養値魂・最上正覚者・智徳成就者・最上善逝・世間解・無上士・丈夫調御者・天人師・覚者・世尊である』と。

向煩悩滅尽多学男たちよ、そしてまたさらに、聖なる多学の弟子は、法則に対して絶対の浄信を具足する。

『正しく言明された世尊による法則は、現実に利益をもたらし、直接的であり、すべての人に理解できるように説かれており、煩悩破壊へ導き、それぞれの識別によって理解できる』と。

向煩悩滅尽多学男たちよ、そしてまたさらに、聖なる多学の弟子は、出家教団に対して絶対の浄信を具足する。

『世尊の多学の弟子出家教団は、善につき従い、世尊の多学の弟子出家教団は、誠実に従い、世尊の多学の弟子出家教団は、正しい体系に従い、世尊の多学の弟子出家教団は、正しい法則にのっとり日々を送るという、すなわち、この世尊の多学の弟子出家教団は、四対の人々-八つの宗教的特性を持つ人々であって、崇拝に値し、厚遇されるに値し、寄贈を受けるに値し、合掌されるに値し、世界の無上の功徳の田畑である』と。

聖人が愛する種々の戒を具足する。

『聖なる戒であり、道徳的に肯定されるべきものであり、悪趣に落ちない戒であり、純粋な戒であり、煩悩から解放する戒であり、識者に称賛され、煩悩に負けないための戒であり、サマディに貢献する』と。

四　向煩悩滅尽多学男たちよ、実に、これら四つの法則を具足した聖なる多学の弟子は、豊かであり、大いなる財産と大いなる楽しみと大いなる栄光があるといわれるのである」と。

【四六】第六　向煩悩滅尽多学男たち、あるいは小さな奴隷

二　「向煩悩滅尽多学男たちよ、四つの法則を具足した聖なる多学の弟子は、真理の流れに入った人であり、破滅にならない法則そのものであり、素晴らしい未来に対する確定者であり、正覚を最終地点とするのである。四つとは何であろうか。

三　向煩悩滅尽多学男たちよ、ここに聖なる多学の弟子は、覚者に対して絶対の浄信を具足する。

『このように同様に、かの世尊は、供養値魂・最上正覚者・智徳成就者・最上善逝・世間解・無上士・丈夫調御者・天人師・覚者・世尊である』と。

向煩悩滅尽多学男たちよ、そしてまたさらに、聖なる多学の弟子は、法則に対して絶対の浄信を具足する。

『正しく言明された世尊による法則は、現実に利益をもたらし、直接的であり、すべての人に理解できるように説かれており、煩悩破壊へ導き、それぞれの識別

によって理解できる』と。

向煩悩滅尽多学男たちよ、そしてまたさらに、聖なる多学の弟子は、出家教団に対して絶対の浄信を具足する。

『世尊の多学の弟子出家教団は、善につき従い、世尊の多学の弟子出家教団は、誠実に従い、世尊の多学の弟子出家教団は、正しい体系に従い、世尊の多学の弟子出家教団は、正しい法則にのっとり日々を送るという、すなわち、この世尊の多学の弟子出家教団は、四対の人々・八つの宗教的特性を持つ人々であって、崇拝に値し、厚遇されるに値し、寄贈を受けるに値し、合掌されるに値し、世界の無上の功徳の田畑である』と。

向煩悩滅尽多学男たちよ、そしてまたさらに、聖なる多学の弟子は、聖人が愛する種々の戒を具足する。

『聖なる戒であり、道徳的に肯定されるべきものであり、悪趣に落ちない戒であり、純粋な戒であり、煩悩から解放する戒であり、識者に称賛され、煩悩に負け

ないための戒であり、サマディに貢献する』と。

四　向煩悩滅尽多学男たちよ、これら四つの法則を具足した聖なる多学の弟子は、真理の流れに入った人であり、破滅にならない法則そのものであり、素晴らしい未来に対する確定者であり、正覚を最終地点とするのである」と。

【四七】第七　ナンディヤ

一　カピラヴァットゥの地にて。

二　そばに座ったサキャ族のナンディヤに、実に世尊はこう演説なさった。「ナンディヤよ、四つの法則を具足した聖なる多学の弟子は、真理の流れに入った人であり、破滅にならない法則そのものであり、素晴らしい未来に対する確定者であり、正覚を最終地点とするのである。四つとは何であろうか。

三　ナンディヤよ、ここに聖なる多学の弟子は、覚者に対して絶対の浄信を具足

する。

『このように同様に、かの世尊は、供養値魂・最上正覚者・智徳成就者・最上善逝・世間解・無上士・丈夫調御者・天人師・覚者・世尊である』と。

法則に対して絶対の浄信を具足する。

『正しく言明された世尊による法則は、現実に利益をもたらし、直接的であり、すべての人に理解できるように説かれており、煩悩破壊へ導き、それぞれの識別によって理解できる』と。

出家教団に対して絶対の浄信を具足する。

『世尊の多学の弟子出家教団は、善につき従い、世尊の多学の弟子出家教団は、誠実に従い、世尊の多学の弟子出家教団は、正しい体系に従い、世尊の多学の弟子出家教団は、正しい法則にのっとり日々を送るという、すなわち、この世尊の多学の弟子出家教団は、四対の人々-八つの宗教的特性を持つ人々であって、崇拝に値し、厚遇されるに値し、寄贈を受けるに値し、合掌されるに値し、世界の

無上の功徳の田畑である』と。

　聖人が愛する種々の戒を具足する。

『聖なる戒であり、道徳的に肯定されるべきものであり、悪趣に落ちない戒であり、純粋な戒であり、煩悩から解放する戒であり、識者に称賛され、煩悩に負けないための戒であり、サマディに貢献する』と。

四　ナンディヤよ、実に、これら四つの法則を具足した聖なる多学の弟子は、真理の流れに入った人であり、破滅にならない法則そのものであり、素晴らしい未来に対する確定者であり、正覚を最終地点とするのである」と。

【四八】第八　バッディヤ

一　カピラヴァットゥの地にて。行ってなされなければならない。

二　そばに座ったサキャ族のバッディヤ（高貴な者）に、実に世尊はこう演説な

さった。

「バッディヤよ、四つの法則を具足した聖なる多学の弟子は、真理の流れに入った人であり、破滅にならない法則そのものであり、素晴らしい未来に対する確定者であり、正覚を最終地点とするのである。四つとは何であろうか。

三 バッディヤよ、ここに聖なる多学の弟子は、覚者に対して絶対の浄信を具足する。

『このように同様に、かの世尊は、供養値魂・最上正覚者・智徳成就者・最上善逝・世間解・無上士・丈夫調御者・天人師・覚者・世尊である』と。

法則に対して絶対の浄信を具足する。

『正しく言明された世尊による法則は、現実に利益をもたらし、直接的であり、すべての人に理解できるように説かれており、煩悩破壊へ導き、それぞれの識別によって理解できる』と。

出家教団に対して絶対の浄信を具足する。

『世尊の多学の弟子出家教団は、善につき従い、世尊の多学の弟子出家教団は、誠実に従い、世尊の多学の弟子出家教団は、正しい体系に従い、世尊の多学の弟子出家教団は、正しい法則にのっとり日々を送るという、すなわち、この世尊の多学の弟子出家教団は、四対の人々-八つの宗教的特性を持つ人々であって、崇拝に値し、厚遇されるに値し、寄贈を受けるに値し、合掌されるに値し、世界の無上の功徳の田畑である』と。

聖人が愛する種々の戒を具足する。

『聖なる戒であり、道徳的に肯定されるべきものであり、悪趣に落ちない戒であり、純粋な戒であり、煩悩から解放する戒であり、識者に称賛され、煩悩に負けないための戒であり、サマディに貢献する』と。

四　バッディヤよ、実に、これら四つの法則を具足した聖なる多学の弟子は、真理の流れに入った人であり、破滅にならない法則そのものであり、素晴らしい未来に対する確定者であり、正覚を最終地点とするのである」と。

【四九】第九　マハーナーマ

一　カピラヴァットゥの地にて。行ってなされなければならない。

二　そばに座ったサキャ族のマハーナーマに、実に世尊はこう演説なさった。「マハーナーマよ、四つの法則を具足した聖なる多学の弟子は、真理の流れに入った人であり、破滅にならない法則そのものであり、素晴らしい未来に対する確定者であり、正覚を最終地点とするのである。四つとは何であろうか。

三　マハーナーマよ、ここに聖なる多学の弟子は、覚者に対して絶対の浄信を具足する。

『このように同様に、かの世尊は、供養値魂・最上正覚者・智徳成就者・最上善逝・世間解・無上士・丈夫調御者・天人師・覚者・世尊である』と。

法則に対して絶対の浄信を具足する。

『正しく言明された世尊による法則は、現実に利益をもたらし、直接的であり、すべての人に理解できるように説かれており、煩悩破壊へ導き、それぞれの識別

によって理解できる』と。

出家教団に対して絶対の浄信を具足する。

『世尊の多学の弟子出家教団は、善につき従い、世尊の多学の弟子出家教団は、誠実に従い、世尊の多学の弟子出家教団は、正しい体系に従い、世尊の多学の弟子出家教団は、正しい法則にのっとり日々を送るという、すなわち、この世尊の多学の弟子出家教団は、四対の人々・八つの宗教的特性を持つ人々であって、崇拝に値し、厚遇されるに値し、寄贈を受けるに値し、合掌されるに値し、世界の無上の功徳の田畑である』と。

聖人が愛する種々の戒を具足する。

『聖なる戒であり、道徳的に肯定されるべきものであり、悪趣に落ちない戒であり、純粋な戒であり、煩悩から解放する戒であり、識者に称賛され、煩悩に負けないための戒であり、サマディに貢献する』と。

四　マハーナーマよ、実に、これら四つの法則を具足した聖なる多学の弟子は、

真理の流れに入った人であり、破滅にならない法則そのものであり、素晴らしい未来に対する確定者であり、正覚を最終地点とするのである」と。

【五〇】第十　段階

二　向煩悩滅尽多学男たちよ、四つの真理の流れに入る段階がある。四つとは何であろうか。

三　善と徳のある人の仲間になること・絶対の真理の法則をできるだけたくさん聴くこと・真理にのっとり作意すること・真理の法則にのっとり法則の実践を行なうことである。

四　向煩悩滅尽多学男たちよ、これらが実に、四つの真理の流れに入る段階である。

第五　詩句を伴う功徳の器からあふれ出たもので生きること品

その経群

あふれ出たものによって三つが演説され、
そして、大いなる財産によって二つ、
向煩悩滅尽多学男、ナンディヤ、バッディヤに、
マハーナーマと段階によって、それらは十あると。

第六　智慧所有品

【五二】第一　詩句を伴う

二　「向煩悩滅尽多学男たちよ、四つの法則を具足した聖なる多学の弟子は、真理の流れに入った人であり、破滅にならない法則そのものであり、素晴らしい未来に対する確定者であり、正覚を最終地点とするのである。四つとは何であろうか。

三　向煩悩滅尽多学男たちよ、ここに聖なる多学の弟子は、覚者に対して絶対の浄信を具足する。

『このように同様に、かの世尊は、供養値魂・最上正覚者・智徳成就者・最上善逝・世間解・無上士・丈夫調御者・天人師・覚者・世尊である』と。

法則に対して絶対の浄信を具足する。

『正しく言明された世尊による法則は、現実に利益をもたらし、直接的であり、

すべての人に理解できるように説かれており、煩悩破壊へ導き、それぞれの識別によって理解できる』と。

出家教団に対して絶対の浄信を具足する。

『世尊の多学の弟子出家教団は、善につき従い、世尊の多学の弟子出家教団は、誠実に従い、世尊の多学の弟子出家教団は、正しい体系に従い、世尊の多学の弟子出家教団は、正しい法則にのっとり日々を送るという、すなわち、この世尊の多学の弟子出家教団は、四対の人々・八つの宗教的特性を持つ人々であって、崇拝に値し、厚遇されるに値し、寄贈を受けるに値し、合掌されるに値し、世界の無上の功徳の田畑である』と。

聖人が愛する種々の戒を具足する。

『聖なる戒であり、道徳的に肯定されるべきものであり、悪趣に落ちない戒であり、純粋な戒であり、煩悩から解放する戒であり、識者に称賛され、煩悩に負けないための戒であり、サマディに貢献する』と。

向煩悩滅尽多学男たちよ、実に、これら四つの法則を具足した聖なる多学の弟子は、真理の流れに入った人であり、破滅にならない法則そのものであり、素晴らしい未来に対する確定者であり、正覚を最終地点とするのである」と。

四　このように世尊は演説なさった。

一　「真理勝者に対する信が、
確固として正しく確立しており、
そして聖人が愛し称賛した
素晴らしい戒があり、

二　出家教団に対する浄信があり、
そして誠実な真実の見解がある者には、
生活は空虚ではなく、

彼を『貧しくない』という。

三　この理由ゆえに、頭の良いあなた方は、覚者の救済計画を記憶修習しながら、信と戒と浄信と法則見解を、守り実践するべきだ」と。

【五二】第二　雨季の住居に住む

一　あるとき、世尊はサーヴァッティのジェータ林にあるアナータピンディカの大庭園にとどまっておられた。

二　ところでそのとき、ある向煩悩滅尽多学男は、サーヴァッティの雨季の住居に住んでいたが、カピラヴァットゥに何かの職務で到着した。

三　実にカピラヴァットゥのサキャ族は、ある向煩悩滅尽多学男が、サーヴァッティの雨季の住居に暮らしていたが、カピラヴァットゥに到着したというのを聞いた。

四　直ちに、カピラヴァットゥのサキャ族は、その向煩悩滅尽多学男の所に行った。行くと、その向煩悩滅尽多学男に敬礼してそばに座った。そばに座ったカピラヴァットゥのサキャ族は、実にその向煩悩滅尽多学男にこう言った。

五　「尊者よ、世尊は、病変なく、それのみならずそして丈夫でいらっしゃいますか」と。

「友よ、世尊は、病変なく、そして丈夫でいらっしゃいます」と。

「尊者よ、ところで、サーリプッタとモッガラーナは、病変なく、それのみならずそして丈夫でいらっしゃいますか」と。

「友よ、実に同様に、サーリプッタとモッガラーナは、病変なく、それのみならずそして丈夫でいます」と。

「尊者よ、ところで、向煩悩滅尽多学男出家教団は、病変なく、そして丈夫でいらっしゃいますか」と。

「友よ、実に同様に、向煩悩滅尽多学男出家教団は、病変なく、そして丈夫でいます」と。

六　「尊者よ、ところで、この雨季の住居中、世尊に直面して伺い、直面してお受けしたことが、何かありますか」と。

「友よ、わたしは世尊に直面して伺い、直面してお受けしました。

『向煩悩滅尽多学男たちよ、種々の漏を破壊することによって、無漏の心の離解脱や智慧の離解脱を、見られる法則において、自ら証智し現証し達成してとどまる向煩悩滅尽多学男たちは少ない。なおまた、五つの下位に結びつけるきずなを完全に破壊することによって、随意の再生をする者となり、そこで完全煩悩破壊し、かの世界から（この愛欲界に）還らない法則の人となる、この向煩悩滅尽多学男たちはまさにより多い』と。

七　友よ、引き続いて実に同様に、わたしは世尊に直面して伺い、直面してお受けしました。

『向煩悩滅尽多学男たちよ、五つの下位に結びつけるきずなを完全に破壊することによって、随意の再生をする者となり、そこで完全煩悩破壊し、かの世界から(この愛欲界に)還らない法則の人となる向煩悩滅尽多学男たちは少ない。なおまた、三つのきずなを完全に破壊することによって、愛著・邪悪心・迷妄が削減し、一度だけ再生する人となり、ただ一度だけこの世界に来て、苦しみの終極を行なう、この向煩悩滅尽多学男たちはより多い』と。

八　友よ、引き続いて実に同様に、わたしは世尊に直面して伺い、直面してお受けしました。

『向煩悩滅尽多学男たちよ、三つのきずなを完全に破壊することによって、愛著・邪悪心・迷妄が削減し、一度だけ再生する人となり、ただ一度だけこの世界に来て、苦しみの終極を行なう向煩悩滅尽多学男たちは少ない。なおまた、三つのき

ずなを完全に破壊することによって、真理の流れに入った人であり、破滅にならない法則そのものであり、素晴らしい未来に対する確定者であり、正覚を最終地点とする、この向煩悩滅尽多学男たちはまさにより多い』と。」

【五三】第三　ダンマディンナ

一　あるとき、世尊はバーラーナシー（剣の城壁）のイシパタナ・ミガダーヤ（尊い人が降りた鹿の公園）にとどまっておられた。

二　直ちに、ダンマディンナ（施された法則）帰依信男は、五百人の帰依信男と一緒に、世尊の所に行った。行くと、世尊に敬礼してそばに座った。そばに座ったダンマディンナ帰依信男は、実に世尊にこう申し上げた。

三「尊師よ、世尊はわたしたちに忠告なさってください。世尊はわたしたちに諭されてください。長い間、わたしたちに祝福と楽がありますように。」

「ダンマディンナよ、だから、あなた方はこのように学ぶべきだ。『真理勝者が話された、深く、意義も深く、世界で最高に優れた、空の状態と関連のある、その経の終極を連続して達成してとどまろう』と。

あなた方は全くこのように学ぶべきだ」と。

四「尊師よ、実にわたしたちは、息子という苦難に寄りかかって生活し、カーシ国産のビャクダンを経験し、香りのある花飾りである化粧品を身につけ、金貨・銀貨を自分のために楽しむがゆえに、深く、意義も深く、世界で最高に優れた、空の状態と関連のある、その経の終極を連続して達成してとどまるのは容易ではありません。

尊師よ、世尊は、五つの教えの真相に集中継続するこのわたしたちに、超越した法則を指し示されてください」と。

五「ダンマディンナよ、だから、あなた方はこのように学ぶべきだ。

覚者に対して絶対の浄信を具足しよう。

『このように同様に、かの世尊は、供養値魂・最上正覚者・智徳成就者・最上善逝・世間解・無上士・丈夫調御者・天人師・覚者・世尊である』と。

法則に対して絶対の浄信を具足しよう。

『正しく言明された世尊による法則は、現実に利益をもたらし、直接的であり、すべての人に理解できるように説かれており、煩悩破壊へ導き、それぞれの識別によって理解できる』と。

出家教団に対して絶対の浄信を具足しよう。

『世尊の多学の弟子出家教団は、善につき従い、世尊の多学の弟子出家教団は、誠実に従い、世尊の多学の弟子出家教団は、正しい体系に従い、世尊の多学の弟子出家教団は、正しい法則にのっとり日々を送るという、すなわち、この世尊の多学の弟子出家教団は、四対の人々・八つの宗教的特性を持つ人々であって、崇拝に値し、厚遇されるに値し、寄贈を受けるに値し、合掌されるに値し、世界の無上の功徳の田畑である』と。

聖人が愛する種々の戒を具足しよう。

『聖なる戒であり、道徳的に肯定されるべきものであり、悪趣に落ちない戒であり、純粋な戒であり、煩悩から解放する戒であり、識者に称賛され、煩悩に負けないための戒であり、サマディに貢献する』と。

ダンマディンナよ、あなた方はこのように学ぶべきだ」と。

「尊師よ、世尊が指し示されたこの四つの真理の流れに入る段階の法則は、わたしたちの中に存在し、そしてわたしたちはその法則に合致して暮らしています。

六　尊師よ、わたしたちは、覚者に対して絶対の浄信を具足します。

『このように同様に、かの世尊は、供養値魂・最上正覚者・智徳成就者・最上善逝・世間解・無上士・丈夫調御者・天人師・覚者・世尊である』と。

法則に対して絶対の浄信を具足します。

『正しく言明された世尊による法則は、現実に利益をもたらし、直接的であり、すべての人に理解できるように説かれており、煩悩破壊へ導き、それぞれの識別

によって理解できる』と。

出家教団に対して絶対の浄信を具足します。

『世尊の多学の弟子出家教団は、善につき従い、世尊の多学の弟子出家教団は、誠実に従い、世尊の多学の弟子出家教団は、正しい体系に従い、世尊の多学の弟子出家教団は、正しい法則にのっとり日々を送るという、すなわち、この世尊の多学の弟子出家教団は、四対の人々・八つの宗教的特性を持つ人々であって、崇拝に値し、厚遇されるに値し、寄贈を受けるに値し、合掌されるに値し、世界の無上の功徳の田畑である』と。

聖人が愛する種々の戒を具足します。

『聖なる戒であり、道徳的に肯定されるべきものであり、悪趣に落ちない戒であり、純粋な戒であり、煩悩から解放する戒であり、識者に称賛され、煩悩に負けないための戒であり、サマディに貢献する』と。」

七　「ダンマディンナよ、あなた方にとって利得である。ダンマディンナよ、あ

なた方にとってこの上ない幸福である。ダンマディンナよ、あなた方は真理の流れに入る果報を明らかにしたのである」と。

【五四】第四（疲れ果てて）死の直前

一　あるとき、世尊はサキャ国のカピラヴァットゥにあるバンヤンジュの大庭園にとどまっておられた。

二　ところでそのとき、「三カ月経過してから、上衣の用意ができたら、世尊は旅行に出発なさるだろう」と、多くの向煩悩滅尽多学男たちが世尊の上衣を作っていた。

三　実に、サキャ族のマハーナーマは、「『三カ月経過してから、上衣の用意ができたら、世尊は旅行に出発なさるだろう』と、多くの向煩悩滅尽多学男たちが世尊の衣服を作っている」と聞いた。

直ちに、サキャ族のマハーナーマは、世尊の所に行った。行くと、世尊に敬礼してそばに座った。そばに座ったサキャ族のマハーナーマは、実に世尊にこう申し上げた。

四　「尊師よ、『「三カ月経過してから、上衣の用意ができたら、世尊は旅行に出発なさるだろう」と、多くの向煩悩滅尽多学男たちが世尊の上衣を作っている』と、こう聞きました。

尊師よ、実に、智慧ある帰依信男によって、病気で、苦しみ、重病である智慧ある帰依信男は忠告されなければならないでしょうか。このことを、世尊に直面して伺い、直面してお受けいたします」と。

五　「マハーナーマよ、智慧ある帰依信男によって、病気で、苦しみ、重病である智慧ある帰依信男は、四つの勇気づける法則によって勇気づけられなければならない。

『聖者よ、落ち着きなさい。聖者は、覚者に対する絶対の浄信を必要とします。

「このように同様に、かの世尊は、供養値魂・最上正覚者・智徳成就者・最上善逝・世間解・無上士・丈夫調御者・天人師・覚者・世尊である」と。

聖者よ、落ち着きなさい。聖者は、法則に対する絶対の浄信を必要とします。「正しく言明された世尊による法則は、現実に利益をもたらし、直接的であり、すべての人に理解できるように説かれており、煩悩破壊へ導き、それぞれの識別によって理解できる」と。

聖者よ、落ち着きなさい。聖者は、出家教団に対する絶対の浄信を必要とします。

「世尊の多学の弟子出家教団は、善につき従い、世尊の多学の弟子出家教団は、誠実に従い、世尊の多学の弟子出家教団は、正しい体系に従い、世尊の多学の弟子出家教団は、正しい法則にのっとり日々を送るという、すなわち、この世尊の多学の弟子出家教団は、四対の人々-八つの宗教的特性を持つ人々であって、崇拝に値し、厚遇されるに値し、寄贈を受けるに値し、合掌されるに値し、世界の

無上の功徳の田畑である」と。

聖者よ、落ち着きなさい。聖者は、聖人が愛する種々の戒を必要とします。

「聖なる戒であり、道徳的に肯定されるべきものであり、悪趣に落ちない戒であり、純粋な戒であり、煩悩から解放する戒であり、識者に称賛され、煩悩に負けないための戒であり、サマディに貢献する」と。』

六　マハーナーマよ、智慧ある帰依信男によって、病気で、苦しみ、重病である智慧ある帰依信男が、これら四つの勇気づける法則によって勇気づけられたなら、このように発言できる。

七　『聖者には父母に対する配慮がありますか』と。

彼が『わたしには父母に対する配慮があります』と、このように断言したならば、彼にこのように発言しなさい。

『尊い人よ、実に同様に、聖者は死の法則です。たとえ聖者が父母に配慮しても死ぬでしょうし、たとえ聖者が父母に配慮しなくても死ぬでしょう。聖者よ、ど

うかあなたは、父母に対する配慮を捨断しなさい』と。
八　彼が『わたしは父母に対する配慮が捨断された』と、このように断言したならば、彼にこのように発言しなさい。
『さて、聖者には妻子に対する配慮がありますか』と。
彼が『わたしには妻子に対する配慮があります』と、このように断言したならば、彼にこのように発言しなさい。
『尊い人よ、実に、聖者は死の法則です。たとえ聖者が妻子に配慮しても死ぬでしょうし、たとえ聖者が妻子に配慮しなくても死ぬでしょう。聖者よ、どうかあなたは、妻子に対する配慮を捨断しなさい』と。
九　彼が『わたしは妻子に対する配慮が捨断された』と、このように断言したならば、彼にこのように発言しなさい。
『さて、聖者には人の五つの愛欲の構成部分に対する配慮がありますか』と。
彼が『わたしには人の五つの愛欲の構成部分に対する配慮があります』と、こ

のように断言したならば、彼にこのように発言しなさい。

『友よ、実に、人の愛欲よりも、天の愛欲は、より素晴らしく、より極妙です。聖者よ、どうか人の愛欲から心を修正して、四大王（しだいおう）愛欲神天に心を没頭させなさい』と。

一〇　彼が『人の愛欲から心を修正し、四大王愛欲神天に心を没頭させた』と、このように断言したならば、彼にこのように発言しなさい。

『友よ、実に、四大王愛欲神天よりも、三十三愛欲神天は、より素晴らしく、より極妙です。聖者よ、どうかまさにその四大王天・四大王愛欲神天から心を修正して、三十三愛欲神天に心を没頭させなさい』と。

一一　彼が『わたしは四大王愛欲神天から心を修正し、三十三愛欲神天に心を没頭させた』と、このように断言したならば、彼にこのように発言しなさい。

『友よ、実に、三十三愛欲神天よりも、支配流転双生児（しはいるてんそうせいじ）愛欲神天は、より素晴らしく、より極妙です。聖者よ、どうかまさにその三十三愛欲神天から心を修正し

て、支配流転双生児愛欲神天に心を没頭させなさい』と。

一二　彼が『わたしは三十三愛欲神天から心を修正し、支配流転双生児愛欲神天に心を没頭させた』と、このように断言したならば、彼にこのように発言しなさい。

『友よ、実に、支配流転双生児愛欲神天よりも、除冷淡（じょれいたん）愛欲神天は、より素晴らしく、より極妙です。聖者よ、どうかまさにその支配流転双生児愛欲神天から心を修正して、除冷淡愛欲神天に心を没頭させなさい』と。

一三　彼が『支配流転双生児愛欲神天から心を修正し、除冷淡愛欲神天に心を没頭させた』と、このように断言したならば、彼にこのように発言しなさい。

『友よ、実に、除冷淡愛欲神天よりも、創造満足愛欲神天は、より素晴らしく、より極妙です。聖者よ、どうかまさにその除冷淡愛欲神天から心を修正して、創造満足愛欲神天に心を没頭させなさい』と。

一四　彼が『除冷淡愛欲神天から心を修正し、創造満足愛欲神天に心を没頭させ

た』と、このように断言したならば、彼にこのように発言しなさい。

『友よ、実に、創造満足愛欲神天よりも、為他神以神通創造欲望満足従事愛欲神天は、より素晴らしく、より極妙です。聖者よ、どうかまさにその創造満足愛欲神天から心を修正して、為他神以神通創造欲望満足従事愛欲神天に心を没頭させなさい』と。

一五　彼が『創造満足愛欲神天から心を修正し、為他神以神通創造欲望満足従事愛欲神天に心を没頭させた』と、このように断言したならば、彼にこのように発言しなさい。

『友よ、実に、為他神以神通創造欲望満足従事愛欲神天よりも、神聖天の世界は、より素晴らしく、より極妙です。聖者よ、どうか為他神以神通創造欲望満足従事愛欲神天から心を修正して、神聖天の世界に心を没頭させなさい』と。

一六　彼が『わたしは為他神以神通創造欲望満足従事愛欲神天から心を修正し、神聖天の世界に心を没頭させた』と、このように断言したならば、彼にこのよう

に発言しなさい。
『友よ、実に、神聖天の世界も無常で、非永続し、身体を有していることに属しています。聖者よ、どうか神聖天の世界から心を修正して、身体を有していることの滅尽に心を整えなさい。』

一七　彼が『わたしは神聖天の世界から心を修正し、身体を有していることの滅尽に心を整えます』と、このように断言したならば、――マハーナーマよ、実にこう言われた帰依信男は、漏から離解脱した心がある向煩悩滅尽多学男と何でもかんでも違いがないと、わたしは断言する。すなわち、離解脱における離解脱である」と。

【五五】第五　四つの果報（一）

二　「向煩悩滅尽多学男たちよ、修習され、真面目に行なわれたこれら四つの法

則は、真理の流れに入る果報の現証に至らしめるのである。四つとは何であろうか。

三　善と徳のある人の仲間になること・絶対の真理の法則をできるだけたくさん聴くこと・真理にのっとり作意すること・真理の法則にのっとり法則の実践を行なうことである。

四　向煩悩滅尽多学男たちよ、実に、修習され、真面目に行なわれたこれら四つの法則は、真理の流れに入る果報の現証に至らしめるのである」と。

【五六】第六　四つの果報（二）

二「向煩悩滅尽多学男たちよ、修習され、真面目に行なわれたこれら四つの法則は、（愛欲界に）一度だけ再生する果報の現証に至らしめるのである。四つとは何であろうか。

三　善と徳のある人の仲間になること・絶対の真理の法則をできるだけたくさん聴くこと・真理にのっとり作意すること・真理の法則にのっとり法則の実践を行なうことである。

四　向煩悩滅尽多学男たちよ、実に、修習され、真面目に行なわれたこれら四つの法則は、（愛欲界に）一度だけ再生する果報の現証に至らしめるのである」と。

【五七】第七　四つの果報（三）

二「向煩悩滅尽多学男たちよ、修習され、真面目に行なわれたこれら四つの法則は、不還（ふげん）の果報の現証に至らしめるのである。四つとは何であろうか。

三　善と徳のある人の仲間になること・絶対の真理の法則をできるだけたくさん聴くこと・真理にのっとり作意すること・真理の法則にのっとり法則の実践を行なうことである。

四　向煩悩滅尽多学男たちよ、実に、修習され、真面目に行なわれたこれら四つの法則は、不還の果報の現証に至らしめるのである」と。

【五八】第八　四つの果報（四）

二「向煩悩滅尽多学男たちよ、修習され、真面目に行なわれたこれら四つの法則は、供養値魂の果報の現証に至らしめるのである。四つとは何であろうか。

三　善と徳のある人の仲間になること・絶対の真理の法則をできるだけたくさん聴くこと・真理にのっとり作意すること・真理の法則にのっとり法則の実践を行なうことである。

四　向煩悩滅尽多学男たちよ、実に、修習され、真面目に行なわれたこれら四つの法則は、供養値魂の果報の現証に至らしめるのである」と。

【五九】第九　到達

二「向煩悩滅尽多学男たちよ、修習され、真面目に行なわれたこれら四つの法則は、智慧の到達に至らしめるのである。四つとは何であろうか。

三　善と徳のある人の仲間になること・絶対の真理の法則をできるだけたくさん聴くこと・真理にのっとり作意すること・真理の法則にのっとり法則の実践を行なうことである。

四　向煩悩滅尽多学男たちよ、実に、修習され、真面目に行なわれたこれら四つの法則は、智慧の到達に至らしめるのである」と。

【六〇】第十　発達

二「向煩悩滅尽多学男たちよ、修習され、真面目に行なわれたこれら四つの法則は、智慧の発達に至らしめるのである。四つとは何であろうか。

三　善と徳のある人の仲間になること・絶対の真理の法則をできるだけたくさん聴くこと・真理にのっとり作意すること・真理の法則にのっとり法則の実践を行なうことである。

四　向煩悩滅尽多学男たちよ、実に、修習され、真面目に行なわれたこれら四つの法則は、智慧の発達に至らしめるのである」と。

【六二】第十一　充実

二「向煩悩滅尽多学男たちよ、修習され、真面目に行なわれたこれら四つの法則は、智慧の充実に至らしめるのである。四つとは何であろうか。

三　善と徳のある人の仲間になること・絶対の真理の法則をできるだけたくさん聴くこと・真理にのっとり作意すること・真理の法則にのっとり法則の実践を行なうことである。

四　向煩悩滅尽多学男たちよ、実に、修習され、真面目に行なわれたこれら四つの法則は、智慧の充実に至らしめるのである」と。

第六　智慧所有品

詩句を伴う、雨季の住居に住む、
ダンマニンナと、(疲れ果てて) 死の直前、
四つの果報、到達、発達、そして充実によってと。

第七　偉大な智慧品

【六二】第一　偉大な

二 「向煩悩滅尽多学男たちよ、修習され、真面目に行なわれたこれら四つの法則は、偉大な悟りに至らしめるのである。四つとは何であろうか。

三 善と徳のある人の仲間になること・絶対の真理の法則をできるだけたくさん聴くこと・真理にのっとり作意すること・真理の法則にのっとり法則の実践を行なうことである。

四 向煩悩滅尽多学男たちよ、実に、修習され、真面目に行なわれたこれら四つの法則は、偉大な悟りに至らしめるのである」と。

【六三】第二　広い

二　「向煩悩滅尽多学男たちよ、修習され、真面目に行なわれたこれら四つの法則は、広い悟りに至らしめるのである。四つとは何であろうか。

三　善と徳のある人の仲間になること・絶対の真理の法則をできるだけたくさん聴くこと・真理にのっとり作意すること・真理の法則にのっとり法則の実践を行なうことである。

四　向煩悩滅尽多学男たちよ、実に、修習され、真面目に行なわれたこれら四つの法則は、広い悟りに至らしめるのである」と。

【六四】第三　増大する

二　「向煩悩滅尽多学男たちよ、修習され、真面目に行なわれたこれら四つの法則は、増大した悟りに至らしめるのである。四つとは何であろうか。

三　善と徳のある人の仲間になること・絶対の真理の法則をできるだけたくさん聴くこと・真理にのっとり作意すること・真理の法則にのっとり法則の実践を行なうことである。
四　向煩悩滅尽多学男たちよ、実に、修習され、真面目に行なわれたこれら四つの法則は、増大した悟りに至らしめるのである」と。

【六五】第四　深い

二「向煩悩滅尽多学男たちよ、修習され、真面目に行なわれたこれら四つの法則は、深い悟りに至らしめるのである。四つとは何であろうか。
三　善と徳のある人の仲間になること・絶対の真理の法則をできるだけたくさん聴くこと・真理にのっとり作意すること・真理の法則にのっとり法則の実践を行なうことである。

四　向煩悩滅尽多学男たちよ、実に、修習され、真面目に行なわれたこれら四つの法則は、深い悟りに至らしめるのである」と。

【六六】第五　匹敵するもののないこと、あるいは怠りないこと

二「向煩悩滅尽多学男たちよ、修習され、真面目に行なわれたこれら四つの法則は、怠りない悟りに至らしめるのである。四つとは何であろうか。

三　善と徳のある人の仲間になること・絶対の真理の法則をできるだけたくさん聴くこと・真理にのっとり作意すること・真理の法則にのっとり法則の実践を行なうことである。

四　向煩悩滅尽多学男たちよ、実に、修習され、真面目に行なわれたこれら四つの法則は、怠りない悟りに至らしめるのである」と。

【六七】第六　広大な

二「向煩悩滅尽多学男たちよ、修習され、真面目に行なわれたこれら四つの法則は、広大な悟りに至らしめるのである。四つとは何であろうか。

三　善と徳のある人の仲間になること・絶対の真理の法則をできるだけたくさん聴くこと・真理にのっとり作意すること・真理の法則にのっとり法則の実践を行なうことである。

四　向煩悩滅尽多学男たちよ、実に、修習され、真面目に行なわれたこれら四つの法則は、広大な悟りに至らしめるのである」と。

【六八】第七　充満

二「向煩悩滅尽多学男たちよ、修習され、真面目に行なわれたこれら四つの法則は、智慧の充満に至らしめるのである。四つとは何であろうか。

三　善と徳のある人の仲間になること・絶対の真理の法則をできるだけたくさん聴くこと・真理にのっとり作意すること・真理の法則にのっとり法則の実践を行なうことである。

四　向煩悩滅尽多学男たちよ、実に、修習され、真面目に行なわれたこれら四つの法則は、智慧の充満に至らしめるのである」と。

【六九】第八　急速な

二「向煩悩滅尽多学男たちよ、修習され、真面目に行なわれたこれら四つの法則は、急速な悟りに至らしめるのである。四つとは何であろうか。

三　善と徳のある人の仲間になること・絶対の真理の法則をできるだけたくさん聴くこと・真理にのっとり作意すること・真理の法則にのっとり法則の実践を行なうことである。

四　向煩悩滅尽多学男たちよ、実に、修習され、真面目に行なわれたこれら四つの法則は、急速な悟りに至らしめるのである」と。

【七〇】第九　軽い

二「向煩悩滅尽多学男たちよ、修習され、真面目に行なわれたこれら四つの法則は、軽い悟りに至らしめるのである。四つとは何であろうか。

三　善と徳のある人の仲間になること・絶対の真理の法則をできるだけたくさん聴くこと・真理にのっとり作意すること・真理の法則にのっとり法則の実践を行なうことである。

四　向煩悩滅尽多学男たちよ、実に、修習され、真面目に行なわれたこれら四つの法則は、軽い悟りに至らしめるのである」と。

【七二】第十　賢い

二「向煩悩滅尽多学男たちよ、修習され、真面目に行なわれたこれら四つの法則は、賢い悟りに至らしめるのである。四つとは何であろうか。

三　善と徳のある人の仲間になること・絶対の真理の法則をできるだけたくさん聴くこと・真理にのっとり作意すること・真理の法則にのっとり法則の実践を行なうことである。

四　向煩悩滅尽多学男たちよ、実に、修習され、真面目に行なわれたこれら四つの法則は、賢い悟りに至らしめるのである」と。

【七三】第十一　機敏な

二「向煩悩滅尽多学男たちよ、修習され、真面目に行なわれたこれら四つの法則は、機敏な悟りに至らしめるのである。四つとは何であろうか。

三　善と徳のある人の仲間になること・絶対の真理の法則をできるだけたくさん聴くこと・真理にのっとり作意すること・真理の法則にのっとり法則の実践を行なうことである。

四　向煩悩滅尽多学男たちよ、実に、修習され、真面目に行なわれたこれら四つの法則は、機敏な悟りに至らしめるのである」と。

【七三】第十二　鋭利な

二「向煩悩滅尽多学男たちよ、修習され、真面目に行なわれたこれら四つの法則は、鋭利な悟りに至らしめるのである。四つとは何であろうか。

三　善と徳のある人の仲間になること・絶対の真理の法則をできるだけたくさん聴くこと・真理にのっとり作意すること・真理の法則にのっとり法則の実践を行なうことである。

四　向煩悩滅尽多学男たちよ、実に、修習され、真面目に行なわれたこれら四つの法則は、鋭利な悟りに至らしめるのである」と。

【七四】第十三　貫達

二「向煩悩滅尽多学男たちよ、修習され、真面目に行なわれたこれら四つの法則は、貫達に至らしめるのである。四つとは何であろうか。

三　善と徳のある人の仲間になること・絶対の真理の法則をできるだけたくさん聴くこと・真理にのっとり作意すること・真理の法則にのっとり法則の実践を行なうことである。

四　向煩悩滅尽多学男たちよ、実に、修習され、真面目に行なわれたこれら四つの法則は、貫達した悟りに至らしめるのである」と。

偉大な、広い、増大する、深い、
匹敵するもののないこと、
広大な、充満、急速な、軽い、
賢い、機敏な、鋭利な、そして貫達によってと。

真理の流れに入ることに関係づけられた経典の
第七　偉大な智慧品
第十一　真理の流れに入ることに関係づけられた経典

※オウム真理教では、本来の意味を正確に表わしていない既製の仏教用語は用いず、パーリ語原典を忠実に翻訳し、吟味した結果、決定した訳語を使っています。以下に、代表的な言葉の対比表を掲げますので参照してください。また、仏教・ヨーガの言語対比表も参考までに掲載しました。

◆言語対比表

欲界→愛欲界
無間地獄→超期間激苦地獄
叫喚地獄→号叫激苦地獄
鉢特摩地獄→紅蓮華のような状態になる激苦地獄
餓鬼→低級霊
阿修羅→不飲酒天
憤怒天→意識堕落天
戯忘天→戯れ堕落天
地居天→地上愛欲神天
四天王衆天→四大王天
持国天→堅固王国天
増長天→成長天
広目天→統治変化自在天空天
毘沙門天、多聞天→守庶民外傷天
夜叉→人食い鬼神
忉利天→三十三天
帝釈天→有能神
夜摩天→支配流転双生児天
閻魔王→支配流転双生児王
兜率天→除冷淡天

楽変化天（らくへんげてん）、化楽天（けらくてん）→創造満足天（そうぞうまんぞくてん）

他化自在天（たけじざいてん）→為他神以神通創造欲望満足（いたしんいじんつうそうぞうよくぼうまんぞく）従事天（じゅうじてん）

悪魔（あくま）→破滅天（はめつてん）

色界（しきかい）→形状界（けいじょうかい）

梵天（ぼんてん）→神聖天（しんせいてん）

梵衆天（ぼんしゅうてん）→神聖衆愛欲神天（しんせいしゅうあいよくしんてん）

梵輔天（ぼんぽてん）→神聖臣天（しんせいしんてん）

大梵天（だいぼんてん）→大神聖天（だいしんせいてん）

浄天（じょうてん）→美天（びてん）

遍浄天（へんじょうてん）→総美愛欲本質神天（そうびあいよくほんしつしんてん）

広果天（こうかてん）→偉大果報愛欲本質神天（いだいかほうあいよくほんしつしんてん）

浄居天（じょうごてん）→清潔居住天（せいけつきょじゅうてん）

無煩天（むぼんてん）→超空間愛欲神天（ちょうくうかんあいよくしんてん）

無熱天（むねつてん）→超燃焼愛欲神天（ちょうねんしょうあいよくしんてん）

善現天（ぜんげんてん）→善安楽愛欲神天（ぜんあんらくあいよくしんてん）

善見天（ぜんけんてん）→善現象愛欲神天（ぜんげんしょうあいよくしんてん）

色究竟天（しきくぎょうてん）→超越童子愛欲本質神天（ちょうえつどうじあいよくほんしつしんてん）

無色界（むしきかい）→非形状界（ひけいじょうかい）

空無辺処（くうむへんしょ）→空間無辺境（くうかんむへんきょう）

識無辺処（しきむへんしょ）→識別無辺境（しきべつむへんきょう）

無所有処（むしょうしょ）→無所有境（むしょゆうきょう）

非想非非想処（ひそうひひそうしょ）→非認知非非認知境（ひにんちひひにんちきょう）

想受滅（そうじゅめつ）→認知経験滅尽（にんちけいけんめつじん）

須弥山→完全無欠山
東勝身洲→東の高貴なる身体を得る大陸
南瞻部洲、閻浮提→南のバラリンゴの大陸
西牛貨洲→西の願いがかなう牛の大陸
北倶盧洲→北の悪しき音の大陸

成劫→再生期
住劫→継続期
壊劫→還元期

釈迦牟尼→サキャ神賢
如来→真理勝者
応供→供養値魂
正等覚→最上正覚者
明行足→智徳成就者

善逝→最上善逝
世間解→世間解（変更なし）
無上士→無上士（変更なし）
調御丈夫→丈夫調御者
天人師→天人師（変更なし）
仏陀→覚者
世尊→世尊（変更なし）

菩薩→到達真智運命魂
比丘→向煩悩滅尽多学男
比丘尼→向煩悩滅尽多学女
優婆塞→帰依信男
優婆夷→帰依信女
僧伽→出家教団
長老→高弟

声聞→多学の弟子
沙門→出家修行者
沙弥→少年出家者
遊行者→托鉢修行者

バラモン→祭司
クシャトリヤ→武人
ヴァイシャ→庶民
シュードラ→奴隷

四双八輩→四対の人々・八つの宗教的特性を持つ人々
預流→真理の流れに入ること
一来→（愛欲界に）一度だけ再生すること
不還→不還（変更なし）

阿羅漢→供養値魂
四預流支→四つの真理の流れに入る段階
四聖諦→四つの聖なる絶対の真理
苦聖諦→苦しみの聖なる絶対の真理
集聖諦→苦しみの生起の聖なる絶対の真理
滅聖諦→苦しみの滅尽の聖なる絶対の真理
道聖諦→苦しみの滅尽に至る方法の聖なる絶対の真理
四念処→四つの記憶修習の現象化

四正断、四正勤→四つの正しい努力

四如意足、四神足→四つの如意の基礎
欲如意足→決意如意の基礎
精進如意足→精進如意の基礎
心如意足→思念如意の基礎
観如意足→観慧如意の基礎

五根→五つの潜在性
信根→信の潜在性
精進根→精進の潜在性
念根→記憶修習の潜在性
定根→サマディの潜在性
慧根→智慧の潜在性

五力→五つの能力
信力→信の能力
精進力→精進の能力
念力→記憶修習の能力
定力→サマディの能力
慧力→智慧の能力

七覚支→七つの覚醒段階
念覚支→記憶修習正覚段階
択法覚支→法則の検討正覚段階
精進覚支→精進正覚段階
喜覚支→喜正覚段階
軽安覚支→静寂正覚段階
定覚支→サマディ正覚段階
捨覚支→無頓着正覚段階

八正道→聖なる八段階の道
正見→正見解
正思惟→正思惟（変更なし）
正語→正語（変更なし）
正業→正行為
正命→正生活
正精進→正奮闘
正念→正記憶修習
正定→正サマディ

三苦→三つの苦しみの本質
苦苦→苦しみの苦しみの本質
行苦→悪い経験の構成の苦しみの本質
壊苦→悪化の苦しみの本質

三受→三つの感覚
楽受→楽の感覚
苦受→苦しみの感覚
不苦不楽受→不苦不楽の感覚

四無量心
慈→聖慈愛
悲→聖哀れみ
喜→聖称賛
捨→聖無頓着

五取蘊→五つのとらわれの集積
色取蘊→形状-容姿のとらわれの集積
受取蘊→感覚のとらわれの集積
想取蘊→表象のとらわれの集積

行取蘊↓経験の構成のとらわれの集積
識取蘊↓識別のとらわれの集積

五蓋↓五つの障害
貪欲蓋↓愛欲の衝動による障害
瞋恚蓋↓害心による障害
惛眠蓋↓頑固と愚鈍による障害
掉悔蓋↓興奮と後悔による障害
疑蓋↓疑念による障害

五妙欲↓五つの愛欲の構成部分
色↓形状・容姿
声↓声
香↓香り
味↓味
触↓接触

五下分結↓五つの下位に結びつけるきずな
有身見↓有身謬見
疑↓疑念
戒禁取↓戒誓のとらわれ
貪欲↓愛欲の衝動
瞋恚↓害心

五上分結↓五つの上位に結びつけるきずな
色貪↓形状愛著
無色貪↓非形状愛著
慢↓慢（変更なし）
掉挙↓興奮
無明↓非神秘力

八解脱→八つの離解脱
八勝処→八つの克服境
十遍処→十全境
十波羅蜜→十の徹底
十二縁起の法→十二の条件生起の段階
無明→非神秘力
行→経験の構成
識→識別
名色→心の要素-形状-容姿
六処→六つの感覚要素と対象
触→接触
受→感覚
愛→渇愛
取→とらわれ

有→生存
生→出生
苦→苦しみ
信→信（変更なし）
悦→歓喜
喜→喜（変更なし）
軽安→静寂
楽→楽（変更なし）
三昧→サマディ
如実知見→如実精通見解
遠離→現世否定
離貪→離愛著
解脱→離解脱

涅槃→煩悩破壊
般涅槃→完全煩悩破壊
中般涅槃→中完全煩悩破壊
生般涅槃→減少完全煩悩破壊
無行般涅槃→形状界にて経験の構成がなく功徳の果報を受けつつある完全煩悩破壊
有行般涅槃→形状界にて経験の構成があり真理の実践による完全煩悩破壊
一種者→一つの種子を持つ者
家家者→徳の高い家から家へと転生する者
極七返→最高七回流転者

正智→正精通
正解脱→正離解脱
心解脱→心の離解脱
慧解脱→智慧の離解脱
殺生→殺生（変更なし）
偸盗→与えられないものを強奪すること
邪淫→愛欲における邪悪な行為
妄語→嘘の言い方
綺語→軽薄語
悪口→乱暴な言葉
両舌→中傷の言葉
貪→愛著
瞋→邪悪心
癡→迷妄

愁(しゅう)→不運(ふうん)な出来事(できごと)
悲(ひ)→悲嘆(ひたん)
苦(く)→苦(くる)しみ
憂(ゆう)→激痛(げきつう)
悩(のう)→悩(なや)み

五趣(ごしゅ)→五(いつ)つの方向(ほうこう)
善趣(ぜんしゅ)→幸福(こうふく)に向(む)かうこと
悪趣(あくしゅ)→悲痛(ひつう)に向(む)かうこと

カルマ→要素(ようそ)の蓄積(ちくせき)
法(ほう)→法則(ほうそく)
梵行(ぼんぎょう)→神聖行(しんせいぎょう)
布薩(ふさつ)→戒誓行(かいせいぎょう)
波羅提木叉(はらだいもくしゃ)→約束維持解放(やくそくいじかいほう)

頭陀(ずだ)→断修行障礙(だんしゅぎょうしょうげ)
袈裟衣(けさい)→赤(あか)っぽい黄色(きいろ)の衣(ころも)
衆生(しゅじょう)→生命体(せいめいたい)
四大種(しだいしゅ)→四大元素(しだいげんそ)
本生経(ほんじょうきょう)→輪廻転生談(りんねてんしょうだん)

◆仏教・ヨーガ　言語対比表

愛欲界(あいよくかい)―現象界(げんしょうかい)
形状界(けいじょうかい)―アストラル世界(せかい)
非形状界(ひけいじょうかい)―コーザル世界(せかい)
愛著(あいじゃく)―サットヴァ
邪悪心(じゃあくしん)―ラジャス
迷妄(めいもう)―タマス



あなたに絶対の幸福を約束する

――オウム真理教

心身の悩みを解決したい
超健康体を得たい
豊かな生活を送りたい
素晴らしい人間関係を築きたい
スーパー・パワーを身につけたい
来世も幸福に生きたい
解脱し、永遠の至福を得たい

最高の教義、最高の奥儀、そして麻原尊師のもと、すべては確実に実現します。

●オウム真理教が誇る三つの基本的修行体系

1、マハーヤーナ修行体系

現実生活をより豊かにし、幸福な人生をお約束します。ご年輩の方、仕事が忙しく時間のあまり取れない方にお勧めです。

2、タントラ・ヴァジラヤーナ修行体系

行法、イニシエーションを中心として進め、霊性を向上させて、神秘世界を実体験することができます。この修行体系を選択すれば今生で解脱し、悟ることも夢ではありません。

3、テーラヴァーダ修行体系

原始仏教の上座部仏教を再現しました。真理にのっとって清浄な日常生活を送ることによって、幸せな来世が約束されます。また、経典の記憶修習によって心の成熟が促され、悟りを得ることが可能です。オウム真理教の深遠な教義を徹底的に学びたい方に最適です。

※資料請求券を貼付けしたハガキ、または電話にて最寄りの本・支部までご連絡ください。入信案内等、詳しい資料をお送りします。

キリトリ線

根源仏典11
資料請求券

正統派上座部仏教の再現

テーラヴァーダ修行体系

『サキャ神賢直説根源仏典』翻訳の成果がここに！

わかりやすい法則と経典があるからこそ、実践可能な在家での正しい修行。正確な法則と経典があるからこそ、実現する在家での解脱と悟り。 テーラヴァーダ修行体系は麻原尊師の説かれる深遠な法則と完璧に翻訳された『サキャ神賢直説根源仏典』を学び、心の成熟・智慧の向上を目指す方に最適の修行体系です。



テーラヴァーダの智慧の真髄

『仏典研究』

麻原彰晃尊師説法、『サキャ神賢直説根源仏典』、高弟の成就体験談と盛りだくさんで、オウム真理教の教義が満載。仏典ファン、真理の探究者には見逃せない中味の濃い月刊誌です。

テーラヴァーダ修行体系を選択された方に、毎月お届けいたします。



好評！　あなたとオウムをつなぐ

パソコン通信、〃オウム真理教ネット〃

オウムについてもっと詳しく知りたい……
教義その他について、
いろいろと聞きたいことがある……
オウムの人たちの生の声を聞いてみたい……
そんなあなたに最適な情報ネットワーク

オウム真理教ネット

電子掲示板

- ○最新情報！ オウム真理教
- ○尊師説法
- ○ジャータカ仏典
- ○なんでも人生相談
- ○予言・占いコーナー
- ○フリートーク

電子会議室

- ○オウム真理教ってどんなとこ？
- ○わたしの神秘体験
- ○オウム真理教のラジオ放送について
- ○ザンゲの部屋

電子メール

- ○あなたの気にいった相手に

チャット

- ○画面を通して解脱者と さあ 語ろう

フリーソフト

- ○尊師画像
- ○真理紙芝居
- ○転生うらないゲーム

などなど

"オウム真理教ネット" のご紹介

TEL番号	03-5450-5580（4回線） Tri-P利用可能 （CXAUMNET）
通信速度	1200/2400bps
通信条件	BIT-8 PARITY-NONE STOP-1
プロトコル	X-MODEM Y-MODEM(-G)
ゲストＩＤ	GUEST
運用時間	24時間
入会方法	ゲストログイン後、 SYSOPあてメールにて申請

面倒な手続きはいっさいありません。オウムに興味をお持ちの方、聞いてみたいことがある方は、今すぐお気軽にご利用ください。

ただ今、新入会員の方に素敵なプレゼント（『えんじょい・はぴねす』最新号）をさしあげています。

●なお、その他詳細は下記までお問い合わせください。
〒154 東京都世田谷区世田谷２－８－17
"オウム真理教ネット" 事務局　TEL 03-5450-3554

オウム出版刊行案内

尊師説法集　麻原彰晃の世界

麻原彰晃の世界　PART1
幸福に至る四つの実践
B6判　二五〇〇円

尊師説法集第一弾。仏教の基本ともいえる「四預流支」を縦横無尽に説いた画期的な説法群は、魂の解放を願う人はもちろんのこと、幸福な人生を求める人に本当の生き方を指し示す。

麻原彰晃の世界　PART2
尊師、麻原彰晃が斬る!
B6判　九八〇円

願望成就の秘法、UFO&宇宙人、医学、幼児教育、音楽、食養、輪廻転生etc……。麻原尊師の魅力たっぷりの説法に、歌手鹿島とも子さんとの対談も加わってますます充実。

麻原彰晃の世界　PART3
真実、六道輪廻
B6判　九八〇円

六道とは、輪廻とは……。麻原尊師と高弟たちの瞑想体験が証明する六道輪廻の真実。大霊界、チャネリングなどの間違いだらけの死生観に終止符を打つ書。

麻原彰晃の世界　PART4
宗教にだまされるな!
B6判　九八〇円

霊障、水子供養、先祖供養、守護霊……。この世にはびこる間違った観念を打ち破り、正しい意味を説き示す麻原尊師。本当の幸福と心の安らぎを得たいあなたに。

麻原彰晃の世界　PART5
すべてを解き明かすカルマの理法がここに
絶対の真理
B6判　九八〇円

なぜ幸福なのか?　なぜ不幸なのか?
運命の鍵を握る〝カルマの法則〟。すべての人がこの法則に支配されていることを豊富な実例が証明! この一冊があなたを幸福に導く。

麻原彰晃の世界　PART6
今生と来世を幸せに生きるウッタマダンマここに公開!
願望成就の秘法
B6判　九八〇円

思いのままに人生を生きられたらどんなに素晴らしいことだろう……。心からの幸福を願うすべての人々に、麻原尊師が仏教の願望成就の秘法をそっと伝授する。

麻原彰晃の世界　PART7
仏教真理・八正道
B6判　八〇〇円

原始仏教の根幹をなす教え「八正道」。仏教の基礎ともいえるサキャ神賢直説の教えを、麻原尊師が正確かつ現代人にわかりやすく説く。従来の仏教解説書では得られない生き生きとした教えを再現!

麻原彰晃の世界　PART8
仏教真理・六波羅蜜
B6判　八〇〇円

在家修行者の修行を飛躍的に進める六つの極限「六波羅蜜」。「八正道」と並び、仏教の根幹をなす教えを、ただ一人の最終解脱者麻原尊師が正確かつ鋭く、わかりやすく説いた。

麻原彰晃の世界　PART9
尊師、聖地インドを行く
B6判　七五〇円

サキャ神賢悟りの地、初転法輪の地、入滅の地等を巡りながら、麻原尊師が真理の法を説く。仏教発祥の地、インドで説かれた尊師の教えの集大成登場！　サキャ神賢のヴァイブレーションを受けて、最高の奥儀もここに公開される。

麻原彰晃の世界　PART10
あなたを絶対幸福へと導く仏教の真髄
仏教真理・五蘊無我
B6判　六五〇円

わたしたちを構成する五つの要素（五蘊）を浄化し、愛欲界を超えてブラフマンの世界へ、そして、最終的には完全に止滅し、不死へと至る教えを集大成した瞑想家待望の書。

麻原彰晃の世界　PART11
大人気を呼んだ尊師大学講演会特集
自己を超えて神となれ！
B6判　八二〇円

東大をはじめ京大、気象大など、九一年の大学祭で大反響を巻き起こした麻原尊師講演会。その、仏教のエッセンスを巧みに説いた講話に加え、人気を博した質疑応答も掲載した話題の書。

麻原彰晃の世界　PART12
仏教真理・十二縁起
B6判　六二〇円

サキャ神賢が説かれた、絶対自由・絶対幸福・絶対歓喜へと至る「十二縁起の法」。このプロセスを自ら体験された最終解脱者・麻原尊師が、詳細に解き明かす「十二縁起の法」の真実。

麻原彰晃の世界　PART13
麻原尊師インタビュー特集
これが尊師！
B6判　五七〇円

麻原尊師が最終解脱者の純粋観照智によって、宗教・人生論・宇宙観・科学など、あらゆる分野にメスを入れる。「朝まで生テレビ」にも出演し、話題を呼んだ尊師の生の声を一挙掲載！

麻原彰晃の世界　PART14
これがオウム真理教
宗教の条件
B6判　五七〇円

今、本物が明らかになる！　真の宗教の条件とは？　宗教ブームといわれる中、様々な宗教団体の中から間違いなく本物の宗教を選び出すための条件を、あますところなく説き示す一冊。

麻原彰晃の世界　PART15
仏教実践における在家幸福への道
絶対幸福への道
B6判　六二〇円

最終解脱者・麻原尊師が、幸福になるための最速・最短の道をあなたに伝授する！　あなたを確実に幸福へと導く秘法が満載された在家修行者座右の書、ついに登場！

麻原彰晃の世界　PART16
麻原彰晃　方便品
B6判　七二〇円

難解な仏教の比喩・奥儀が現代的に説き明かされた！　麻原尊師が巧みな方便でわかりやすく解説。読んで、考え、実践するための、本物のお経を公開！

マハーヤーナ・スートラ
PART2

B6判 二一〇〇円

「南伝大蔵経」に遺されたサキャ神賢の教えと真理を現代に甦らせる尊師の説法。そして、法にのっとって実践した弟子たちの体験談。読んで、考え、実践するための「本物のお経」がここに。

すべてが思いのままになる
超能力秘密の開発法
新・増補大改訂版

B6判 一二六〇円

超能力のつかない修行はニセモノだ！ すべてが思いのままになる縦横無尽の神秘の力があなたのものに。驚異の神秘力を有する麻原尊師が、秘密の修行を惜しみなく公開！

原始仏典講義一

A5判 二五〇〇円

どんな学者も修行者も説き明かせなかったサキャ神賢の真理の法を、最終解脱者・麻原彰晃尊師が鋭く解説。いにしえの真実が、ここに生きた教えとして復活した！

真理勝者　絶対最勝の法則
タターガタ・アビダンマ
すべての真理を内在した史上最強の法則

第一誦品
大宇宙の実相・改訂版

B6判 一三〇〇円

麻原尊師の修行体験と原始仏教などをベースに確立されたオウム真理教の教義をやさしく教えるオウム真理教入門書第一弾！ 真実の宇宙観と魂の落下のプロセスを詳述する。

第二誦品
真理勝者の救済計画

B6判 五五〇円

日本で初めて、サキャ神賢が説いた全体系が明らかにされる！ 魂が救済されていくプロセスと解脱への道程を段階的に詳しく紹介。わたしたちの歩むべき道を的確に指し示す最高の教えが満載！

第三誦品
サキャ神賢の在家信徒の実相

B6判 一五〇〇円

あの真理勝者サキャ神賢の時代、果たして在家の信徒たちはどのような修行をしていたのか？ 悩める現代人に贈る、麻原尊師からのメッセージ。

第四誦品
真理のすべて

B6判 二〇〇〇円

サキャ神賢が説かれた「真理の法則」のすべてを、麻原尊師がここに明かす！ あの「初転法輪（法則の車輪の発生）」を含む「諦相応（絶対の真理に関係づけられた経典）」が、日本初のパーリ原典完全訳でついに登場！

パーリ語文法入門書
PALI MADE EASY
パーリ　メイド　イージー

A5判 一八〇〇円

Ven. E. Ānanda Maitreya Mahānāyaka Thera, D.Litt. 著

スリランカ最高の叡智、アーナンダ・マイトリー高弟が、難解とされてきたパーリ語文法をわかりやすく解説。豊富な例と例題で実力が養える。仏典を原典で学びたい方には必携のパーリ語入門書。

本部・各支部ご案内

富士山総本部　0544(54)1267
〒418-01　静岡県富士宮市人穴381-1
東京総本部　03(5467)2745
〒107　東京都港区南青山7-5-12
マハーポーシャビル2,3F
世田谷道場　03(3327)8565
〒156　東京都世田谷区赤堤2-42-5
杉田村松ビル1F
杉並道場　03(3396)9393
〒167　東京都杉並区下井草4-4-4
井口ビル2F
札幌支部　011(241)4938
〒060　北海道札幌市中央区北2条西2丁目
19-1 チサンホテル本館2F
仙台支部　022(268)3904
〒982　宮城県仙台市若林区河原町
1-4-20 十全会ビル2F
水戸支部　0292(26)8044
〒310　茨城県水戸市中央2-2-1
HDビル6F
高崎支部　0273(46)1573
〒370-12　群馬県高崎市倉賀野町
下稲荷前1081-5
船橋支部　0474(66)4965
〒274　千葉県船橋市新高根6-26-18
横浜支部　045(243)8079
〒231　神奈川県横浜市中区若葉町3-41-2
コスモ伊勢佐木長者町ビル204
金沢支部　0762(51)8457
〒920　石川県金沢市京町25-20
ソフトオフィスビル2+4 2F
松本支部　0263(28)7429
〒399　長野県松本市芳川野溝527-3
福井支部　0776 (26) 6145
〒910　福井県福井市御幸3-3-41
東伸ビル2F
名古屋支部　052(252)0709
〒460　愛知県名古屋市中区栄5-8-14
万国ビル3F
京都支部　075(371)3759
〒600　京都府京都市下京区堀川通り
松原上ル五軒町384 松本ビル2F

大阪支部　06(251)4264
〒541　大阪府大阪市中央区久太郎町3-2-15
マルイビル1F,B1F
堺支部　0722(21)1843
〒590　大阪府堺市海山町4-168-9
和歌山支部　0734(24)2859
〒640　和歌山県和歌山市駿河町42
和歌山酒販会館2F
広島支部　082(264)6250
〒732　広島県広島市南区西蟹屋4-4-18
和田ビル3F
高知支部　0888(84)8286
〒780　高知県高知市はりまや町2-8-8
安藤ビル2F
福岡支部　092(474)2877
〒812　福岡県福岡市博多区博多駅前
2-6-15 第一渡部ビル6F
那覇支部　098 (869) 7707
〒902　沖縄県那覇市安里2-4-12
嘉数グラビアハイツ5F
深谷出張所　0485(74)6205
〒366　埼玉県深谷市萱場441-8
渋谷出張所　03(3476)5065
〈〒150〉 東京都渋谷区道玄坂1-15-3
プリメーラ道玄坂317号

〈海外支部〉
ニューヨーク支部　212(421)3687
8 East 48th St. #2E (2nd Floor),
New York, N.Y. 10017 U.S.A.
ボン支部　(0228)616647
Auf dem Hügel 48, Endenich, 5300
Bonn 1, S.R.Germany
スリランカ支部 (AUM SACCA
SAṄGHA ASSOCIATION)
Horahena, Watte, Angulugaha,
Galle, Sri Lanka
モスクワ支部　7-095-455-95-32
Kindergarten No.468, 32A
Petrozavodskaya ul. Moscow,
125475 Russia

根源仏典11
真理の流れに入ることに関係づけられた経典
（ソーターパッティ・サンユッタ）

一九九三年七月二十日　初版発行

定　価　一〇〇〇円
責任監修　真理の御魂（みたま）　最聖　麻原彰晃尊師
発行者　松本知子
　　　　石井久子
発行所　株式会社オウム
東京都世田谷区世田谷二－八－一七
郵便番号　一五四
電　話　〇三（三四三九）六〇四三
振　替　東京二－一〇九三二五

乱丁・落丁がありましたらお取り替えいたします。

ISBN4-87142-083-3 C0315 P1000E

根源仏典
11

真理の流れに入ること
に関係づけられた経典
Sotāpatti-Saṁyutta

ISBN4-87142-083-3 C0315 P1000E
定価1000円(本体970円)